

○ 平成 30 年度事業実施状況概要

1 事業実施概要

平成 27 年 3 月に発足した「法人の財源基盤の確立及び中長期計画の策定委員会」は、平成 28 年 3 月に取りまとめた中長期計画の報告書において、計画期間は、平成 28 年度から令和 3 年度までの 6 年間とし、平成 28 年度から平成 30 年度までを前期、平成 31 年度から令和 3 年度までを後期とすることとした。なお、同委員会では、この前期 3 年間における計画進捗の確認作業を始め、引き続き後期に向けて多くの課題を抱えていることを共有した。

また、1 年間の更新を経て平成 31 年度に指定管理の最終年度を迎える「港区立障害保健福祉センター等の各種事業」については、令和 2 年度以降の指定管理事業者の選定結果を受け止め、法人が丸となりその対応に鋭意取り組むこととした。

2 本年度の重点計画に基づく事業の実施状況

(1) 安定的財源基盤の確立

2 年後の竣工を目指す「友愛荘の移転改築事業」では、東京都の老人福祉施設整備費補助審査の基準に基づく補助金、福祉医療機構からの資金借入れ条件として、法人全体の収支差額が 3 年間継続して黒字であることが望ましいとされており、本年度も収支差額は極めて厳しい状況の中、辛うじて僅かな黒字となった。赤字の事業については、様々な工夫により支出を抑えるとともに利用率向上により収入増を図ることが引き続き最優先課題となった。

(2) 各施設の建替え計画の具体化

世田谷施設における重度障害者の入所支援強化を目指す施設整備については、東京都及び世田谷区の福祉計画等に関する情報収集と分析を行い、財源及びその確保策を踏まえた施工スケジュールを具体化することとしていたが、友愛園が計画通り入所者を確保できなかったため財源確保の目処が立たず、4 月に友愛デイサービスセンターが友愛園 1 階部分に移転したと併せて、当面は既存の建物の有効活用を優先することとした。

築 44 年を迎える友愛荘は、「2 年後の移転改築」に向け、詳細な資金計画に基づく協議書を東京都に提出し、法人本部が担当部署との連携により移転改築を積極的に推進した。

築 53 年を迎える東京聴覚障害者支援センターは、東京都が設置する民間施設の運営事業者評価委員会において、令和 2 年度には「移転改築計画」を提示する必要がある、東京都の担当部署との協議をとおして、引き続き移転候補地等について情報を収集することとした。

(3) 地域における公益的活動の推進

法人本部を置く世田谷区では社会福祉協議会が事務局となり「地域公益活動協議会」を立ち上げて活動の「見える化」を推進しており、同協議会においては、砧地域包括支援センター長が企画委員として参画し、区内の社会福祉法人を区民に広報するための「知っ得情報ガイド」を発行した。また、東社協の東京都高齢者福祉施設協議会が推進する「つながれ ひろがれ ちいきの輪 inTOKYO」のキャンペーンに、友愛荘が「ゆうあいマルシェ」を、砧ホームが「ふれあい祭り」を地域との連携活動として登録し、都民への地域貢献について広報に努めた。

(4) 人材確保と人材育成

1 年後の指定管理受託を目指す「南麻布におけるパオの拡張等」と、2 年後の「友愛荘移転改築（増床）」において、人材の確保が極めて大きな課題となった。あらゆる業界で人材不足が深刻化する中、法人内に新たに「リクルート推進室」を立ち上げた。まずは各事業所から推薦を受

けた職員がプロモーターとして職員採用のためのパンフレットを作成し、同メンバーが新卒者採用に向け、大学・短大・専門学校を訪問する等、様々なアプローチを図ることとしたが、更なる人材不足等により年度内の活動は実現できなかった。また、在職中の職員が友人等を法人に紹介して採用に至った場合に支給する「職員採用協力手当」を創設したところ、数名の対象者があり今後の人材確保に期待できる手当制度となった。一方で、法人理念に基づく職員の階層別研修体系を再構築し、初任者研修を含め「中堅職員研修」「リーダー研修」「役職者研修」「管理者研修」を開催した。

(5) 大震災対策の推進

首都直下型地震の発生が想定される中、利用者や職員はもとより近隣の被災者を支援するために、各事業所は福祉避難所としての機能を求められており、図上訓練や実働訓練を通して定期的な見直しを推進した。

(6) 各事業の主な計画（設備の更新改修等を含む）

① 世田谷施設

重度障害者の入所事業を強化する方針の下、世田谷区や東京都の所轄及び専門業者と十分な協議を図り施設整備を具体化する計画は、多くの事業が赤字を見込む結果となったため当面保留することとした。敷地内の区道の処理についても保留状態を維持することとなった。

② 世田谷更生館

就労移行支援事業では、新たな就労移行支援プロセスによるサービス提供を開始し、当事業の本旨である「一般就労の実現」に専心した結果、後期に企業実習を経て2名の利用者が一般就労を実現した。

就労継続支援B型事業では、計画的に「仕事の確保」と「利用者工賃の向上」に注力した結果、受注は順調に推移し、就労支援事業収入は期首予算28,320千円に対し28,789千円(101.6%)となった。支給工賃年間平均時給は目標値の323.4円を上回る349.7円となったほか、より一層の工賃向上を目指すために「世田谷区障害者施設受注拡大・工賃向上推進事業補助金」による補助を受け、ラッピング工程の機械化を目的とする生産設備を導入、生産性向上・受注量の拡大を推進する体制を整備した。

安定的な事業経営を推進するため、利用率の維持を目標として計画的に新規利用者の受け入れを進めたが、就職や高齢者施設への移行、死去等による退所者が見込みよりも多く、利用率の向上が来年度に向けて、喫緊の課題として残った。

③ 友愛園

在籍利用者39名を50名とする目標は、入所10名と退所4名により45名に留まったが、収支差額は結果的に黒字化を実現した。また、これまで受入れ実績のない最重度「支援区分6」の利用者が、「新規に3名」と「区分見直しの1名」で計4名となり、支援区分の平均値は前年度末3.6が4.0となり重度者の受入れ対応が進捗した。

なお、新たな友愛園の建替え構想は、自己資金の不足等により当面見送ることとした。一方で、平成29年に女性浴室の給湯管から漏水が起きたが、今年度はその修繕費用が捻出できず男性浴室の時間調整による使用を継続した。入浴介助が必要な利用者が急増しているため、浴室の修繕は次年度に最優先で実施することとした。

④ 東京聴覚障害者支援センター

前年度より引続き、各事業の協力体制を見直し取り組んだことにより、B型事業工賃が前年比率で220%アップした。しかし金額的に都の平均賃金より低いため、向上に努力していく。

施設設備の経年劣化が出始めている。漏水のため、埋設水道管の一部修繕を行った。

事業の柱である、地域移行への取り組みを行い、2名を地域移行に結び付けることができた。

⑤ コーポ友愛

入居希望者の増加に伴い長期間利用実績のなかった世帯部屋1室を、希望する単身者に貸し出せるよう前年度に清掃整備を行っていたが、5月より入居希望者を獲得し現在まで空き部屋のない満室状況が続いている。

安全・安心の観点から、防災対策として各部屋に設置している電磁調理器を過熱防止の温度センサー付きに入れ替え、防災カーテンを新たに各部屋に設置した。また、防犯対策として、5階の通路に防犯カメラを設置した。

⑥ 友愛デイサービスセンター

生活介護事業は、4月から事業スペースを別館2階から友愛園1階へ移設し、大幅な業務の効率化とサービスの向上を図ることができた。

短期入所事業は、12月に家族懇談会を初めて実施した。出席者からは希望日に利用できないとの多くの意見を頂き、次年度より体制を見直すこととした。

⑦ 友愛ホーム

年間利用率が目標値97.0%に達し、収支は3期連続で黒字を達成した。利用者支援では、個別音楽セラピーが定着し既存のクラブ活動（集団活動）に馴染みにくい利用者の支援プログラムが充実した。設備整備では、老朽化した男性浴室扉及び女性浴室扉の改修工事や利用者への情報発信ツールとして3階デイルーム及び4階食堂にデジタルサイネージ（大型ディスプレイ）を新たに設置した。

⑧ 友愛荘

移転改築に向けた事務手続きでは、住民説明会においても反対意見はなく、予定通り進めることができている。老朽化による不具合については、対処療法的な修繕で対応している。

事例研究発表では、法人で理事長賞、町田市で市長賞を受賞することができ、職員の自信につながった。

⑨ 砧ホーム

人材確保の厳しさが増し、3階5床運転再開の目処は立たず一部の事業計画の遂行にも影を落としたが、事故発生件数の減少やアクティブ福祉in東京での4年連続受賞など、サービスの質や専門性の向上において目に見える成果が出た。また、東京都の次世代介護機器の活用支援モデル施設として活動し、年間50組300名以上の見学者に対応するなどその使命を果たした。

⑩ 砧デイサービスセンター

平成30年度は、介護保険法改正と、事業規模区分が「大規模Ⅱ」になり二段階の単位数減となった。「多目的トイレ」及び「浴槽」の改修工事と「砧介護保険サービス事務室の移転に伴う脱衣室の移設工事」による支出と、本館1階のトイレ改修と本部人件費の負担増加が、収支差額改善への大きなブレーキとなった。1日平均要介護利用者数は38名/日となり、予算43名/日を下回った。しかし、利用者数については、平成27年度平均利用者数28.0名/日から、1日あたり10.0名増と着実に成果は上がってきた。

また、「職員の妊娠を契機とした職場環境改善」と「法人内の各事業連携による地域福祉発展の可能性」について事例研究発表研修で2事例を報告し、優秀賞と特別賞を受賞することができ、モチベーションの向上を職員一同で実感することができた。

⑪ 港区立障害保健福祉センター 地域活動支援センター

8月に初めて夏祭りを開催し、近隣住民を含め約100名の参加者があり盛り上がりを見せた。今後もセンターの定例事業として定着を図る。入浴は「季節湯」の提供が利用者から好評を得

て、非常に高い顧客満足度の評価を得た。自立訓練では支援者向けに「プール活動支援者講座」を開催し、4名のヘルパーと1名の家族の参加があり、利用者支援への自信につながった。

⑫ こども療育パオ

月2回土曜日に個別相談を開始した。両親で来所する家庭が増加し、家庭全体の状況を把握した上で相談に応じることができた。また待機児対策として月3回程度指定日通園に準じた支援を行なった。重症心身障害児通園事業（医療的ケア児）に通園する年長児に対して、就学を見据えた支援として、1日の利用人数が定員未満の日に通園できる日を増やした。

⑬ 工房アミ

支援内容別のクラス編成を見越して、アート活動で利用者個別の障害特性によるグループ分けを行い活動したほか、外出活動も課題別に実施した。

職員28人中、27人が外部研修または他事業所の見学、実習等に参加できた。また、全職員を対象に「障害者虐待防止法の理解と対応」（厚生労働省版）の読み合わせと、虐待防止に関するセルフチェックを行うと同時に、管理者も体制整備に関するチェックを行い虐待発生の予防に努めた。

⑭ みなとワークアクティ

今年度、職員の約半数の3名が入れ替わったが、事業計画は概ね予定通り実行することができた。特に、受注事業の新規獲得は作業メニューの増加につながり、利用者に合った作業及び安定した作業量を提供することができた。

⑮ レスパイト事業等

体制の整備と業務効率化を行い、事業所の体系化や機能が向上した。結果として、積極的なご案内ができ、利用実績は昨年よりも83件増加した。また、危機管理の強化や安全・安心な支援提供を継続的に取り組み、顧客満足の向上に努めた。更に、研修参加や勉強会開催なども意欲的に実施し、職員の利用者支援に対する意識・知識ともに大きく向上した。

⑯ 砧地域包括支援センター（砧あんしんすこやかセンター）

地域包括支援センター運営委託事業者のプロポーザルに応募し、平成31～令和6年度の受託として選定された。世田谷区が目指す地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域ケア会議の開催などを行った。

⑰ 第一作業所（友愛書房）

大量注文書籍等の割引率を10%にしていたが、利潤が少しでも得られるように仕入価格によって割引率を勘案し販売価格を変更した。

⑱ 砧介護保険サービス

7月に退職があり欠員を生じたが、翌月には未経験者だが補充が叶い育成も順調に進めることができ、年度当初の状態にまで体制を立て直すことができた。

3 平成30年度 社会福祉法人友愛十字会「方針書（目標）」に対する結果

区分	方針 No	方針内容	対象	目 標	
				管理項目	目標値と結果
A 経営 財務	A 1	安定的財源基盤 の確立	法人本部 全 事 業	港区立障害保健福祉センター 指定管理受託へのプレゼンテ ーション	受託申請書提出済 プレゼンテーション終了(結果 待ち)
	A 2	各施設の建替え 計画の具体化		事業収支差額改善の対策	対前年比プラス達成
				世田谷施設敷地内の区道処理 及び重度障害者入所支援強化 に伴う施設整備における情報 収集と分析	補助金・借入返済計画等の設計 業者を交えた具体化、区道処理 と入所支援強化関係いずれも 保留
				友愛荘の移転建替え事業の 推進 東京聴覚障害者支援センター の移転改築計画	方針及び施工スケジュールの 具体化では、友愛荘は2021年 4月移転開設に向け手続き中 だが、聴覚センターは検討中
B 品質	B 1	地域における公 益的活動の推進	法人本部 全 事 業	公益活動の具体化	活動実践では世田谷区内の「知 っ得情報」誌を発行済
C 人材 育成	C 1	計画的な人材確 保・人材育成の 実施	法人本部 全 事 業	採用計画の策定 階層別職員研修の再構築 人事評価制度の見直し	本部に「リクルート推進室」を 新設したが活動は遅滞中、新た な階層別研修は実施済
E その他	E 1	大震災対策の 推進	法人本部 全 事 業	大震災を想定した地域住民と の定期的な連携訓練	継続実施と訓練内容の見直し は各地域で実践中

4 各種計画の状況

(1) 主な会議の開催状況

名 称	目 的	開催頻度	開催実績
評 議 員 会	法人の経営上の重要事項に関する審議議決を行い、業務執 行の基本方針を決定する。	年3回	2回開催
理 事 会		年3回	4回開催
経 営 会 議	法人の経営上の重要事項に関する課題別作業委員会を発足 し、その報告を基に業務執行の基本方針を審議する。	毎 月	11回開催
経 営 委 員 会	同 上	適 時	4回開催
全 施 設 長 会 議	法人各施設の運営に関する重要事項の審議と各施設間の情 報交換及び連絡調整並びに ISO 9001:2008 要求事項の「マ ネジメントレビュー」（世田谷施設は別途開催）	毎 月 (毎週)	12回開催 (25回開催)
MS(マネジメントシステム) 検 討 委 員 会	業務の標準化に関する計画立案と推進	年6回	2回開催
教 育 委 員 会	職員教育に関する計画立案と推進	年6回	6回開催
苦 情 解 決 委 員 会	各施設が提供する福祉サービスに係る利用者等からの苦情 の円満解決を図る	適 時	無
衛 生 委 員 会 (従業員50名以上必置)	衛生に関する事項の審議と推進（本部世田谷施設・港センター）	毎 月	12回開催
安 全 委 員 会	安全に関する事項の審議と推進（本部世田谷施設のみ）	年6回	5回開催
男女共同参画委員会	男女共同参画に関する計画立案と推進（本部のみ）	年6回	6回開催

(2) 防災訓練の状況

以下を計画通り実施した。

月	世 田 谷 施 設		東京聴覚障害者支援センター		友 愛 荘		港区立障害保健福祉センター	
	時間	出火場所	時間	出火場所	時間	出火場所	時間	出火場所
4	夜間	砧ホーム	昼間	防災センター体験	昼間	図上訓練	昼間	(消防設備、避難路確認)
5	夜間	友愛ホーム	昼間	消火訓練 (中庭)	昼間	2 F 居室	昼間	(各事業所での避難訓練)
6	昼間	友愛デイ	夜間	B 棟 2 階居室	昼間	地震		7 月に合同実施
7	夜間	コーポ友愛	昼間	講話・防災ビデオ	昼間	1 階洗濯室	昼間	4 階・5 階(出火想定)
8	昼間	砧デイ	昼間	B 棟 2 階喫煙室	夜間	合同防災訓練	昼間	7 階(出火想定)
9	昼間	友愛ホーム (砧町会合同)	昼間	B 棟 2 階ボイラー	夜間	3 階スタッフルーム	昼間	3 階(出火想定)
10	夜間	友愛園	昼間	A 棟 2 階居室	昼間	参集・炊き出し訓練	昼間	1 階(地震・津波想定)
11	昼間	世田谷更生館	昼間	合同防災訓練	夜間	2 階スタッフルーム	昼間	総合防災訓練・2 階
12	夜間	友愛デイ	夜間	A 棟 3 階居室	夜間	地震		実施なし
1	昼間	コーポ友愛	昼間	講習(図上訓練)	教育	AED 講習	昼間	8 階(出火想定)
2	昼間	砧ホーム	昼間	B 棟 2 階娯楽室	昼間	3 階居室	昼間	防犯訓練
3	昼間	友愛園	昼間	地区防災訓練参加	昼間	水害・土砂		訓練振り返り
世田谷施設は成城消防署、東京聴覚障害者支援センターは志村消防署、友愛荘は町田消防署、港区立障害保健福祉センターは芝消防署の協力を得て実施した。なお、世田谷施設は 9 月に砧町会と、東京聴覚障害者支援センターは 11 月に板橋区・地元町会と、友愛荘は 8 月に図師町内会・町田福祉園と合同での防災訓練を実施した。								

(3) 教育の状況

分 類	内 容	開催日及び参加者数
階層別教育	新入職員オリエンテーション 8時間×1日 初任者研修 8時間×1日 中堅職員研修 8時間×1日 管理者研修 8時間×1日 役職者研修 8時間×1日 初任者フォローアップ研修 8時間×1日 チームリーダー研修 8時間×1日	平成30年4月3日 32名 6月27日 25名 11月29日 21名 平成31年1月29日 13名 2月7日 29名 2月21日 22名 3月12日 32名
事例(研究) 発表研修	業務改善事例や研究成果の発表を通じて、職員の専門技術や業務改善・改革に向けた資質の向上を図った。 【発表題目】 ①友愛荘：「特養からの卒業」 ～病院・老健から入所された利用者の在宅復帰支援について～ ⇒理事長賞 ②友愛デイサービスセンター：「65歳の壁」 ～障害福祉サービスのその後を考える～ ③砧デイサービスセンター：「地域共生社会への第一歩」 ～友愛Potential Explosion! (友愛十字会の底力、大爆発!)～ ⇒特別賞 ④砧ホーム： 「砧ホームにおける介護専門職を中心とした組織づくりと その効果について」 ～他職種努力なくして介護職の成功はないが、 介護職の成功なくして他職種の成功はない～ ⑤砧デイサービスセンター： 「働きながら安心して妊娠・出産を迎えるための『職場づくり』」 ～私にもできる私にしか出来ないお仕事の宝探し～ ⇒優秀賞 ⑥友愛デイサービスセンター： 「友愛デイサービスセンターにおけるリスクマネジメント」 ～平成27年度からの取り組み～ ⑦港区立障害保健福祉センター レスパイト：「あしたのために」	平成30年9月25日 発表7件 発表者12名

(4) 苦情解決の状況

「友愛十字会苦情解決規定」の定めに相当する苦情の申入れは無かった。

(5) 「友愛十字会標準 (Y S)」の整備状況

單位：件數

大 分 類 番 号	内 容	29 年度末 保有件数	本年度の整備状況			30 年度末 保有件数
			制定	改定	廃止	
0	総 則	6	0	0	0	6
1	品質マネジメントシステム	28	0	2	0	28
2	業務管理マニュアル	146	0	1	5	141
3 A	指導票・解説書類(施設別)	765	6	42	3	768
4	規程・規則類	59	3	23	0	62
	合 計	1004	9	68	8	1005

第1 法 人 本 部

1 役員・評議員等の状況

(1) 役員及び評議員

平成30年5月30日に開催された第1回理事会において、理事の江原徳至氏が港区立障害保健福祉センター担当の常務理事に選任された。(平成30年6月1日付)

区 分	定 数	平成29年度 末の現在員数	平成30年度の異動		平成30年度 末の現在員数
			新 任	退 任	
理 事	6～8	7	0	0	7
監 事	2	2	0	0	2
評議員	7～9	8	0	0	8

(2) 総裁及び顧問等

平成30年11月27日に開催された平成30年度第3回理事会において、蒲原基道氏が顧問に選任された。(平成30年12月1日付)

区 分	総 裁	顧 問	参 与
平成30年度現在員	1	1	2

(3) 平成30年度末の役員等の氏名(敬称略)

区 分	氏 名
総 裁	瑤子女王殿下
会 長(評議員)	佐々木 典夫
顧 問	蒲 原 基 道
理 事 長	小 林 和 弘
常務理事	金 井 博 江 原 徳 至
理 事	金 澤 弘 道 多久島 耕治 三 根 武 山 崎 敏 (7名)
監 事	高 梨 智 弘 田 中 敏 雄 (2名)
評 議 員	秋山 由美子 江 藤 文 夫 遠 藤 浩 金井Pak 雅 子 川 崎 裕 康 岸 田 宏 司 佐々木 典夫 藤 崎 誠 一 (8名)
参 与	石 井 晃 墨野倉 克則 (2名)

(4) 平成30年度末の評議員選任・解任委員の氏名(敬称略)

区 分	氏 名
監 事	高 梨 智 弘
外 部 委 員	岩 井 雄 一 大 島 公 子
事 務 局 員	村 上 正 裕 宮 崎 浩

(5) 職員の採用及び退職等

事業所名	職員区分	平成29年度		平成30年度			
		年度末(3月31日)		4月1日～3月30日の		年度末(3月31日)	
		人員数	3月31日付退職及び異動減員	採用及び異動増員	退職及び異動減員	人員数	3月31日付退職及び異動減員
法人本部事務局	常	9名		2名		11名	
	非						
世田谷更生館	常	10名				10名	
	非						
友愛園	常	15名	2名	5名	1名	17名	2名
	非	2名	1名	4名	1名	4名	1名
東京聴覚障害者支援センター	常	10名				10名	
	非	12名		2名		14名	
コーポ友愛	常	1名				1名	
	非						
友愛デイサービスセンター	常	9名	1名	1名		9名	
	非	4名	1名		1名	2名	
友愛ホーム	常	13名	1名	2名	3名	11名	
	非	4名			1名	3名	
友愛荘	常	36名	3名	14名	11名	36名	3名
	非	20名	1名	5名	6名	18名	1名
砧ホーム	常	32名	1名	2名	6名	27名	1名
	非	7名	1名	2名	1名	7名	
砧デイサービスセンター	常	14名		1名	1名	14名	
	非	8名		2名	2名	8名	
港区立障害保健福祉センター 地域活動支援センター	常	22名		5名	3名	24名	2名
	非	9名		2名		11名	2名
工房アミ	常	38名	2名	8名	3名	41名	2名
	非	1名	1名	1名		1名	
こども療育パオ	常	32名	3名	9名	3名	35名	5名
	非	8名	3名	7名	3名	9名	1名
みなとワークアクティ	常	7名		4名	4名	7名	
	非						
砧地域包括支援センター	常	8名		1名	1名	8名	
	非			1名	1名		
友愛書房	常						
	非	3名				3名	
砧介護保険サービス	常	2名		1名	1名	2名	
	非						
合計	常	258名	13名	55名	37名	263名	15名
	非	78名	8名	26名	16名	80名	5名

- 備考 1 各施設の職員数欄の上段は常勤職員、下段（網掛け部分）は非常勤職員を掲載している。
- 2 法人内の施設間の異動は、便宜上表中の「採用」欄に「転入」を、また、「退職」欄に「転出」を含めて計上している。

2 役員会の状況

(1) 平成 30 年度第 1 回理事会

- ① 開催日 平成 30 年 5 月 30 日(水)
- ② 開催場所 成城ホール 4 階 集会室 D (東京都世田谷区成城 6-2-1)
- ③ 議案
 - 第 1 号議案 平成 29 年度事業報告 (案) について
 - 第 2 号議案 平成 29 年度各会計収支決算 (案) について
 - 第 3 号議案 諸規程の一部改正 (案) について
 - (1) 組織及び職制規程
 - (2) 職務権限規程
 - (3) 砧デイサービスセンター「運営規程」
 - 第 4 号議案 常務理事の選任について
 - 第 5 号議案 友愛荘の移転改築について
 - 第 6 号議案 定時評議員会の招集事項の決定について (案)

(2) 平成 30 年度第 1 回評議員会 (定時評議員会)

- ① 開催日 平成 30 年 6 月 22 日(金)
- ② 開催場所 成城ホール 4 階 集会室 D (東京都世田谷区成城 6-2-1)
- ③ 議案
 - 第 1 号議案 平成 29 年度事業報告 (案) について
 - 第 2 号議案 平成 29 年度各会計収支決算 (案) について

(3) 平成 30 年度第 2 回理事会

- ① 開催日 平成 30 年 9 月 11 日(火)
- ② 開催場所 成城ホール 4 階 集会室 D (東京都世田谷区成城 6-2-1)
- ③ 議案
 - 第 1 号議案 友愛荘の移転改築に伴う事業費・資金調達等 (案) について
 - 第 2 号議案 諸規程の一部改正 (案) について
 - (1) 職務権限規程
 - (2) 社会福祉法人友愛十字会就業規則
 - (3) 社会福祉法人友愛十字会給与規程
 - (4) 社会福祉法人友愛十字会非常勤職員就業規則
 - (5) 社会福祉法人友愛十字会育児休業規程
 - (6) 社会福祉法人友愛十字会介護休業規程
 - (7) 社会福祉法人友愛十字会再雇用職員就業規則
 - (8) 経理規程

(4) 平成 30 年度第 3 回理事会

- ① 開催日 平成 30 年 11 月 27 日(火)
- ② 開催場所 成城ホール 4 階 集会室 D (東京都世田谷区成城 6-2-1)
- ③ 議案
 - 第 1 号議案 諸規程の制定 (案) 及び一部改正 (案) について

1 制定

(1) 港区立障害保健福祉センター自立訓練（機能訓練）事業運営規程

2 一部改正

(1) 会長及び参与報酬規程

(2) 社会福祉法人友愛十字会給与規程

(3) 社会福祉法人友愛十字会非常勤職員就業規則

第2号議案 人事案件について

(5) 平成30年度第4回理事会

① 開催日 平成31年3月18日(月)

② 開催場所 友愛十字会本館1階第2多目的室（東京都世田谷区砧3-9-11）

③ 議案

第1号議案 平成30年度各会計収支補正予算（案）について

第2号議案 平成31年度事業計画（案）及び平成31年度各会計収支予算（案）について

第3号議案 諸規程の一部改正（案）について

(1) 社会福祉法人友愛十字会就業規則

(2) 社会福祉法人友愛十字会非常勤職員就業規則

(3) 友愛園「運営規程」

(4) 指定介護老人福祉施設・指定短期入所生活介護事業所（特別養護老人ホーム）友愛荘運営規程

(5) 指定介護老人福祉施設・指定短期入所生活介護事業所（特別養護老人ホーム）砧ホーム運営規程

(6) 港区立障害保健福祉センター運営規程

(7) 港区立障害保健福祉センター地域活動支援センター運営規程

(8) 港区立障害保健福祉センター指定相談支援事業所運営規程

(9) 工房アミ運営規程

(10) 港区立障害保健福祉センターみなとワークアクティ運営規程

第4号議案 施設長等の任免及び再雇用について

第5号議案 評議員会の招集事項の決定（案）について

(6) 平成30年度第2回評議員会

① 開催日 平成31年3月25日(月)

② 開催場所 友愛十字会本館1階第2多目的室（東京都世田谷区砧3-9-11）

③ 議案

第1号議案 平成30年度各会計収支補正予算（案）について

第2号議案 平成31年度事業計画（案）及び平成31年度各会計収支予算（案）について

3 本部事業等の実施状況

(1) 障害者支援普及事業

① 第43回合同運動会は、引続き総裁瑤子女王殿下が実行委員長としてご臨席になり、大縄跳びではメダルのプレゼンターをお引き受け下さる等、会場全体を盛り上げていただいた。今年度は、玉入れの代替として、ボッチャのルールを簡素化した競技を「ボッチャチャ」と称して

取組んだが、想定以上に時間がかかってしまう等の課題を確認した。また、引続き「純国産ボイス」の歌の披露や、NPO 法人「ジャパンスポーツコミュニケーションズ」からの資材無償提供等を得て、盛会裏に開催することができた。

ア 期 日 平成 30 年 11 月 18 日（日）

イ 会 場 世田谷区総合運動場体育館

ウ 主 催 合同運動会実行委員会（参加団体）

社会福祉法人友愛十字会、社団法人ガールスカウト東京都第 61 団、ボーイスカウト世田谷第 10 団・11 団、世田谷区 I K K 福祉協会、日本体育大学社会体育研究会、学習院大学應援團、慶應義塾大学ライチウス会、社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会、柏・絆の会、皇宮警察本部皇宮警察音楽隊、皇宮警察本部皇宮警察学校、公益社団法人日本スポーツチャンバラ協会、株式会社ヴォイスアートプロジェクトワイ、NPO 法人ジャパンスポーツコミュニケーションズ

エ 後 援 世田谷区

オ 参加者 672 名 うち当法人参加者は 233 名（34%）であった。

- ② 「第 52 回宮様チャリティボウリング大会」及び「第 42 回障害者ボウリング大会」への協力
引続き、瑤子女王殿下の御臨席を賜わり盛会裏に開催することができた。当法人は、社団法人 日本ボウリング場協会主催の宮様チャリティボウリング大会及び障害者ボウリング大会に協力した。一般の部では、男子 216 名と、女子 94 名が参加した。障害者の部では、男子 86 名、女子 21 名が、プロボウラーから指導を受けた後、障害者の大会でハイレベルな熱戦を展開した。終始、和やかな雰囲気であった。

ア 期 日 平成 30 年 11 月 25 日（日）

イ 会 場 品川プリンスホテルボウリングセンター（港区高輪 4-10-30）

ウ 主 催 日本ボウリング場協会（顧問 佐々木典夫会長）

エ 協 力 社会福祉法人 友愛十字会

オ 参加者 北海道、東北、関東、東海、北陸、関西、中国、四国、九州、沖縄から各地区の予選通過選手及び団体推薦、障害者招待の 310 名が決勝戦に臨み、障害者は関東から四国までの 107 名が参加した。うち、当法人からは、21 名（20%）が参加した。

- ③ 機関紙「ゆうあい」

7 月に No. 47、1 月に No. 48 を各 2,500 冊発行し関係者への送付と外来者等へ配布を行った。

(2) その他の事業

世田谷施設、板橋区の東京聴覚障害者支援センター、町田市の友愛荘及び港区立障害保健福祉センターは、それぞれ地域の町内会・商店会、後援会、ボランティア、施設利用者家族等の参加を得て、相互理解と連携を深めることを目的に次の事業を実施した。

ア 盆踊り大会

(ア) 期 日 平成 30 年 7 月 18 日（水）

(イ) 会 場 友愛十字会内庭

(ウ) 主 催 友愛十字会、友愛十字会後援会

(エ) 協 賛 砧町町会、TMC 通り商店街

(オ) 来場者 2,251 名

イ 友愛ふれあい祭

昨年度に引き続き、三峯神社の例大祭に開催日程を合わせ、御輿を招くことで街ぐるみのイベントとしての発展を目指して開催した。

- (ア) 期 日 平成 30 年 10 月 7 日 (日)
 (イ) 会 場 友愛十字会敷地・施設内
 (ウ) 主 催 友愛十字会
 (エ) 協 賛 友愛十字会後援会、砧町町会、TMC通り商店街等
 (オ) 参加者 1,204 名 (外部のみ)

ウ 感謝の集い

- (ア) 日 時 平成 30 年 12 月 13 日 (金) 15:30～17:00
 (イ) 場 所 世田谷施設 友愛園食堂
 (ウ) 主 催 友愛十字会
 (エ) 参加者 招待者 156 名中の 46 名 (うち後援会会員 52 名中の 6 名)

② 世田谷施設以外の施設

ア 東京聴覚障害者支援センター

- (ア) 盆踊り大会 7 月 28 日 (土)
 (イ) 餅つき大会 1 月 13 日 (日)
 (ウ) ボランティアの受入れ (学習、盆踊り・踊り指導、外出支援、他諸行事の協力)

イ 友愛荘

- (ア) ゆうあい広場 10 月 6 日 (土)
 (イ) 盆踊り大会 8 月 3 日 (金)
 (ウ) 地域合同防災訓練 8 月 30 日 (木)
 (エ) ときわ保育園運動会参加 9 月 22 日 (土)
 (オ) ときわ保育園合同クリスマス会 12 月 14 日 (金)

ウ 港区立障害保健福祉センター

- (ア) ヒューマンぶらざまつり 10 月 28 日 (日)

4 事業所設備の整備状況

本年度、本部及び施設において助成金等で整備を行った状況は、次のとおりである。

(1) 助成金等による整備

(単位：千円)

区 分	整 備 事 項 (助 成 者)	整備を必要とする 理由・内容	請負業者	金 額
世田谷更生館 (授 産)	ラッピング機械 (世田谷区)	作業の生産性の向上のため	成光産業(株)	助成金 984 自 己 0 計 984
計	1 件			助成金 984 自 己 0 計 984

(2) その他の整備 (100 万円以上の事業)

(単位：千円)

区 分	施設整備・設備の名称	設 備 内 容	契 約 者	所要額
砧が 付 び スセンター	本館	浴室改修工事	海藤工務店	2,057
コーポ友愛	本館	浴水浄化装置入替	(株)オヴェール商会	1,782

友愛デイサービスセンター	友愛園	訓練室空調機入替	(有)新井電気工業所	1,043
友愛ホーム	本館	1階トイレ	海藤工務店	979
砧ホーム				979
砧デイサービスセンター				979
計	4件			7,819

5 職員の資格保有状況

(1-1) 施設別資格保有者数（平成31年3月31日現在）

施設名 \ 資格名	介護職員 初任者研修	実務者 研修	介護福祉士	社会福祉士	介護支援 専門員	精神保健 福祉士	正看護師	准看護師	保健師
世田谷更生館		1	2	3	1	3			
友愛園	3	1	8	2	2	1	2		
東京聴覚障害者支援センター			1	3	1	2	1		
コーポ友愛									
友愛デイサービスセンター	4		5	1			1	1	
友愛ホーム	4		6	1	1			2	
友愛荘		10	31	1	8		3	1	
砧ホーム	4		21	2	3		6	1	
砧デイサービスセンター	6		9	1	5		2		
運営管理部・地活センター	5	1	5	5	3	3	6	1	1
こども療育パオ	3		1	5	2	2	3		1
工房アミ	10	3	23	5	3	2	2		
みなとワークアクティ	2		3	2					
砧地域包括支援センター			2	6	5		2		1
砧介護保険サービス			2	1	2				
合計	41	16	119	38	36	13	28	6	3

(1-2) 施設別資格保有者数 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

施設名 \ 資格名	管理栄養士	栄養士	作業療法士	理学療法士	言語聴覚士	あん摩マッサージ指圧師	心理士	保育士	幼稚園教諭
世田谷更生館									
友愛園	1	1	1						
東京聴覚障害者支援センター		1						1	2
コーポ友愛									
友愛デイサービスセンター								1	1
友愛ホーム	1								
友愛荘	1					1			
砧ホーム	1	1				2			
砧デイサービスセンター		1				1			
運営管理部・地活センター	2		3	3	2			2	1
こども療育パオ			2	1	1		4	22	12
工房アミ		1						4	2
みなとワークアクティ								1	
砧地域包括支援センター									
砧介護保険サービス									1
合計	6	5	6	4	3	4	4	31	19

6 事業所の概況

(平成31年3月31日現在)

区 分		施設の種別 (開設年月日)	所 在 地	土 地	建 物	利用者 定 員
社会福祉施設	世田谷更生館 (館長 村上正裕)	指定障害福祉サービス (S37. 9. 28)	法人本部 〒157-0073 世田谷区砧 3-9-11	6,088.55	m ² 2,157.36	(60)
	友愛園 (園長 宮崎 浩)	障害者支援施設 (S53. 5. 1)			2,087.94	60
	コーポ友愛 (ホーム長 村上正裕)	福祉ホーム (H 3. 8. 1)			781.90	20
	友愛サービスセンター (センター長 木村浩二)	身障デイサービス (H 4. 4. 1)			321.76	(20)
	友愛ホーム (園長 酒井健治)	養護老人ホーム (S31.12.24)			2,086.59	70
	砧ホーム (園長 鈴木健太)	特別養護老人ホーム (H 4. 4. 1)			1,865.56	60
	砧サービスセンター (センター長 宮崎 浩)	老人デイサービス (H 4. 4. 1)			540.89	(60)
	東京聴覚障害者支援センター (所長 高橋秀志)	障害者支援施設 (S40. 7. 25)	〒174-0056 板橋区志村2-19-5	(913.78)	(980.47)	30 (10)
	友愛荘 (園長 藤田康子)	特別養護老人ホーム (S49.11. 1)	〒194-0203 町田市図師町989	4,550.80	2,059.80	78
	港区立障害保健福祉センター (センター長 江原徳至)	(H10. 4. 1)	〒105-0014 港区芝 1-8-23	(4380.06)	(24321.61)	(30)
	地域活動支援センター (施設長 小泉貴宏)	地域活動支援センター				(45)
	こども療育パオ (施設長 田口美登里)	療育発達相談				(40)
	工房アミ (施設長 神田市郎)	生活介護事業所				(40)
	みなとワークアクティ (施設長 田村英治)	就労継続支援B型事業所				
計				10,639.35 (5,293.84)	11,910.68 (25,302.08)	318 (305)
事業所	砧地域包括支援センター (センター長 山本恵理)	老人居宅介護等事業 (H18. 4. 1)	〒157-0073 世田谷区砧5-8-18	—	—	—
	第一作業所 (友愛書房) (責任者常務理事 金井 博)	身障法第22条の売店 (S25.12. 1)	〒100-0013 千代田区霞ヶ関 1-2-2 中央合同庁舎5号館B1F	—	—	—
	砧介護保険サービス (センター長 宮崎 浩)	居宅介護支援事業 (H12. 4. 1)	〒157-0073 世田谷区砧3-9-11	—	—	—
合 計				10,505.05 (5,293.84)	11,910.68 (25,302.08)	318 (305)

備考1 土地・建物欄の()は指定管理施設の面積

備考2 東京聴覚障害者支援センターの土地と建物は東京都所有のため()で記載している。

備考3 定員欄の()は通所定員

第2 福祉施設

1 世田谷更生館（指定障害福祉サービス）

1 平成30年度「重点計画事項」の実施状況

就労移行支援事業では、前年度に見直した新たな就労移行支援プロセスによるサービス提供を開始し、当事業の本旨である「一般就労の実現」に専心した結果、後期に企業実習を経て2名の利用者が一般就労を実現した。

就労継続支援B型事業では、事業推進委員会が中心となって、計画的に「仕事の確保」と「利用者工賃の向上」に注力した結果、既存取引先からの受注は順調に推移し、就労支援事業収入は期首予算28,320千円に対し28,789千円（101.6%）となった。

利用者工賃については、個別支援計画を基に利用者が主体的に作業能力評価値の向上に取り組んだ結果、就労継続支援B型事業の支給工賃年間平均時給は目標値の323.4円を上回る349.7円となったほか、より一層の工賃向上を目指すために「世田谷区障害者施設受注拡大・工賃向上推進事業補助金」による補助を受け、ラッピング工程の機械化を目的とする生産設備を導入、生産性向上・受注量の拡大を推進する体制を整備した。

安定的な事業経営を推進するため、利用率の維持を目標として、計画的に新規利用者の受け入れを進めたが、就職や高齢者施設への移行、死去等による退所者が見込みよりも多く、利用率の向上が来年度に向けて、喫緊の課題として残った。

2 重点事項

方針管理書（計画・目標）の実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重点施策	担当	目標値に対する結果
A 経営 財務	1	安定的な事業経営 (a)利用率の維持 (b)報酬改定への対応 (c)働きやすい職場環境の整備/ワークライフバランスの推進	全職員	(a)①就労移行新規利用者1名 (目標値 就労移行新規利用者3名以上) ②土曜開所日を除く対定員利用率68.34% (目標値 土曜開所日を除く対定員利用率72%維持) (b)①一般就労3名 (目標値 一般就労3名以上) ②支給工賃年間平均時給349.7円(就労継続B型) (目標値 支給工賃年間平均時給323.4円以上) ③過誤請求発生0件 (目標値 過誤請求防止) (c)一部土曜日の開所5日間 (目標値 一部土曜日の開所縮小)

B 品質	1	個別支援の充実 (a) 就労移行支援プロセスの確立 (b) 個別支援計画に基づくサービス提供 (c) 指定特定相談支援事業所等との連携	サービス 向上委員会	(a) 新たな就労移行プロセスでのサービス提供開始 (目標値 就労移行プロセスの確立) (b) CS 調査当該項目満足度 91.0% (目標値 CS 調査当該項目満足度 90%以上) (c) サービス等利用計画随時確認 (目標値 サービス等利用計画策定済み全利用者の 同計画内容確認)
	2	働く場の提供 (a) 仕事の確保 (b) 利用者工賃の向上	事業推進 委員会	(a) ①CS 調査当該項目満足度 86.0% (目標値 CS 調査当該項目満足度 82%以上) ②就労支援事業収入年間 28,789 千円 (目標値 就労支援事業収入年間 28,320 千円以上) (b) 支給工賃年間平均時給 349.7 円 (就労継続B型) (目標値 支給工賃年間平均時給 323.4 円以上)
	3	サービス評価の実施 (a) ISO 内部監査の実施 (b) 顧客満足度調査	事業推進 委員会	(a) 法人監査、更新審査受審、要改善事項の事業計画 反映 (目標値 内部監査受審、要改善事項の是正) (b) CS 調査実施、要改善事項の事業計画反映 (目標値 事業計画への反映)
C 人材 育成	1	人材育成マネジメント (a) 計画的な人材育成 (b) 専門性の向上・権利擁護の推進	サービス 向上委員会	(a) YS の見直し検討 (目標値 YS 改定) (b) ①CS 調査当該項目満足度 88.7% (目標値 CS 調査当該項目満足度 87%以上) ②職員 10 名中 6 名外部研修参加 (目標値 全職員年 1 回以上外部研修参加)
E その 他	1	「安心・安全」な活動環境の整備 (a) 設備整備・防犯対策 (b) 災害発生を想定した準備	事業推進会 委員会 サービス 向上委員会	(a) ①利用者個別にマナーの啓発実施、トイレ利用状 況について友愛園と情報の共有 (目標値 トイレ等使用マナーの啓発活動実施) ②別館 1 階トイレ改修検討、来年度事業計画への 反映、別館入口掲示板設置 (目標値 別館 1 階エントランス・作業室の壁面塗装 等改修検討) (b) 世田谷区福祉避難所 (障害者) 防災マニュアルに 基づく対応訓練実施 (目標値 BCP 初版策定、BCP 対応訓練の実施)

《実施状況の評価》

A経営財務

A1 安定的な事業経営

(a) 利用率の維持

本年度も利用者が主体的に「楽しみ」や「やりがい」を持ち、「安心・安全」に活動できる環境の維持を前提として、計画的に新規利用者の受入れを進めたが、退所者が見込みよりも多く、利用率の向上が来年度に向けて、喫緊の課題として残った。

- ①就労移行支援事業では、利用を検討している特別支援学校の生徒等9名の体験実習を受入れた結果、平成31年4月から2名の利用開始が決定した。また、就労継続支援B型事業から1名の利用者が異動した。就労継続支援B型事業では、体験実習を通じて、当事業所の活動環境が本人に適しているか、本人、家族、関係機関と確認の上、6名の新規利用者を受入れた。
- ②就職及び高齢者施設への移行、死去等により11名の利用者が退所し、多機能型としての対定員利用率（土曜開所日除く）は目標値の72%を下回る68.34%となった。

(b) 報酬改定への対応

平成30年度障害福祉サービス費報酬改定により、就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業は、利用者のニーズである「一般就労の実現」や「高工賃支給」に関する実績が基本報酬で評価されることになり、安定的な経営に向け、その充足に取り組んだ。

- ①就労移行支援事業では、2名の利用者が後期に一般就労を実現したが、本年度内には、職場への定着期間が6ヶ月を経過せず、来年度の基本報酬は約半減することになった。就労継続支援B型事業では、1名が一般就労を実現したほか、就労継続支援A型事業の利用を1名が開始した。
- ②就労継続支援B型事業では、支給工賃年間平均時給は目標値の323.4円を上回る349.7円となり、来年度の基本報酬は本年度と同一の区分で算定できることになった。
- ③障害福祉サービス費は、業務調整会議等で基準・省令を確認し、算定要件を順守した上で算定した結果、過誤請求は発生せず、報酬算定について東京都の実地検査でも指摘・指導はなかった。

(c) 働きやすい職場環境の整備／ワークライフバランスの推進

働きやすい職場環境を整備し、利用者と職員のワークライフバランスを推進するため、以下に取り組んだ。

- ①利用者と職員が6日連続して生産活動へ携わることがないように、一部土曜日を開所した。また、平成32年度をもって一部土曜日の開所を終了することに決定した。
- ②開所時間外でも電話で相談等を受け付けることが常態化し、職員の勤務時間が超過する一因となっていた。利用者・家族に相談等は開所時間内にさせていただくよう説明し協力を求めた上で、昨年5月から、原則、開所時間帯以外の電話受付は行わないことにした。
- ③従来、8時30分から開始していた朝の職員ミーティングは、余裕をもって一日がスタートできるように、8時40分から開始することにした。また、夕の職員ミーティングは、各職員が報告事項を翌日のサービス提供に影響する内容に絞った結果、勤務時間内に終えることができるようになった。
- ④管理者から、希望に応じて全職員が月に1日は有給休暇を取得することができる職場環境を整備するとの方針が示され、各職員が協力して業務を遂行した結果、有給休暇は平均で50%を超える取得率となった。
- ⑤手厚い作業指導や見守りの必要な利用者が増加しており、生産活動中の会議開催や事務業務

を行うことが困難な状況になりつつある。職員が生産活動中に利用者支援へ専心できる体制を構築し、かつ、生産活動に付随する業務や事務業務が勤務時間内に終わるように、平成 33 年度からの開所時間短縮について、その効果と影響について検証を開始した。

- ⑥女性利用者の支援充実と職員の負担軽減を目的として、職業指導員 1 名を採用し、平成 31 年 4 月から配属することを決定した。

B 品質

B 1 個別支援の充実

(a) 就労移行支援プロセスの確立

昨年 4 月から、原則、就労訓練と生産活動は事業毎に実施することとした。その結果、一般就労の実現を目標とする就労移行支援事業利用者の目的意識が高まり、効果的に就労訓練が実施できる環境の整備と相まって 2 名の利用者が一般就労を実現した。

また、対外的に就労移行支援事業の活動状況を PR することのできる環境が整い、特別支援学校等から 9 名の体験実習生を受入れにつながった。来年度 4 月から 2 名が利用を開始する予定である。

本年度実施した就労移行支援の具体的内容は以下に記す。

- ①前年度に導入した就労アセスメントの本格運用を開始した。その結果は職員間で共有し利用者と家族にフィードバックした。
- ②個別支援計画は、就労アセスメントの結果に基づき策定し、標準利用期間（2 年）を踏まえた段階的な計画を立案した。
- ③個別支援計画の進捗管理を適切に行うため、個別支援計画策定後、1～2 ヶ月経過した時点で、サービス管理責任者による中間モニタリングを実施した。
- ④4 月から 12 月まで、月 1 回「就労支援プログラム」を実施し、就職や日常生活で求められる社会的マナー等のスキルや就労に必要な知識等を学ぶ機会を設けた。計画的に就労プログラムを実施すること、また、利用者が見通しを立てやすくなるように、就労プログラムの年間予定表を作成した。次項に示す状況によりその標準化と通年での実施には至らず、来年度の課題となった。
- ⑤就労訓練が進み企業面接や実習に参加する利用者が増加し、就労支援員（職業指導員兼務）の外出機会も比例して増加した。就労支援員が不在の間も、事業所内で就労訓練中の利用者に対する支援を適切に行うことを目的として、本年 4 月から就労支援員 1 名（就労継続支援 B 型事業職業指導員兼務）を配属することとした。
- ⑥生産活動は原則、事業毎に実施することとし、別館 1 階奥作業室は、就労移行支援事業の訓練に適した環境となった。
- ⑦MS 商会から PC 操作を要する作業を受託し、PC 操作を要する訓練の機会を提供した。同商会担当者は業務指導等で定期的に来所しており、就労プログラム等で学んだコミュニケーションスキルについて、その習得状況を確認する機会にもなった。
- ⑧就労支援の強化・充実を図ること、多角的な視点での支援実施を目的に、ハローワーク、東京しごと財団、区市町村障害者就労支援センター「すきっぷ」「しごとねっと」、障害者就業・生活支援センター「アイーキャリア」等との連携を強化した。上記関係機関の協力により、2 名が一般就労を実現した。
- ⑨ワークサンプル幕張版（以下、MWS）を用いた模擬訓練を開始し、アセスメントの精度を高めた。MWS に関しては、就労支援員が 8 月に東京障害者職業センターの研修に参加し、その効

果的な活用方法について学んだ。

(b) 個別支援計画に基づくサービス提供

専門的かつ手厚い支援を実施し、安定的かつ「安心・安全」に利用を継続してもらうため、以下、個別支援の充実を図った。

- ①生産活動、家族との連絡ノート等を通じ、本人の目標、意向や課題について、本人、家族、支援関係者から丁寧な聞き取りを行った。個々の課題に対しては、必要時に本人・家族、関係機関とケース会議を開催し、意向の確認と支援の方向性を共有した。
- ②生産活動で把握した利用者の成長や長所、課題については職員間で共有し、個々の利用者の状況に合わせた目標設定を行った。
- ③個別支援計画が身近で分かりやすいものとなるよう、可能な限り「利用者の言葉」を引用し、「分かりやすい表現を用いる」「仮名を振る」「用紙を拡大する」等の個別的配慮を行った。
- ④利用者が目標を意識し仕事に取り組むことができるように、必要に応じ日々「目標確認表」等を用いた振返りを行った。家族とその状況を共有し、三者が目標の進捗状況を確認することで、緩やかな成長が見られるケースがあった。

(c) 指定特定相談支援事業所との連携

心理面へのアプローチも含め、専門的な支援を必要とする利用者が増加しており、指定特定相談支援事業所を中心とした多角的なチーム支援の実施に取り組んだ。

- ①サービス等利用計画が策定されている利用者で、同計画の内容が把握できていない利用者に対しては、その内容を当事業所の面接時に説明しイメージ作りを図った。また、当事業所の個別支援計画については、可能な範囲で指定特定相談支援事業所等へ情報を提供したほか、必要に応じて、医療機関にも利用者の通所状況等を報告し、支援機関との連携を強化した。
- ②サービス等利用計画が「セルフプラン」や「代替プラン」の利用者で、相談支援専門員によるサービス等利用計画の作成を希望する利用者に対しては、指定特定相談支援事業所の受入れ状況等に関する情報提供や、その利用に向けた調整を行った。
- ③世田谷区の協力により、スポットで世田谷区の心理士を派遣してもらった。心理面へのアプローチが必要な利用者に対する具体的な支援方法について、その助言が得られたほか、支援に行き詰っていた職員の不安軽減にもつながった。

B 2 働く場の提供

(a) 仕事の確保

長年取引が続いている(株) デュプロや(株) グローバルプロダクトプランニングからの受注は前年度を下回ったが、近年取引を開始した(株) モノファクトリーや日本太和堂(株)からの受注が順調に推移し、就労支援事業収入は期首予算 28,320 千円に対し 28,789 千円(101.6%)となった。

作業量・種類に関しては利用者のニーズを充足できており、顧客満足度調査では、生産活動に関する項目で、目標値の 82.0%を上回る 86.0%の満足度を得ている。

一方、基本時間外の生産活動時間は前年度と比較し縮減には至らず、ボランティア等関連経費と職業指導員の超過勤務縮減も含め来年度の課題として残った。

- ①既存取引先からの受注が計画どおりに推移したため、積極的な営業活動は実施しなかった。
引合いがあったMS 商会とディー・グラフィットの2社については、就労訓練と工賃向上に有用と判断し取引を開始した。
- ②利用者支援では、個別支援計画に基づき、利用者の同意を得て、ニーズや特性に応じた主体

作業の変更を行い利用者個々の能力が発揮できるように作業指導へ注力した。

- ③作業不良はゼロにはならなかったが、取引に甚大な影響を与えるような作業不良は発生しなかった。当事業所の作業品質にかかわる取り組みやその姿勢は、既存取引先各社から一定の評価が得られ、安定した受注が継続できた。(株)モノファクトリーと日本太和堂(株)からは、受注量の増加について打診があり、要望に応えるための生産体制見直しについて、その検討を進めた。
- ④近隣の障害福祉サービス事業所やボランティア等の協力を得て、大口の注文等、既存取引先の要望に応えたが、基本時間外にかかわる生産活動は18時間(前年度16時間)となり、縮減には至らなかった。
- ⑤(株)モノファクトリーと日本太和堂(株)からの受注量増加や、(株)デュプロからの新規作業受注と利用率の低下が相まって、ボランティア等への協力依頼が増加した。その結果、ボランティア等関連経費は前年度を1,883千円上回る5,059千円となった。また、生産活動に係る職業指導員の超過勤務縮減には至らず、前年度よりも39.5時間多い1220.5時間となった。

(b) 利用者工賃の向上

前年度に支給した工賃の年間平均時給323.4円以上を目標として、利用者工賃の向上に注力した。その結果、就労継続支援B型事業利用者の年間支給工賃平均時給は、3月分工賃と合わせて支給した一時金を含め、前年度を約26円上回る349.7円(年間平均月給31,552円)となった。

利用者全体の工賃向上に関係する工賃係数を上げるには至らなかったが、個別支援計画に基づき、工賃向上へ主体的に取り組んだ利用者を中心として、作業能力評価値が上昇した利用者の工賃向上を図ることができた。

今後、益々受注量の増加が見込まれる日本太和堂(株)では、ラッピング作業量増加に対応するため、「世田谷区障害者施設受注拡大・工賃向上推進事業補助金」の補助が決定し、3月にシュリンクパッカーを導入した。

作業能力評価においては、評価方法の見直しを検討する委員会を発足し、検討を開始した。

B3 サービス評価の実施

(a) ISO内部監査の実施

ISO9001:2015適用規格において、法人監査を5月に受審し、1月に(一社)日本能率協会による更新審査を受審した。同適用規格では、「利害関係者のニーズ及び期待」が明確にされ、その監視とレビューを求められているが、法人監査では、それに適用する当事業所の「利害関係者相関図」について一定の評価が得られた。

(b) 顧客満足度調査

前年度の調査結果及び対応策は、利用者懇談会と家族懇談会で報告した。「職員の対応・施設環境に関する事項」「作業環境・工賃に関する事項」に分類した対応策は、事業推進委員会、サービス向上委員会で検討した。その進捗状況については、毎月職員会議で確認・審議し、決定事項は朝礼等で利用者へ周知した。

本年度は、同調査の運用方法について、利用者負担の軽減、業務効率化の視点から、その内容を見直し、11月に全利用者を対象とした個別聞き取り調査を実施した。意見の表出・抽出が難しい利用者には、家族等に同席してもらうなど、合理的配慮を踏まえた調査とした。

見直した運用方法の効果検証とその標準化が来年度の課題として残った。

C 人材育成

C 1 人材育成マネジメント

(a) 計画的な人材育成

法人の財中委と教育委員会で、人事評価システムと階層別の人材育成について検討が重ねられ、階層別の法人内研修を開催する体制が構築された。

それらとの整合性を踏まえた上で、既存 YS を職種別の専門性向上に焦点を当てた内容に見直すことを目標としたが、本年度は法人内研修と外部研修への参加に留まり、YS 改定には至らなかった。

(b) 専門性の向上・権利擁護の推進

知的障害者や知的障害を伴う自閉症の利用者に対する支援の専門性向上に向け、サービス管理責任者が、中部総合精神保健福祉センター主催の精神保健福祉研修を受講したほか、就労支援ネットワーク定例会等、各種ネットワークへの参加を継続する中で、専門的知識の習得を図った。

就労移行支援事業では、専門的な就労支援技術の取得を目標として、前期に生活支援員 1 名が訪問型職場適応援助者（ジョブコーチ）養成研修を受講し、就労支援員も後期に同研修受講を予定したが、開催日程等の関係で、来年度に持ち越すこととした。

虐待防止・権利擁護への組織的な取り組みとして、全職員が 3 ヶ月に 1 回「虐待防止セルフチェックリスト」を基に、サービスマナーや日常の利用者支援についてセルフチェックを実施した。その内容については、「障害者虐待防止委員会」（1 回/3 ヶ月）で全職員が共有しその振り返りを行った。

上記の取り組みは、担当者会議、朝夕のミーティング等も含め、「適切な支援が行われているか」「不適切な支援がないか」等、職員同士が自発的に振り返る習慣につながっていることから、来年度も継続していく。

E その他

E 1 「安心・安全」な活動環境の整備

(a) 設備整備、防犯対策

次亜塩素酸空気清浄器の設置により、別館 1 階男性トイレの臭気に対する不満意見は減少していたが、11 月に実施した顧客満足度調査では別館 1 階トイレについて、「臭気や汚れ」と「設備の老朽化」に対する不満意見が多く出された。それらは、委託清掃業者による清掃回数の削減（2 回/日→1 回/日）や友愛園を含む別館利用者の使用頻度増加、障害上適切に使用できない利用者に対する支援方法によるものと推測され、清掃方法については、委託清掃業者と協議・検討したほか、上記利用者に対する情報を友愛園に提供し、支援方法の検討を依頼した。

トイレ設備の老朽化については、サービス向上委員会を中心に、改修の優先度を検討した結果、抜本的な対策として、東京都の「民間社会福祉施設設備改善整備補助金」を活用した別館 1 階男女トイレの改修を来年度計画することになった。

女性利用者からは、女性更衣室へのテレビ設置について要望が出されたが、スペース上設置が困難なため、別館 1 階就労継続支援 B 型事業作業室に設置した「デジタルサイネージ」を昼休憩時間帯のみ、テレビ視聴ができるように運用方法を変更したほか、多くの利用者が座れるように、女性更衣室の椅子を肘掛けがないタイプに変更し、2 脚から 3 脚に増やした。

防犯対策では、「110 番非常通報装置」「赤外線センサー」の設置等、既存の対策について、再度利用者と家族に利用者懇談会等を通じて説明したほか、東海道新幹線内で発生した殺傷事件や富山県内の小学校で発生した発砲事件を踏まえて、新たに刺股と防犯用の催涙スプレーを用意し

た。後期に入り、男性利用者更衣室内ロッカーから所持品が見当たらなくなる事象が複数回発生したため、ロッカーの施錠等貴重品管理の徹底について利用者に協力を依頼したほか、開所時間中の男性利用者更衣室は常時照明を点灯することとし、男性利用者更衣室横の就労移行支援事業訓練室内に、原則、職員が常駐できるよう事務机を設置した。

(b) 災害発生を想定した準備

サービス向上委員会で地震や台風、大雪等の自然災害発生時の連絡手段について検討した。上記災害発生時の連絡手段を確保するため、サービス管理責任者と生活支援員2名の携帯電話を購入したほか、「世田谷区福祉避難所施設連絡会」と当事業所のBCPを用いた対応訓練を実施した。

来年度は、電話以外の連絡手段として、メールの活用についてその運用方法の標準化を図るほか、営業時間中と営業時間外に自然災害が発生した場合の対応について、当事業所の方針を再度整理し、利用者や家族等の関係者に、利用者・家族懇談会等を通じて周知していく予定である。

3 運営管理

平成30年度の職員配置状況は、次のとおりである。（平成31年3月31日現在、単位：人）

区分	職種	配置基準		現員	
		就労移行	就労継続B型	就労移行	就労継続B型
管理者		1		1	
指導部	サービス管理責任者	60：1以上		1	
	就労支援員	15：1以上	－	1	－
	生活支援員 職業指導員	6：1以上	10：1以上	7	
	目標工賃達成指導員	－	－	－	1

※就労支援員は職業指導員を兼務

4 平成30年度事業計画の実施状況

(1) 運営会議等の状況

	概 要	実施結果	参加人員（実績）		備 考
			利用者	職 員	
①会 議	【事業運営に関する会議】 ・業務調整会議 ・職員会議 ・事業推進委員会 ・サービス向上委員会 ・ミーティング	毎月 毎月 毎月 毎月 毎日朝夕		委員 全員 委員 委員 全員	
	【利用者支援に関する会議】 ・担当者会議 ・判定会議	35回 14回	全員 24名	全員 全員	
②職員研修	・外部研修	8回		6名	
	・内部研修 / 管理職員研修	1日		2名	
	・役職者研修	1日		1名	
	・チームリーダー研修	1日		3名	
	・中堅職員研修	1日		2名	

③健康管理	・健康診断 ・衛生委員会	9月 毎月		全員 委員	
④防災対策	・避難訓練 ・安全委員会	昼間時・8回 隔月	全員	全員 委員	
⑤品質管理	・MS 検討委員会 ・顧客満足度調査 ・ISO サーパーバイランス	5月 3月 11月 1月	全員	全員 委員 全員	

(2) 利用者処遇の状況

	概 要	実施月・回数	参加人員 (実績)		備 考
			利用者	職 員	
①支援方針の設定	・個別支援計画の策定 ・利用者懇談会 ・家族懇談会	半年間 5・3月 12月 7月	全員 〃 31名 16名	担当者 全員 全員 10名	就労移行支援は3ヶ月毎 交流会 後半グループワーク実施
②生活相談	・相談面接 ・市区町村窓口との連絡調整	通年 随時	全員 対象者	担当者 生活支援員	
③健康管理	・定期健康診断 ・胸部X線撮影 ・血液検査 ・インフルエンザ予防注射	10月 9月 9月 11月	全員 31名 36名 希望者	嘱託医 嘱託医	外部委託/芝健診センター 外部委託/芝健診センター
④環境衛生	・衛生害虫駆除 ・カーテンクリーニング ・清掃 共用部分清掃 床清掃	14回 毎月 毎日 4回		宮繕	外部委託/ミヤコ消毒 外部委託/太陽技研
⑤給食支援	・給食 ・定例会議 ・献立会議 ・栄養相談 ・給食懇談会	毎日 4回 12回 通年 3月	全員 希望者 3名	栄養士 施設長 生活支援員 栄養士 生活支援員	外部委託/日清医療食品 アウトソー栄養士出席 アウトソー栄養士出席 *アウトソー栄養士出席
⑥行 事	・利用者交流一泊旅行 ・盆踊り大会 ・合同運動会 ・友愛ふれあい祭り ・宮様チャリティボウリング大会 ・利用者交流会	5月 7月 11月 10月 11月 12月	36名 希望者 22名 25名 14名 31名	全員 全員 9名 4名 5名 全員	砧町会及び商店会協賛 区立総合運動場体育館 砧町会及び商店会協賛 品川ブリックビル ボウリングセンター 大蔵総合運動場レストラン
⑦実習生受入	・介護等体験	11月	1名	全員	立教大学
⑧生産活動	・作業訓練 ・受注確保と新規作業開拓 ・生産性の向上 ・安全性の確保 ・販売会への参加	通年 〃 〃 〃 5回	全員 〃 〃 〃 13名	職業指導員 〃 〃 〃 担当者	目標工賃達成指導員配置
⑨就労支援	・OA、事務、実務訓練の実施 ・ビジネスマナー、生活習慣の習得 ・就労技能の向上	通年 〃 〃	全員 全員 全員	就労支援員 〃 職業指導員	WMS 使用 日中活動、プログラム 就労継続B型との連携

	・職場適応力の向上	10月 1月	2名	就労支援員	企業実習
	・求人情報の提供	通年	全員	〃	東京都合同面接会他
	・模擬面接の実施	〃	全員	〃	朝礼後
	・面接への同行	随時	2名	〃	就職面接、体験実習面接
	・ハローワークへの同行	〃	3名	〃	渋谷、三鷹
	・就労後の定着支援	〃	9名	〃	訪問、来館、電話連絡

(3) 受注活動

事業名	年度計画	今年度実績	前年度実績	計画対比	前年度対比
就労移行支援	2,760,000 円	2,139,315 円	—	—	—
就労継続支援	25,560,000 円	26,649,819 円	—	—	—
全 体	28,320,000 円	28,789,134 円	27,363,580 円	101.6%	105.2%

(4) 工賃の状況

※工賃には、通所費補助を含む。平均工賃については、入退所者と入退院者の当該月分は含めない（全体平均は、総支給額を両事業の人数で除したもの）。

生産活動	前年度工賃 支給総額（円）	今年度工賃 支給総額（円）	平均工賃 （円／月）	工賃支給総額 前年度比（%）
就労移行支援	1,809,694	1,597,385	32,600	88.3%
就労継続支援	18,729,164	18,363,147	31,552	98.0%
全 体	20,538,858	19,960,532	31,633	97.2%

(5) 生産活動の状況

事業種別	生産活動の内容
就労継続支援事業(B型)	丁合機等の部品組立・保守部品の個装、アロマオイル充填・ラベル貼り・梱包・セット詰め、缶バッチ製品の封入・セット詰め、化粧品の梱包・発送、ムーヴィング・ディスプレイ商品検査、日用雑貨商品の梱包、フィルムバルーンの仕上げ・梱包作業、メール便封入・封緘、防災商品関連の組立、照明器具の組立・検査、各種販売会参加

(別表)

世田谷更生館資料

※就労移行支援事業については、女性利用者が1名であり、男女の区分を設定すると個人が特定されるため、男女の区分なし。

1 月別入退所者状況

就労移行支援事業

(単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用定員	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
利用者数	4	4	4	4	4	4	5	5	4	4	4	3	45
入所人員	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
退所人員	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1
充足率%	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	83.3	83.3	66.6	66.6	66.6	50.0	88.8

※「利用者数」の区分は各月1日時点の人数。

※「入所人員」「退所人員」の区分は各月内の入退所者数。

就労継続支援事業(B型)

(単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用定員	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	648
利用者数	56	56	55	53	54	55	52	51	50	50	52	52	636
入所人員	1	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0	5
退所人員	0	1	2	0	0	3	2	2	0	0	0	1	11
充足率%	103.7	103.7	101.8	98.1	100	101.8	96.2	94.4	92.5	92.5	96.2	96.2	98.1

※「利用者数」の区分は各月1日時点の人数。

※「入所人員」「退所人員」の区分は各月内の入退所者数。

2 入退所の理由状況

(1) 入所前状況

就労移行支援事業

(単位：人)

区 分	学 校	病 院	他施設	居 宅	他事業	その他	計
	1		1			1	3
計	1		1			1	3

就労継続支援事業(B型)

(単位：人)

区 分	学 校	病 院	他施設	居 宅	他事業	その他	計
通所者	男	6	1	16	18	2	43
	女	3	1	2	3		9
	計	9	2	18	21	2	52

(2) 退所理由

就労移行支援事業

(単位：人)

区 分	就 職	入 院	他施設	結 婚	他事業	その他	計
	2					1	3
計	2					1	3

就労継続支援事業(B型)

(単位：人)

区 分	就 職	入 院	他施設	結 婚	他事業	その他	計
通所者	男	2	1		1	5	9
	女						
	計	2	1		1	5	9

3 障害種類別・等級別・性別の状況

就労移行支援事業

(平成31年3月31日現在 単位：人)

区分	身体障害		区分	精神障害		区分	知的障害	
	人数	比率		計	比率		人数	比率
1級	1	33.3	1級	0	0	1度	0	0
2級	1	33.3	2級	0	0	2度	0	0
3級	0	0	3級	1	100.0	3度	2(1)	100.0
4級	0	0	その他	0	0	4度	0	0
5級	0	0	計	1	100.0	計	2(1)	100.0
6級	1	33.3						
計	3	100.0						

就労継続支援事業(B型)

(平成31年3月31日現在 単位：人)

区分	身体障害				区分	精神障害				区分	知的障害			
	男	女	計	比率		男	女	計	比率		男	女	計	比率
1級	9	1	10	33.3	1級					1度				
2級	9	1	10	33.3	2級	11(6)	1	12(6)	80.0	2度	2(1)		2(1)	11.7
3級	5		5	16.6	3級	3		3	20.0	3度	3(1)	3	6(1)	35.2
4級	4		4	13.3	その他					4度	7(2)	2	9(2)	52.9
5級	1		1	3.3	計	14(6)	1	15(6)	100.0	計	12(4)	5	17(4)	100.0
6級														
計	28	2	30	100.0										

※精神・知的障害者の区分に記載されている()内の数字は、身体障害者手帳も交付されている利用者

4 入所者年齢別状況

就労移行支援事業 (平成31年3月31日現在 単位：人)

区分	20才未満	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60才以上	計
		1		2			3
比率 (%)		33.3		66.7			100

(参考) (平成31年3月31日現在 単位：才)

区分	最小年齢	最高年齢	全体平均年齢
	23	49	38.6

就労継続支援事業(B型) (平成31年3月31日現在 単位：人)

区分	20才未満	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60才以上	計
男	0	7	3	7	14	12	43
女	0	5	1	0	2	1	9
計	0	12	4	7	16	13	52
比率 (%)		23.0	7.7	13.5	31	25	100

(参考) (平成31年3月31日現在 単位：才)

区分	平均年齢	最小年齢	最高年齢	全体平均年齢
男	50.2	20	79	47.6
女	36.2	22	65	

5 利用者在所期間の状況

就労移行支援事業 (平成31年3月31日現在 単位：人)

区分	1年未満	1年以上2年未満	2年以上3年未満	3年以上4年未満	4年以上5年未満	5年以上6年未満	6年以上10年未満	10年以上	計
男		1	1						2
女			1						1
計		1	2						3

就労継続支援事業(B型) (平成31年3月31日現在 単位：人)

区分	1年未満	1年以上2年未満	2年以上3年未満	3年以上4年未満	4年以上5年未満	5年以上6年未満	6年以上10年未満	10年以上	計
男	4	4	3	2	2	8	12	8	43
女	1	1		2		1	4		9
計	5	5	3	4	2	9	16	8	52

6 学歴別の状況

就労移行支援事業

(平成31年3月31日現在 単位：人)

区分	未就学	小 卒	中 卒 (旧高小)	高 卒 (旧 中)	短大卒 (旧 専)	大 卒	その他	計
				2		1		3
計				2		1		3

就労継続支援事業(B型)

(平成31年3月31日現在 単位：人)

区分	未就学	小 卒	中 卒 (旧高小)	高 卒 (旧 中)	短大卒 (旧 専)	大 卒	その他	計
男			9	21	5	7	1	43
女				8	1			9
計			9	29	6	7	1	52

7 年金等受給状況

就労移行支援事業

(平成31年3月31日現在 単位：人)

区分	基礎年金		労災年金	厚生年金	生活保護	その他	計
	1 級	2 級					
	1	1				1	3
計	1	1				1	3

就労継続支援事業(B型)

(平成31年3月31日現在 単位：人)

区分	基礎年金		労災年金	厚生年金	生活保護	その他	計
	1 級	2 級					
男	9	13		6	4	10	42
女	1	6		1		2	10
計	10	19		7	4	12	52

8 職員研修の状況

	研修名	職種	参加者名	主催	人員	実施月
外部研修	1 工賃アップセミナー	職業指導員	渡邊	世田谷区	1	5 月
	2 JC ネットジョブコーチ養成研修	職業指導員	小出	JC ネットワーク	1	8 月
	3 アセスメントの視点を学ぶ② ～幕張ワークサンプルを活用する～	就労支援員 職業指導員	原	東京障害者職業センター	1	8 月
	4 災害時の地域の助け合い	職業指導員	安部	砧ネット	1	12 月
	5 精神保健福祉の動向を読み今後の支援につなぐ	サービス管理 責任者	吉岡	都立中部総合精神保健福祉 センター	1	12 月
	6 障害のある方を地域で支えるために～地域生活支 援拠点当について理解を深める～	サービス管理 責任者	吉岡	都立中部総合精神保健福祉 センター	1	12 月
	7 福祉サービス提供における契約書の理解とリスク マネジメントの作法	サービス管理 責任者	吉岡	東京都社会福祉協議会	1	2 月
	8 利用者の権利擁護と虐待防止に関する研修	生活支援員	小澤	東京都社会福祉協議会	1	2 月

2 友 愛 園（障 害 者 支 援 施 設）

1 平成30年度「重点計画事項」の実施状況

年度当初の在籍利用者39名を年度末には50名とする目標は、入所10名と退所4名により45名に留まったが、収支差額は結果的に黒字化を実現した。また、これまで受入れ実績のない最重度「支援区分6」の利用者が、「新規に3名（寝たきり・常時要見守り・患部要処置等各1名）」と「区分見直しの1名」で計4名となり、支援区分の平均値は前年度末3.6が4.0となり重度者の受入れ対応が進捗した。

更に重度者の受入れを推進するためには、居室スペースを広げ介護用ベッド等を導入する必要があるため、居室の改修工事が可能となるよう次年度は入所定員を60名から50名に減員する方針を打ち出し、その準備を開始した。

なお、築49年の世田谷更生館を取壊した跡地に新たな友愛園を建てる構想は、自己資金の不足等により当面見送ることとした。一方で、平成29年に女性浴室の給湯管から漏水が起きたが、今年度はその修繕費用が捻出できず男性浴室の時間調整による使用を継続した。入浴介助が必要な利用者が急増しているため、浴室の修繕は次年度に最優先で実施することとした。

職員体制では、非常勤の看護師を1月から1名採用できたが、生活支援員は前年度末以降「常勤1名の異動」、「非常勤2名の退職」及び「派遣2名の契約終了」等に伴い、常勤計6名を順次配置したが、12月に「退職2名」、3月に「私傷病による欠勤2名」等があり不安定な状況が継続した。

2 重点事項

方針管理書（計画・目標）の実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重点施策	担 当	目標値に対する結果
A 経営 財務	1	新規利用者の確保	担当職員	ア) 年度末利用者数50名 ⇒ 45名未達成 イ) 看護師2名体制と支援員1名増 ⇒ 看護師1.6名確保、支援員前年度末比0.2名増 ウ) 友愛園2階部分の改修 ⇒ 自動ドアと電子錠を設置(約80万円) 済 エ) 利用希望者への対応改善 ⇒ 利用希望者の見学時の車両送迎を積極的に実施 オ) 入所までの期間短縮 ⇒ 事前面接アセスメントにより可否判断の迅速化実施
	1	個別支援の充実	作業療法士 担当職員 全職員	ア) 単独外出の支援 ⇒ 数名の個別アプローチに留まった イ) スポーツプログラムの新設 ⇒ 職員配置が困難なため未実施 ウ) 給食喫食率の向上 ⇒ 前年度前期喫食率86%が今年度前期は95%に向上
	2	地域移行の促進	相談員	ア) 在宅移行支援、目標2名 ⇒ 未達成 イ) 高齢者施設移行支援、目標2名 ⇒ 該当無し
B 品質	3	施設環境整備	担当職員	ア) 医務室・静養室の移設 ⇒ 移設済 イ) 多目的室の設置 ⇒ 設置済(相談室を併用とした)
	1	職員資質の向上	全職員 対象者	ア) 虐待防止内部研修の充実 ⇒ 実施済 イ) 高次脳機能障害関係の外部研修 ⇒ 参加済
C 人材 育成	1	職員資質の向上	全職員 対象者	ア) 虐待防止内部研修の充実 ⇒ 実施済 イ) 高次脳機能障害関係の外部研修 ⇒ 参加済

《実施状況の評価》

A 経営財務

A 1 新規利用者の確保

- ア) 毎月1名ずつ新規に入所者を受入れて年度末に50名在籍を目標としたが、「障害支援区分4」が3名、「同5」が4名、「同6」が3名の計10名が入所したものの、もともと短期間の利用目的であった利用者と施設生活に適応できなくなった利用者計4名が退所したため、年度末は45名の実績に留まった。
- イ) 重度障害者の受入れ及び支援の充実を図るため、看護師2名体制と支援員1名の増員を目指したが、看護師は1月より常勤換算で0.6名の増員、支援員は常勤換算で前年度末比0.2名の増員に留まった。新規入所が目標を達成しなかったため人件費が確保できず、増員は困難と判断した。
- ウ) 重度障害者の安心・安全を確保する観点から、止むを得ず友愛園2階を施錠する必要がある、別館側の通用口に自動ドアと電子錠を、スロープ側の出入口に電子錠を設置した。この整備により、離設のリスクがある重度障害者の受入れが可能となった。
- エ) 利用見学希望者の車両送迎を優先的に実施した結果、新規入所者10名中の6名の入所実績に効果を得ることができた。
- オ) 前項同様に、優先的に利用希望者の生活場所を事前に訪問し、アセスメントを行ったところ、従来は数ヶ月に及んでいた「相談から入所までの期間」を、最短の7日間で入所につなげることができた。

B 品質

B 1 個別支援の充実

- ア) 作業療法士が、業務ミーティングで可能な限り多職種からの情報を収集し、補装具の見直し等の助言を行ったが、単独外出が可能となるような個別支援にはつながらなかった。
- イ) 生活支援員が「ボッチャ」等の新たなスポーツプログラムを取り入れ、ご利用者の心身機能の向上を図ることを目指したが、職員体制が整わず日常の生活支援を優先するに留まった。なお、2月には世田谷区スポーツ振興財団が開催したボッチャの体験会に4名の利用者が参加し好評であった。
- ウ) 成人病等の悪化予防や栄養管理に基づく給食への理解促進を目的に、前年度の10月以降は原則として「給食を欠食し外食すること」をご遠慮いただくこととした。その結果、前年度前期の喫食率が86%に対し本年度前期は95%に向上した。

B 2 地域移行の促進

- ア) 地域移行を希望する利用者には市区町村の障害支援担当者と連携を図り、グループホームを含む在宅生活への移行を積極的に支援することとしたが、今年度は地域移行を達成したケースは無かった。
- イ) 65歳以上の利用者でサービス付き高齢者住宅や有料老人ホーム等を希望する場合は、障害サービスから介護保険サービスへの円滑な移行を支援することとしたが、前項同様に今年度の該当者は無かった。

B 3 施設環境整備

- ア) 友愛デイサービスセンターが友愛園1階部分に移転することに伴い、医務室と静養室を友愛園1階から別館2階に移動し、利用者の利便性向上を図ることができた。
- イ) 前項に伴い、別館2階に多目的室を新設し、日中活動・リハビリ・利用者の憩いの場として活用を開始した。併せて、相談室としての機能も併用し、東京都に変更届を提出した。

C 人材育成

C 1 職員資質の向上

ア) 虐待防止に関する施設内勉強会を年2回開催し、チェックリストを活用した自己評価を開始するとしたが、前期はいずれも実施できず、後期には最優先事項として取り組んだ。

イ) 高度な個別対応が求められる高次脳機能障害について実践に役立つ外部研修に1名の生活支援員が参加したが、同研修内容を内部伝達研修として展開するには至らなかった。

3 運営管理

平成30年度の職員配置状況は、次のとおりである。

(平成31年3月31日現在、単位：人)

職種区分 配置区分		施設長	サービス管理責任者	医師	事務員(本部)	生活支援員	看護師	栄養士	その他の職員	計	備考
配置定員	国配置基準	1	1	1		8	1	1		13	
	東京都増配置										
	区等増配置										
	計	1	1	1		8	1	1		13	
現員	常勤職員	1	1		1	13	1	1		18	
	非常勤職員			1		1	1		2	5	
	計	1	1	1	1	14	2	1	2	23	

4 平成30年度事業計画の実施状況

	概 要	実施日 回 数	参加人員		備 考
			利用者	職 員	
(1) 運営管理 ①会 議	【共通】 ・職員会議 ・総合判定会議 ・担当者会議 ・ミーティング ・業務調整会議	月1回 随時 随時 毎日朝夕 月1回		全員 全員 関係職員 関係職員 関係職員	施設内全体の問題・情報交換 入退所の判定 個別支援計画検討 始・終業時情報交換 施設内業務検討・調整
	【生産活動】 ・朝のミーティング (活動室)	毎日	全員	関係職員	施設の連絡と利用者からの要望
	【生活関係】 ・支援員・相談員会議 ・介護職員会議 ・看護師会議 ・栄養士会議	月1回 月1回 隔月 年3回		相談員 介護士 看護師 栄養士	全施設の情報交換 全施設の情報交換 全施設の情報交換 全施設の情報交換
②職員研修	・外部研修 ・内部研修 新人職員研修 フォローアップ講座 ・勉強会	随時 随時		対象者 2名 2名 対象者	高次脳機能障害
③健康管理	・健康診断 ・検便 ・衛生委員会	9/5・6・7 月1回 毎月		全員 全員 委員	芝検診センター 東京食品技術研究所 全施設の衛生に関する
④防災対策	・避難訓練 ・安全委員会	月1回 奇数月	全員	全員 委員	
⑤品質管理	・第三者評価 ・ISO サーベイランス ・顧客満足度調査	8/24 後期 後期	全員 全員	全員 全員 全員	利用者聞き取り実施 (一社)日本能率協会
(2) 利用者支援 ①支援方針の設定	・個別支援計画の策定 ・利用者懇談会	年間 1/11	全員 全員	全職員 全職員	
②生活相談	・相談面接 ・保護者会 ・区市町村窓口との連絡調整	随時 6/30 随時	全員 8家族	支援員 8名 相談係	
③健康管理	・定期健康診断 ・胸部X線撮影	5/17 10/11 8/28	全員 全員	嘱託医 看護師	芝検診センター

	・血液検査 ・一般検査 ・衛生指導 ・訪問歯科診療 ・訪問マッサージ・リハビリ ・インフルエンザ予防注射	8/28 随時 随時 隔週 週2回 11/22	全員 抽出 抽出 希望者 希望者 全 員	看護師 看護師 全職員派 遣医 派遣医 全 員	〃 サンフラワー訪問歯科 武田整形外科
④環境衛生	・入浴 ・衛生害虫駆除 ・床清掃	月～土 定期 年4回	全 員 希望者 希望者	支援員 介護係 介護係	業者委託 〃
⑤給食支援	・給食 ・定例会議 ・献立会議 ・栄養相談 ・給食懇談会	毎日 年4回 毎月 随時 4/21 10/19	全 員 希望者 11 名	栄養士 施設長 栄養士 支援員 栄養士 支援員 栄養士 栄養士 支援員	＊アトソー栄養士も出席 ＊アトソー栄養士も出席 ＊アトソー栄養士も出席
⑦行 事	・盆踊り大会 ・友愛ふれあい祭り ・合同運動会 ・宮様チャリティボウリング大会	7/18 10/7 10/23 11/24・25	全員 全員 10 名 希望者	全員 11 名 12 名 関係職員	砧町会及び商店会協賛 砧町会及び商店会協賛 区立総合運動場体育館 品川グリーンスポーツボウリングセンター (開会式・本大会)
⑧クラブ活動等	・音楽クラブ ・華道クラブ ・茶道クラブ ・書道クラブ ・勉強会	月1回 第1火曜 第2土曜 月1回 毎金曜	希望者 希望者 希望者 希望者 希望者	担当者 担当者 担当者 担当者 担当者	講師1名 講師1名 講師1名 講師1名 慶応大学ライクス会による個人指導
⑩生産活動	・生産活動	年間	全員	支援員	

(別表)

友 愛 園 資 料

1 月別入退所者状況

(単位：人)

区 分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所定員	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	720
入所者数	41	40	39	40	41	42	44	44	44	46	45	45	511
入所人員	2	0	0	1	1	1	1	1	1	2	0	0	10
退所人員	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	4
充足率%	68.3	66.7	65.0	66.7	68.3	70.0	73.3	73.3	73.3	76.7	75.0	75.0	71.0

2 入退所の理由状況

(1) 入所前状況

(単位：人)

区 分	学 校	病 院	他施設	居 宅	その他	計
男	0	4	2	2	0	8
女	0	1	0	1	0	2
計	0	5	2	3	0	10

(2) 退所理由

(単位：人)

区 分	就 職	入 院	帰 宅	他施設	地域移行	その他	計
男	0	1	1	0	0	1	3
女	0	0	0	1	0	0	1
計	0	1	1	1	0	1	4

3 入所者年齢別状況

(単位：人)

区 分	20才未満	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60～69才	70才以上	計
男	0	0	3	1	12	20	2	38
女	0	0	0	2	2	3	0	7
計	0	0	3	3	14	23	2	45
比率 (%)	0.0	0.0	6.7	6.7	31.1	51.1	4.4	100.0
	平均年齢	最低年齢	最高年齢	平均年齢				
男	59.6歳	31歳	74歳	58.7歳				
女	56.9歳	42歳	68歳					

4 利用者在所期間の状況 [平均在籍期間：12.4年]

(単位：人)

	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 4年未満	4年以上 5年未満	5年以上 6年未満	6年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上	計
男	7	3	0	5	0	2	1	11	5	4	38
女	1	1	1	0	0	0	1	0	1	2	7
計	8	4	1	5	0	2	2	11	6	6	45

5 援護の実施機関(行政)の状況

区 分	世田谷区	23区内(世田谷区除く)	都 内 (23区除く)	都 外
該当利用者数	1名 (2%)	26名 (58%)	5名 (11%)	13名 (29%)

6 障害原因別・性別・現員の状況 (単位：人)

区 分	男	女	計	比率 (%)
疾 病	26	3	29	64.4
先 天 性	7	3	10	22.2
事 故	5	1	6	13.3
(交通事故)	(4)	(0)	(4)	(8.9)
(その他)	(1)	(1)	(2)	(4.4)
計	38	7	45	100.0

7 主たる身体障害種別及び等級の状況 (単位：人)

区分	肢体不自由	(車椅子使用)	視覚	聴覚	内部	計	比率%
1級	19	(15)				19	44.4
2級	16	(11)	1			17	37.8
3級	4	(4)				4	6.7
4級	4	(1)				4	8.9
5級	1	(1)				1	2.2
計	44	(32/45:71%)	1			45	100.0

8 障害支援区分状況 (単位：人)

区分	3	4	5	6	計	平均値
人数	15	20	6	4	45	4.0

9 介護状況 (単位：人)

区 分	食事	排泄	入浴	移動	移乗	意思疎通
全 介 助	0	1	2	1	3	0
一部介助	2	9	33	4	2	9
計	2	10	35	5	5	9

10 入院状況

病名・理由等	入院先	期間	日数
尿路感染症	関東中央病院	04/01～04/06	6
アレビアチン中毒 (薬局誤薬)	牧田総合病院	05/08～05/16	9
前立腺肥大手術	関東中央病院	05/11～05/21	11
深部静脈血栓症	関東中央病院	06/12～06/27	16
蜂窩織炎	関東中央病院	09/02～09/12	11
実人員：4名		合計日数：53日	

11 栄養基準量と給与栄養量

	エネルギー	蛋白質	脂 肪	カルシウム	ビ タ ミ ン			
	kca l	g	g	mg	A(IU)	B1(mg)	B2(mg)	C(mg)
栄養基準量	1,889	70.0	47.0	588	584	1.07	1.17	85
給与栄養量	1,801	65.4	47.6	593	654	0.95	1.06	89

12 栄養比率 (%)

炭水化物エネルギー比	脂肪エネルギー比
60.1	23.8

13 食品構成と食品群別給与量

食 品 群 名		食品構成	給与量
1. 穀 類	米	206	206
	パ ン 類	15	13
	め ん 類	60	55
	その他の穀類・堅果類	5	5
2. い も 類	じゃがいも類	40	29
	こんにゃく類	10	10
3. 砂 糖 類		9	9
4. 菓 子 類		3	3
5. 油 脂 類	動 物 性	0	0.7
	植 物 性	15	18
6. 豆 類	み そ	20	21
	豆・大豆製品	45	31
7. 魚 介 類	生 物	57	58
	塩 蔵・缶 詰	3	3
	水産練り製品	10	11
8. 獣鳥肉類	生 物	65	66
	その他の加工品	5	4
9. 卵 類		25	28
10. 乳 類	牛 乳	170	181
	その他の乳製品	40	51
11. 野菜類	緑黄色野菜	150	132
	漬 物	10	9
	その他の野菜	250	213
12. 果 物 類		55	38
13. 海 草 類		5	3
14. 調 味 料 類		40	35
15. 調 味 加 工 食 品 類		0	6

3 東京聴覚障害者支援センター

(障害者支援施設)

1 平成30年度「重点計画事項」の実施状況

平成30年度新規の施設入所者は3名、退所者は4名であった。平均入所率は、目標率80%を下回り70.5%であった。また、昨年度に引き続き、短期入所利用から2名が施設入所につながった。要因として①短期入所(長期利用)から訓練希望のニーズを抽出できた。②コミュニケーションが安定してスムーズに取れる環境に、安心感を持ってもらえたことが利用へとつながったと考えられる。

各種サービスの定員に対する割合について、就労移行支援の利用率は27.6%となり、昨年度の34.5%に比し減少した。就労継続支援B型の入所利用率は105.3%、通所利用率が150%であった。生活訓練は73.41%で、微減だった。機能訓練の利用率は50%と、昨年度に比べ増加した。主な理由として、①支援継続(訓練)の必要性から、他のサービスに移行及び地域移行したことが考えられる。今後も区市町村とニーズに合うサービス提供ができるように協働していく。

指定相談支援事業の利用者数は、一年を通して微増であった。施設入所支援を利用しているセンター利用者の計画依頼(9名)を含めて、計28名であった。

その他の重点事項は下記の通りである。

2 重点事項

方針管理書(計画・目標)の実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重点施策	担当	目標値に対する結果
A 経営 財務	1	総合支援法に基づく適切な運営 管理と安定的な経営の実施	業務調整会議 全職員 (目標達成責任者:施設長)	平均入所利用率(目標値80%)は、前年の 69.2%に対し70.5%であった。
B 品質	1	福祉サービス第三者 評価の受審	全職員 (目標達成責任者:施設長)	第三者評価受審(10月)評価結果への取 り組み(11月) →サービス向上の取り組み状況、さらな る人材育成に期待すると、評価を受けた。
	2	ISO9001:2015 内部監査及びサー ベランス審査	全職員 (目標達成責任者:内部監査員)	水平展開事項への取り組み状況を確認 し、取り組む →当事業所は審査対象外だった。
	3	利用者調査・利用者懇談会の実施	全職員 (目標達成責任者:主任)	①利用者調査 各項目の不満回答30%未満→全項目で 30%に達する不満はなかった。 ②利用者懇談会 第1回利用者懇談会(6月) 第2回利用者懇談会(2月) 共通の不満5件以下→3件。

C 人材 育成	1	①虐待防止研修の実施 ②施設内 OJT, 法人内階層別研修 ③各種施設外研修	全職員 (目標達成責任者:施設長)	① 全職員を対象に内部、外部研修を実施した。 ② 対象者の OJT 実施。法人内階層別研修に参加実施した。 ③ 別掲、職員研修の状況のとおり、各種外部研修へ参加実施した。
E その他	1	相談支援事業の運営 ネットワークへの参加 自立支援協議会への参加	全職員 (目標達成責任者:主任)	計画相談支援事業では利用解除の利用者が数名いたが年度を通しては横ばいであり、新規利用者も一定数確保できていた。各会議への参加率は全体では63%であり、他の事業所との連携も図れていた。
	2	利用者の入所促進 新規事業の事業内容PR	全職員 (目標達成責任者:主任)	行政機関へのPR活動を行った。相談は受けているが入所には至っていない。
	3	施設の建替え	全職員 (目標達成責任者:施設長)	引続き情報の収集と見学等実施した。
	4	予防処置	全職員 (目標達成責任者:内務監査員)	3月時点で、月平均0.7件。

《実施状況の評価》

A経営財務

A 1 総合支援法に基づく適切な運営管理と安定的な経営の実施

来年度、非常勤1名を採用予定しており、業務改善の向上に取り組んでいる。

下記の機能訓練等を実施した結果、健康管理の改善につながり所内処置数も減少した。

【機能訓練】障害の重度化・高齢化に伴う、健康を考えたニーズに対するサービス提供として、体操を始めた。また、将来、就職を目指したいという希望に合わせて、パソコンを使った訓練も開始した。

【生活訓練】2名の地域移行を達成した。

【就労継続B型】目標としていた月平均工賃を達成することができた。

【就労移行支援】ハローワークで登録や求人票検索の指導を行ない、模擬面接を実施する等、就労に向けて活動を展開した。しかし希望や条件が合わず、年度末までに就職者を出すことができなかった。

【施設入所支援】短期入所から2名が施設入所につながった。

【短期入所】本年度は、6名の利用があった。昨年度に続き、長期利用のニーズがあり、そのうち2名は施設入所につながることができた。

B品質

B 1 福祉サービス第三者評価の受審

良い点

①計画的事業展開により、利用者サービス拡充利用率の向上に結び付け、増収増益を生み出し、職員体制拡充や新施設設備の原資としている。

②事業所の創意工夫が功を奏し、職員全体の会議参加が可能となり、職員間の情報共有が

実現した。

- ③利用者に応じた作業内容にすることで作業の正確性が高まり、受注量の増加や工賃アップにつながっている。

改善が望まれる点

- ①高い職員定着率、職務に対する高い意欲を維持発展し続けるために、事業所の人材育成計画の策定が期待される。
- ②職員の手話技術を向上し、利用者と職員のコミュニケーションがさらに充実できる体制を期待したい。
- ③他者との関係づくりに繋がる、利用者同士のコミュニケーション活性化への取り組みに期待したい。

改善の取り組みは、平成 31 年度に東京都へ報告する。

B 2 ISO 内部監査及び再認証審査

水平展開事項については、今後、取り組んでいく。

B 3 利用者調査、懇談会の実施

利用者調査では、今年度も質問項目を整理し、実施した。昨年度に続き、「満足」が増加している。目標値は達成したが、不満として高かったのは、「作業」18%、「料理教室」17%という項目があった。利用者懇談会並びに給食委員会では、共通の不満が3件あった。早急に対応しつつ、改めて説明が必要なことは丁寧に説明し、ご理解を頂けるようにした。

C 人材育成

C 1 人材育成

今年度は利用者の人権擁護と虐待防止に関係した職員研修を内部、外部と併せ述べ8回参加実施した。特に虐待問題については外部講師を招聘し、職員全員を対象とした研修を行った。

職員のコミュニケーション技術の向上を図るため、外部講師を招き実地研修を実施した。

E その他

E 1 外部機関とのネットワーク

計画相談事業では、職員の配置換えにより新規の相談支援専門員が業務にあたったが、事業は滞りなく実施できた。自立支援協議会や関東ろうあ者相談員連絡会など関連する会議へは可能な限り参加し、事業所間の連携に努めた。

E 2 利用者の入所促進・新規事業のPR

自治体へのPR活動を行ったものの、年度末に施設入所者の退所が相次ぎ、目標としていた入所率を維持することができなかった。通所利用については就労継続B型のニーズが依然として高く、1年を通して定員数を上回る利用者を受け入れることができた。

E 3 施設の建替え

関係機関とは定期的に連絡をし情報の収集にあたっている。今年度は2ヵ所の建替え施設を見学し、今後の参考にした。

E 4 予防処置

是正処置は、昨年度と比較して、本年度の不適合サービス報告(是正処置に至らなかったインシデントを含む)は増加している。目標値は達成しているが、次年度は引き続き更なるサービス改善に努めたい。

3 運営管理

(1) 入退所状況等

別表の東京聴覚障害者支援センター資料に掲げた。

(2) 職員配置状況

平成 30 年度の職員配置状況は、次の通り。

(H31 年 3 月 31 日現在、単位: 人)

職種区分 配置区分	施設長	事務員	サービス管理責任者	相談支援専門員※①	生活支援員	就労支援員	職業指導員	看護師	栄養士	調理員	医師	合計
現員常勤職員	1	2			6					1		10
現員非常勤職員					8				1	5	2	16
合計	1	2			14				1	6	2	26

※①生活支援員兼務

(3) 職員研修の状況

	研 修 名	参加職種	主 催	人員	実施月
内部 研修	平成 30 年度 法人新入職員オリエンテーション	看護師	法人	1	4
	所内研修「虐待の未然防止に向けて」	全職種	センター	16	5
	平成 30 年度 法人新入職員初任者研修	看護師	法人	1	6
	所内研修「てんかんに関する勉強会」	全職種	センター	8	7
	所内研修「福祉避難所及び運営に関する勉強会」	全職種	センター	8	7
	「施設見学報告・大田福祉工場・大田通勤寮」	全職種	センター	8	8
	事例研究発表会	所長	法人	1	9
	所内研修「虐待防止につながる取り組みをめざして」	全職種	センター・講師招聘	17	10
	所内研修「コミュニケーション技術の向上」	全職種	センター・講師招聘	12	11
	所内研修「施設見学報告・意見交換」	全職種	センター	10	12
	研修報告「障害者差別解消法について」	全職種	センター	10	12
	研修報告「芸術作品に関わる著作権、障害特性と支援」	全職種	センター	10	12
	研修報告「トット文化館施設見学」	全職種	センター	10	12
	平成 30 年度中堅職員研修	支援員・事務員	法人	2	11
	平成 30 年度チームリーダー研修	支援員	法人	2	3
外部 研修	普通救命救急講習	支援員	志村消防署	3	4
	タブー視しない虐待防止法との付き合い方	所長	都社会福祉協議会	1	5
	障害者雇用促進セミナー	支援員	社会福祉法人白銀会	3	5～7
	関東ろうあ者相談員連絡会	支援員	関・ろ・相・連絡会	3	5～12
	新規出品事業所説明会	支援員	東京都	1	5
	研修「てんかんについて」	支援員	就労移行支援事業所	1	6

H30 年度都相談支援従事者初任者研修	支援員	東京都	3	6～7
福祉避難所開設及び講演	支援員	板橋区	1	7
施設見学・大田福祉工場	支援員、事務員	センター	3	7
施設見学・大田通勤寮	支援員、事務員	センター	3	7
サービス推進費補助金等説明会	事務員	東京都	1	7
聴覚障害者精神保健を考える研究集会 2018	支援員、看護師	聴力障害者情報文化センター	2	8
福祉従事者研修「人権問題の基本的な理解に向けて」	支援員	東京都	3	9～10
セミナー「福祉施設における災害対策」	支援員	都福祉施設士会	1	9
高次脳機能障害について	支援員	区自立支援協議会	1	10
清瀬療護園施設見学研修	支援員	東社協福祉部会	1	11
東京光の家 施設見学研修 (2 グループ)	支援員 看護師	センター	13	11
障害者差別解消に係る事業者向け研修会	支援員	東京都	2	12
障害特性と支援方法・芸術作品に関わる著作権とは	所長、支援員	アーツサポ東京	3	12
福祉避難所開設及び運営訓練(実働訓練)	支援員	板橋区	1	1
「利用者の権利擁護と虐待防止に関する研修」	支援員	東社協調査研修	1	2
平福祉事業者における権利擁護・苦情対応研修	サビ管	東社協	1	2
平成 30 年度第 2 回成年後見制度講演会	支援員	板橋区	3	3

(4)各事業計画の実施状況

区分 事項	概 要	計 画	実施結果		備 考
		日・回数	日・回数・件数・参加 人員(職員等含む)		
(1)運営管理 会議 オンブズマン	ア 業務調整会議	月 1 回	12 回	60 人	所長, 支援, 看護, 事務, 調理
	イ 職員会議	月 1 回	12	127 人	全員
	ウ 支援会議	週 1 回	40	341 人	所長、調理員等
	エ 給食会議	月 1 回	12	68 人	所長、看護師等
	オ 安全・衛生会議	月 1 回	12	57 人	所長、担当者
	カ 地域サービス会議	年 1 回	1	4 人	全員
	ア 苦情相談日	月 1 回	12	32 人	所長、支援、担当者
	イ 定例会	年 1 回	1	4 人	
(2)利用者処遇 緊急入所 自立訓練 就労移行訓練 健康管理 給食 体力強化 地域交流 防災対策 アフターケアサービ ス	ア 緊急入所者の受入	随時		0 人	緊急、短期入所対応
	ア 手話講習会	週 1 回	40	1341 人	入門、地域一般受講
	イ 基礎学習	月 1 回	12	36 人	支援員
	ウ 書道教室	月 2 回	24	388 人	外部講師
	エ 陶芸教室	月 2 回	19	204 人	外部講師
	オ 生活講座	年 12 回	24	319 人	栄養士、支援員
	カ 旅行	年 1 回	1	30 人	支援員 看護師
	キ 外出支援	年 2 回	3	32 人	支援員 看護師
	ア 定期健康相談	年 24 回	1	258 人	利用者
	ア 嗜好調査	年 1 回	1	23 人	
	ア スポーツ大会等	年 1 回	1	16 人	障がい者スポーツ大会
	ア 盆踊り大会	年 1 回	1	127 人	ボランティアを含む
	イ もちつき大会	年 1 回	1	25 人	板橋ろう協(手話サークル除く)
	ア 設備器具点検	年 2 回	2		委託業者
	イ 設備器具自主点検	毎日	365	365 回	日報記録
	ウ 防災訓練	月 1 回	12	313 人	避難、消火、総合訓練等
	ア 給食サービス	週 5 回		868 人	
	イ 相談	随時	483		連絡、外来、訪問相談、手続き、保険全般等

(別表)

東京聴覚障害者支援センター資料

1 月別入退所状況

(単位：人)

月別 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所定員	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
利用者数 (月末現在)	21	21	22	22	22	21	21	21	21	21	21	20	254
入所人員	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
退所人員	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	4
充足率 (%)	70	70	73	73	73	70	70	70	70	70	70	67	71

2 入退所理由別人員

(単位：人)

区 分	入所理由					退所理由				
	居宅	病院	他施設	その他	計	自立	家庭 復帰	他施設	その他	計
男	1	0	1	0	2	0	0	3	1	4
女	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
計	1	0	2	0	3	0	0	3	1	4
比率(%)	33	0	67	0	100	0	0	75	25	100

3 年齢構成 (平成31年3月31日現在)

(単位：人)

区 分		20歳 未満	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上	計	平均 (歳・月)
全数	男	0	1	0	0	3	5	12	59.3
	女	0	0	0	1	1	5	8	63.5
	計	0	1	0	1	4	10	20	60.11
うち 30年度 入所者	男	0	1	0	0	2	0	2	41.04
	女	0	0	0	0	0	0	1	54
	計	0	1	0	2	2	0	3	47.5

4 在所期間 (平成31年3月31日現在)

(単位：人)

区 分		1年 以下	1年～ 2年未満	2年～ 3年未満	3年～ 4年未満	4年～ 5年未満	5年 以上	計	平均 (年・月)
全数	男	2	2	0	2	1	5	12	5.11
	女	1	1	0	1	0	5	8	6.7
	計	3	3	0	3	1	10	20	6.2
うち 29年度 退所者	男	0	3	1	0	0	0	4	1.3
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	3	1	0	0	0	4	1.3

5 健康管理の実施状況変更なし

項 目	実施期間	実施場所	人 員
体重測定	定期 月 1 回	センター内	全員
血圧測定	定期 月 1 回	センター内	全員
尿検査	定期 年 2 回	病院 センター内	全員
嘱託医診察 (内科) (精神科)	定期 月 1 回	センター内	全員
	定期 月 1 回	センター内	該当者

6 通院状況

区分 科別	実 人 員	延 人 員			月平均治療人員	延人員比率 (%)
		男	女	計		
内 科	26	134	57	191	15.9	24.2
泌尿器科	0	0	0	0	0	0
婦 人 科	1	0	2	2	0.2	0.3
精 神 科	16	92	55	147	12.3	18.6
脳神経外科	4	7	3	10	0.8	1.3
外 科	3	4	0	4	0.3	0.5
整 形 外 科	5	10	9	19	1.6	2.4
皮 膚 科	9	19	4	23	1.9	2.9
眼 科	12	15	18	33	2.8	4.2
耳鼻咽喉科	2	2	0	2	0.2	0.3
歯 科	14	140	56	196	16.3	24.8
透 析	1	157	0	157	13.1	19.9
化学療法科	1	0	5	5	0.4	0.6
合 計	94	580	209	789	65.8	100

7 所内処置の状況

(単位：人)

区分 処置別	実人員	延 人 員			月平均人員	比率 (%)
		男	女	計		
点眼	3	516	3968	4484	374	81
軟膏塗布	4	1016	0	1016	85	18
包交	1	49	0	49	4	1
湿布	0	0	0	0	0	0
合計	8	1581	3968	5549	463	100

8 通院先と人員

(単位：人)

通院先	受診科目	人員
板橋中央総合病院	消化器内科	1
	呼吸器内科	1
	産婦人科	1
	耳鼻咽喉科	2
	脳神経外科	3
	内科	2
	神経内科	1
	救急外来	1
こころのクリニックなります	精神科	1
こころのクリニック高島平	精神科	4
イムス記念病院	内科・眼科	1
東京武蔵野病院	精神科	2
	脳神経外科	1
こうのファミリーケアクリニック	内科	23
志村ヒフ科クリニック	皮膚科	6
陽和病院	精神科	1
飯野眼科	眼科	10
セントラルクリニック	眼科	1
	皮膚科	2
城山歯科クリニック	歯科	1
練馬春日デンタルクリニック	歯科	1
洋歯科クリニック	歯科	14
都立広尾病院	脳神経外科	1
都立松沢病院	精神科	1
はやみ医院	内科	1
下高井戸メンタルクリニック	精神科	1
板橋区医師会病院	外科	1
	皮膚科	1
昭和大学附属烏山病院	精神科	1
東京都健康長寿医療センター	化学療法科	1
愛誠病院	精神科	1
i タワークリニック	透析科	1
	内科	1
よう整形外科	整形外科	5
新渡戸記念中野総合病院	精神科	1
埼玉県立精神医療センター	アルコール依存症専門	1
池袋血管外科クリニック	外科	1
三恵病院	精神科	1
成増厚生病院	精神科	1

東京北医療センター あだち内科クリニック 金谷整形外科	内科	1
	救急外来	1
	内科	1
	整形外科	1

9 施設行事の実施状況

実施月	実施月日	行事名	実施場所	利用者	職員	その他
4月	4月10日	生活講座	センター中庭	28	1	
5月	5月23日	外出支援	板橋区立志村図書館	6	3	
6月	6月4日	生活講座	センター集会室	25	2	
	6月4日	生活講座	センター集会室	23	2	
	6月12日	生活講座	センター集会室	26	3	
7月	7月2日	生活講座	ドンキホーテ他	5	1	
	7月5日	生活講座	センター集会室	18	3	
	7月18日	生活講座	センター集会室	18	3	
	7月20日	生活講座	ドンキホーテ他	5	1	
	7月28日	盆踊り	センター中庭	22	17	53
8月	8月7日	生活講座	ドンキホーテ他	4	1	
	8月23日	生活講座	センター集会室	25	1	
	8月24日	生活講座	ドンキホーテ他	2	1	
9月	9月11日	生活講座	ドンキホーテ他	4	1	
	9月29日	障がい者 スポーツ大会	小豆沢公園野球場	12	4	
10月	10月5日	生活講座	ドンキホーテ他	2	1	
	10月20日	生活講座	ドンキホーテ他	4	1	
11月	11月6日	センター旅行	キューピー五霞工場	22	6	2
	11月9日	生活講座	ドンキホーテ他	3	1	
	11月26日	生活講座	ドンキホーテ他	2	1	
12月	12月6日	生活講座	ドンキホーテ他	2	1	
	12月20日	生活講座	センター集会室	24	3	
	12月25日	生活講座	ドンキホーテ他	2	1	
1月	1月9日	生活講座	ドンキホーテ他	2	1	
	1月24日	外出支援	巣鴨地藏通り商店街	5	2	
	1月28日	生活講座	センター集会室	23	2	
	1月29日	生活講座	ドンキホーテ他	2	1	
2月	2月15日	生活講座	ドンキホーテ他	3	1	
	2月27日	生活講座	ドンキホーテ他	3	1	
3月	3月7日	外出支援	株式会社藤村工業	12	3	
	3月11日	生活講座	ドンキホーテ他	2	1	
	3月15日	生活講座	センター集会室	25	7	

10 給食提供食数(食)

	朝	昼	夕
月平均食数	707	774	763
年間総食数	8489	9288	9165

11 地域連携

(1) 実習生の受入

実習依頼学校及び学部学科	実施月	期間 (日)	学年 (年)	受入数 (人)
聖徳大学心理・福祉学部社会福祉学科社会福祉コース	8～9月	24	4	1
淑徳大学総合福祉学部	8月	15	2	1
東京都社会福祉協議会	8月	5	3	2
昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科	8～9月	23	3	1
東京都社会福祉協議会	10月	5	3	1
明星大学人文学部福祉実践学科	11～12月	23	3	1
東京都社会福祉協議会	12月	5	1	1
日本福祉教育専門学校社会福祉学科手話通訳コース	2月	12	1	1

(2) ボランティアの受入

内 容	延回数 (回)	実施方法	団体名	人数 (人)
盆踊り・踊り指導	2	実地指導	板橋民踊連盟	3
盆踊り大会 (当日)	1	準備、催し	なります天神太鼓、板橋民謡連盟、板橋 手話サークル、板橋区聴覚障害者協会他	80
所内作業、行事	2	進行補助	三菱東京UFJ銀行	6
各種外部行事	0	販売、見守り補助	個人	0
書道教室	24	参加補助	個人	2
陶芸教室	22	参加補助	個人	1
所内作業	75	参加補助	個人	1

12 食品構成と食品群別給与量

食 品 群 名		食品構成 (g)	平均給与量 (g)	食 品 群 名		食品構成 (g)	平均給与量 (g)
1 穀類	米	230	233	7 獣鳥肉類	生物	60	58.70
	パン類	20	16.97		その他加工品	13	12.05
	麺類	120	81.73	8 卵類		45	27.98
	その他の穀類	5	0.68	9 乳類	牛乳	200	135
2 いも類	じゃが芋類	50	38.05		その他の乳製品	15	23.77
	こんにゃく類	10	9.30	10 野菜類	緑黄色野菜	120	118
3 砂糖類		7	6.29		その他の野菜類	255	223
4 油脂類	動物	0.5	0.89	11 果実類		60	27.77

	植物	12	12.09	12 海草類	4	3.43
5 豆類	味噌	23	6.62			
	豆・大豆製品	40	37.07			
6 魚介類	生物	40	16.90			
	缶詰	15	7.41			
	練り製品	25	23.68			

1 3 栄養基準量と給与栄養量

区 分	熱量 (Kcal)	蛋白質 (g)	脂質 (g)	カルシウム (mg)	ビ タ ミ ン			
					レチノール当量(μg)	B1(mg)	B2(mg)	C(mg)
栄養基準量	1,913	63.0	53.5	678	785	1.01	1.17	100
給与栄養量	1,865	64.7	49.3	512	524	1.00	0.96	92

1 4 栄養比率

(単位：％)

穀 類 エネルギー比	脂 肪エネルギー 比	蛋白質比	動物性蛋白質
52.8%	23.8%	11.87%	49.3%

1 5 アフターケア処理件数

(単位：件)

区 分	職業 相談	健康相 談	金 銭相 談	人間関 係相談	父 兄相 談	生 活相 談	給 食 サービス	その他	計
年件数	36	73	109	12	64	130	868	188	1480
比率%	2	5	8	1	4	9	58	13	100

(アフターケアの形態別分類)

外来相談	115 件	24%	
訪問相談	71 件	15%	
連絡相談	297 件	61%	計 483 件 100%
※ (相談事項 1 件でカウント 例 「A」氏より連絡相談受. 訪問し相談. 病院へ同行→1 件)			

1 6 所内作業

区 分	工 賃	平均工賃 (円/月)
ターモ	350,806	1,661
サンブロンプト	34,350	408
タイヨウ	446,200	1,348
クロスリンク	23,962	3,423
本部	909,592	3,010
MS 商会	94,619	3,461
行事	63,672	767
計	1,923,201	14,078

※平均工賃は、作業参加者対象。

4 コーポ友愛

(福祉ホーム)

1 平成30年度重点計画事項の実施状況

運営面に関しては、長期にわたり利用実績のなかった世帯部屋を整備し、単身者にも貸し出せるようにしたところ、5月に新規入居者を獲得し、それ以降空室のない状況が維持されている。

入居者支援に関しては、入居者の長期利用に伴い心身面、体調面に変化が生じるケースが増加しているが、日常の関わりの中から必要と思われるニーズを抽出し、関係機関や関係者と連携を取りながら個々の問題解決に努めた。

設備面に関しては、防災面の強化を図り各部屋の電磁調理器を空焚き防止機能の付いたものに入替を実施、加えてカーテンも防災仕様のものに変更した。併せて、不審者の侵入を抑制する目的からコーポ出入り口に防犯カメラを設置し、防犯面の強化に努めた。また、経年により浴水循環装置の入れ替えを行った。

2 重点事項

方針管理書(計画・目標)の実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重点施策	担当	目標値に対する結果
A 経営 財務	1	経営の安定化	全職員	5月に新規入居者獲得。利用率95% 入居率100%に到達その後も継続中。
B 品質	1	I S O内部監査	施設長 生活支援員	改善事項なし
	2	顧客満足度調査の実施	生活支援員	12月に実施、入居者のニーズ把握に努めた。
	3	連絡会	施設長 生活支援員	計画通り1回/月実施した。
	4	懇親会	全職員	計画通り1回/半年実施した。

《実施状況の評価》

A1 経営財務

利用率向上に向け29年度末に世帯部屋の整備を行ったが、5月に新規入居者を獲得し入居率100%、利用率も95%に到達した。9月に1名退去者が出たものの入居希望待機者がいたためその後もこの数値を維持できた。その後も新規入居の問い合わせを複数名から頂いているが、空き部屋がないため対応できない状況が続いている。

B 品質

B1 内部監査

例年通りI S O法人内部監査を受審した。改善事項はなく概ね良好な状況であると評価された。

B 2 顧客満足度調査の実施

全利用者を対象とした無記名式のアンケート記入方式にて実施し、13名から回答を得た。結果については連絡会等にてフィードバックした。

B 3 連絡会

計画通り月1回実施した。利用者相互の交流を促進するとともに、積極的な入居者のニーズ把握、問題解決に努めた。

B 4 懇親会

計画通り6月と12月に実施した。いずれの会も参加者からは好評であった。

2 運営管理

(1) 職員配置状況

平成30年度の職員配置状況を下記に示す。

(平成31年3月31日現在、単位：人)

職 種 配置		施 設 長	事 務 員	看 護 師		生 活 支 援 員	計
				主 任	看 護 師		
職 員	常勤職員	(1)	(1)		(2)	1	1(4)
	計	(1)	(1)		(2)	1	1(4)

※（ ）は他施設と兼務

(2) 入居者支援

各部屋の電磁調理器具を空焚き防止機能の付いたものに入れ替えた。また、併せてカーテンも防災仕様のものに取り替えた。また、不審者の侵入抑止を図り防犯カメラを設置し防災面、防犯面の強化に努めた。経年により浴水浄化装置が故障したため新規に購入、入替を実施した。

入居者の状況変化に伴い、ケアマネや関係機関、ヘルパー、家族等と連携を図り、入居者がコーポ内で安定した生活が継続されるよう支援を行った。個別の相談に対しても随時対応した。

4 平成 30 年度事業計画の実施状況

事項	区分	概 要	実績	実施結果	備 考
			日・回数	日・回数・参加人員等	
(1) 運営管理					
①会議		ア 業務調整会議 イ 入居判定会議 ウ 業務ミーティング	12 回 1 回 毎日	毎月 1 回・全員 全員 ホーム長、生活支援員	
②健康管理		健康診断	1 回	9 月・全員	
③防災対策		避難訓練	12 回	毎月 1 回	
(2) 入居者支援					
①指導方針の設定		ア 入居者の相談受付、対応 イ 入居者個別面談 ウ 福祉事務所との連絡調整	随時 随時 随時	生活支援員 生活支援員 生活支援員	入居者の申し出に応じる。
②環境衛生		ア 床清掃 イ 風呂場など共用部分清掃 ウ 衛生害虫駆除	1 回 毎日 10 回	外部委託業者 生活支援員/外部委託業者 外部業者に委託	

本年度における主要行事の実施状況は、以下のとおりであった。

(単位：人)

実施月	実施日	行 事 名	実 施 場 所	参 加 者			
				利用者	職員	その他	計
6	6/3	懇親会	コーポ内	12	3	0	15
7	7/18	盆踊り大会	世田谷施設中庭	19	1	0	20
10	10/7	ふれあい祭り	世田谷施設	19	1	0	20
11	11/18	合同運動会	世田谷施設 総合運動場体育館	3	1	0	4
12	12/9	懇親会	コーポ内	13	2	0	15

(別表)

コーポ友愛資料

(平成31年3月31日現在)

1 月末別入退居者状況

(単位：人)

月区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入居定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
入居者数	18	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	227
入居人員	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
退去人員	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1
充足率%	90.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	94.6

注) 入居者数に区外者も含む

2 入退居の状況

(1) 入居前状況

(単位：人)

区分	居宅	病院	施設	計
入居者				
男	0	0	1	1
女	1	0	0	1
計	1	0	1	2

(2) 退去理由

(単位：人)

区分	転居	病院	施設	帰宅	死亡	計
退居者						
男	0	0	1	0	0	1
女	0	0	0	0	0	0
計	0	0	1	0	0	1

3 疾患原因別・性別・現在員の状況

(単位：人)

原因別 \ 性別	男	女	計	比率 (%)
疾病	11	2	13	68.4
先天性	4	2	6	31.6
計	15	4	19	100.0

4 障害別・等級別・性別の状況

(単位：人)

等級	肢体不自由			視覚障害			聴覚障害			計			比率 (%)
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
1級	4	1	5	0	0	0	0	0	0	4	1	5	26.3
2級	8	3	11	0	0	0	1	0	1	9	3	12	63.1
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4級	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	5.3
5級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6級	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	5.3
計	14	4	18	0	0	0	1	0	1	15	4	19	100.0

5 入居者年齢別状況

(単位：人)

区分 性別	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
男	0	1	4	6	4	15
女	1	1	0		2	4
計	0	2	4	6	6	19
比率 (%)	5.2	10.5	21.1	31.6	31.6	100.0

(参考)

(単位：歳)

区分 性別	平均年齢	最小年齢	最高年齢	全体の 平均年齢
男	55.1	33	76	54.2
女	50.5	28	68	

6 入居者所在期間の状況

(単位：人)

年数 性別	1年未満	2年未満	3年未満	5年未満	10年未満	10年以上	計
男	1	2	1	4	4	3	15
女	1	0	0	1	0	2	4
計	0	2	1	5	4	5	19
比率 (%)	10.5	10.5	5.3	26.3	21.1	26.3	100.0

5 友愛デイサービスセンター

障害福祉サービス 生活介護事業
身体障害者・児短期入所事業

1 平成30年度「重点計画事項」の実施状況

生活介護事業は、事業スペースを別館2階から友愛園1階へ移設した。専用の浴室も設置したため、大幅な業務の効率化とサービスの向上を図ることができた。

利用者状況では、新たに5名の利用者を迎えたものの、2名が逝去し1名が65歳を迎え介護保険施設へ移行したため、登録者数は17名となった。さらに体調不良による長期自宅療養者の他、安定した看護体制を確保できず医療的ケアの必要な利用者に通所を控えていただく事態も発生し、対現員利用率は目標の80%を大きく下回った。新規利用者確保の一環として、実習生や見学者を積極的に受け入れたが、次年度の利用希望を頂くことはできなかった。

職員体制では、生活支援員の産休代替職員を確保できず、支援体制に影響を及ぼすこととなった。また、機能訓練指導員を確保できないため、外部の理学療法士との連携や世田谷区の技術支援事業を継続し、作業療法士や言語聴覚士による専門的な視点での助言に基づき、利用者の状況に応じた効果的な支援の提供に努めた。医療的ケアについては、5名の生活支援員が痰の吸引や胃瘻による経管栄養注入を実施できるようになっている。

短期入所事業は、委託業者の介護人不足が深刻化し、利用者の希望に応えることが難しくなったため、委託業者の変更に向け準備を進めた。利用率の向上を目指し、急なキャンセルや利用希望がなく空床が発生した場合には、他の利用者、家族に積極的に利用を促すなどの営業活動を実施したことにより、目標を僅かに超えることができた。

2 重点事項

方針管理書（計画・目標）の実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重 点 施 策	担 当	目標値に対する結果
A 経営 財務	1	① 経営の安定化		
		ア 生活介護事業	全職員	利用率は目標80%以上に対し70%となった。
		イ 短期入所事業	全職員	利用率は目標110%以上に対し113%となった。
B 品質	1	② 利用者支援の充実		
		ア 生活支援	全職員	個別支援計画のPDCAを確実に実施できるよう策定体制を見直した。
		イ 健康管理	全職員	家族、嘱託医と連携して健康管理を行い、症状の早期発見に努めた。
		ウ 給食	関係職員	行事食は利用者・家族より好評を得た。
		エ 機能訓練	全職員	外部の専門職と常に利用者情報を共有し、適切な支援の提供に努めた。
		オ サービス評価	全職員	顧客満足度の目標90%以上に対し、生活介護は92%、短期入所は49%となった。
C 人材 育成	1	③ 人材マネジメントの取り組み		
		ア 人材育成	全職員	外部研修は6件参加し、内部研修は9件実施した。
		イ リスク管理	全職員	7月にリスク管理委員会を立ち上げた。リスク発件数は233件となり、前年度比で66件増となった。
		ウ 手順書の整備	全職員	各職種の業務内容を見直した。
E その他	1	④ 関係者との連携	全職員	相談支援事業所の主催する担当者会議への参加は3ケースのみとなった。

《実施状況の評価》

A 経営財務

A1 経営の安定化

ア 生活介護事業

- ・看護師を中心に家族と連携し、体調不良の早期発見やその後の適切な静養支援を行い、長期欠席や長期入院を最小限に抑えることができた。
- ・世田谷区・特別支援学校・相談支援事業所などに対して訪問や電話によるPR活動を実施した結果、8名の施設見学と施設間移動も含めた5名の利用契約につなげることができた。
- ・必要に応じて迎車の2便対応を実施し、通所準備が間に合わないことによる欠席を回避するとともに、外部の短期入所先との間の送迎も実施し、利用率の向上に努めた。
- ・友愛十字会標準をはじめとする手順書の整備を促進し、特定職員の業務は、担当職員の複数化を進め、適切な業務分配に努めた。その結果、業務の効率化とサービスの更なる向上を達成し、厳しい人員配置の中でも職員のワークライフバランスを維持することができた。

イ 短期入所

- ・利用のキャンセルが発生した際は、委託業者と連携し早期に他の登録利用者へ利用を薦め、利用者確保に努めた。
- ・利用者の入退所時間に変更になった場合は、生活介護事業の職員が随時対応し、利用者への影響や介護人の不在によるキャンセルを回避した。

- ・給食委託業者の意見も踏まえて給食の変更に係る新規書式を作成し、連絡や確認の不便による施設負担費用の発生を大幅に軽減することができた。
- ・利用の調整に時間がかかる場合は、利用者及び家族へ調整状況を報告するとともに、原則第3金曜日までに最終的な利用の可否を連絡することとしたことで、クレームへの発展を回避できた。
- ・かねてより希望どおりに利用できないとの不満の声が多かったため、委託業者の変更による体制強化を検討し、利用率の向上を目指すこととした。

B 品質

B1 利用者支援の充実

ア 生活支援

(ア) 活動の充実

- ・外出活動では、季節ごとに様々な外出先を訪問することができた。医療的ケアが必要な利用者の外出は、事前に家族と情報を共有した看護師が同行するなど、安全に配慮した体制のもとで実施したが、不安定な看護師体制により中止せざるを得ないこともあった。
- ・他施設との交流行事を継続し、利用者のみならず職員も交流を深めることができた。
- ・利用者の適性に応じた活動として、「園芸」や「カレンダー作成」を実施し、利用者から好評を得た。完成した作品は活動室内に掲示した他、多くの場面で活用し、利用者のやりがいを維持した。

(イ) QOLの向上

- ・利用者支援や事業運営に関わる外部研修に参加し、学び得た知識や情報は内部勉強会やミーティングで共有し、サービスの質の向上に努めた。
- ・利用者及び家族の状況やニーズは、日々のミーティングで共有し、サービスに反映させることができた。
- ・介助の要点をまとめた手順書の更新が停滞したことにより不適合サービスも発生したため、適宜見直した。

(ウ) 個別支援計画の充実

- ・相談支援事業所が主催するサービス担当者会議への参加は、調整が難航したため4名の利用者に留まった。
- ・PDCAを確実に実施できるよう個別支援計画の策定体制を見直すとともに、相談支援事業所との連携及び当該事業所が作成するサービス等利用計画との整合性を確認することで、利用者支援の充実や個別支援計画の精度を向上させることができた。

(エ) 生活環境の整備

- ・友愛園1階へ移転後は生活スペースが狭くなったが、多目的室や相談室を有効に活用しながら、狭隘さを感じないように配慮した。訓練室でも高床の交換利用や室内を随時整理整頓することでスペースを確保し、効率的に運用した。
- ・季節ごとの室内装飾には利用者が創作活動で作成した作品も取り入れ、利用者の主体性を確保しながら楽しく過ごせる環境作りに努めた。

イ 健康管理

- ・通所時にバイタル測定や様子を確認するとともに、連絡帳をはじめとした家族との情報共有によって異常の早期発見に努めた。また、感染症が疑われる症状が見られた際は、隔離等の適切な初動を確実に実施し、適宜家族へも健康指導などを行うことで、感染拡大や重

篤化を最小限に留めることができた。

- ・利用者の日々の様子や利用者・家族が抱える不安などは、嘱託医に適宜相談した。相談の結果、特定の疾患が疑われるケースもあり、家族への助言や通院の促しなど適切な支援につなげた。
- ・相談支援事業所や居宅介護事業所・医療機関などの関係機関と連携し、サービス担当者会議で情報を共有するとともに、最適な支援の提供を目指した。
- ・安楽な呼吸の確保や側彎の進行予防について、世田谷区の技術支援事業により招聘している理学療法士より、利用者の身体や呼吸状態に合わせた有効なポジショニングの助言を得て、支援に反映させた。腹臥位療法は利用者の健康管理に不可欠であり、利用者の心身の状況に合わせて、適切に提供できた。

ウ 給食

- ・世田谷区の技術支援事業により招聘している言語聴覚士から、利用者の食事時姿勢や嚥下状況に関する助言を得ることで、利用者が安心・安全に摂取できる介助へ見直すことができた。
- ・行事食は、委託業者の協力により見た目も華やかな季節感にあふれたメニューを提供することができた。
- ・限られたスペースの有効活用として、従来の訓練室に加え多目的室や相談室での食事を実施し、狭いながらも円滑な導線確保に努めた。

エ 機能訓練

- ・各利用者の機能訓練や日常生活動作については、世田谷区の技術支援事業により招聘している理学療法士と言語聴覚士に相談し、助言をもとに策定したプログラムや支援内容を提供した。しかし、支援の都度助言を仰ぐことが困難であり、一部の利用者は訓練メニューの提供開始から評価・更新に至る一連のシステムを確立できず、現行の訓練項目を継続するに留まった。
- ・腹臥位療法は継続して実施し、利用者の側湾予防や排痰促進などのケアに活用した。また、安静時のポジショニングも各職員間で共有し、日常的に提供することができた。
- ・補装具などの修理や作成については、世田谷区の技術支援による専門職の助言や通所中の様子を関係機関、家族と情報を共有し、最適な補装具の作成を支援した。

オ サービス評価

- ・内部監査及び顧客満足度調査は継続して実施し、収集した意見はサービスの改善に反映した。顧客満足度調査の結果、概ね満足が生活介護事業では 92%と高評を得たものの、短期入所事業は 49%と厳しい評価となった。短期入所事業における低評価の要因として、希望どおりの利用ができないことや、設備の老朽化、狭隘さがあげられる。
- ・顧客満足度調査の質問項目を利用者の状況や施設状況に即した内容へと見直し、より効果的なニーズ抽出に努めた。
- ・短期入所の第三者評価を初めて実施し、サービス改善に活用した。利用者、家族から徴収された意見では、顧客満足度調査結果と同様、希望通りの利用ができないことや設備の老朽化が多くあがった。

C 人材育成

C 1 人材マネジメントの取り組み

ア 人材育成

- ・体調不良にて長期休暇となった職員と研修を申込んだが抽選漏れとなった職員を除き、常勤職員は1回以上の外部研修を受講した。内部研修については9回実施し、職員のスキルアップにつなげた。また、法人内における研究事例発表に2名の職員が参加し、プレゼンテーション力の育成に努めた。
- ・生活支援員による喀痰吸引をはじめとする認定特定行為業務従事者の登録は3名を予定していたが、2名に留まった。
- ・国家公務員による介護等実施体験研修に3名、社会福祉士ソーシャルワークプレ実習に2名、介護福祉士養成専門学校の生職場見学に1名を受入れ、地域交流と福祉人材の育成に貢献した。また、実習中は指導内容に応じて担当職員を配置し、職員の指導力の育成に努めた。なお、例年受け入れていた中学生の職場体験やインターンシップ学生の希望はなかった。国家公務員の介護等実地体験研修では、20年にわたり行政の将来を担う人材の育成に貢献したとの評価を受け、人事院公務員研修所より感謝状が贈呈された。

イ リスク管理

- ・生活支援員1名の参加を予定したリスクマネージャー養成研修は、応募者多数により参加できなかったため、次年度に改めて応募することとした。
- ・リスクマネージャー有資格者を中心としたリスク検討委員会を7月に設置し、発生した不適合サービスや様々なリスクに対する是正処置及び予防対策について、適切に管理する体制を整えた。
- ・リスクに関する内部研修は、1回のみの実施となった。
- ・毎月輪番により全職員がリスク担当者となり、不適合サービスや様々なリスクを分析し、改善策のPDCAを確実に管理することで、リスクマネジメントに対する意識の向上に努めた。リスク対応の担当制は、リスク検討委員会を設置したため廃止とした。
- ・不適合サービスに対する改善目標は訓練室内に掲示し、リスクに対する職員の意識付けを促すとともに、終礼での周知を継続することで、リスクの発生を抑制した。

ウ 手順書の整備

- ・利用者支援や施設運営に関わる友愛十字会標準の整備や、事故対応マニュアル・感染症マニュアル等の整備、その他支援時に使用する書類を見直し、サービスの平準化と質の向上に努めた。
- ・今年度までに実施した災害時を想定した宿泊訓練で得られたノウハウや、各種通知等を元に災害時対応マニュアルを策定し、災害発生時における初期対応から、関係機関・保護者への連絡体制及び手順、想定される様々な事態への対応方法、物品の保管場所などを明確にした。また、家族との緊急連絡網を整備し、有事における連絡体制を強化した。

E その他

E 1 関係者との連携

- ・世田谷区の主導する自立支援協議会へ参加し、多くの事業者と関係を強化した。
- ・担当ケースワーカーや相談支援事業者、その他関係者と連携し、利用者の状況に応じた適切なサービス提供に努めた。
- ・短期入所事業の委託業者とは毎月の会議を継続するとともに、随時、利用者状況の確認とリスクに関する情報を共有し、サービスの向上に努めた。

3 運営管理

平成 30 年度の職員配置、研修参加の状況は、次のとおりである。

(平成 31 年 3 月 31 日現在、単位:人)

職種区分 配置区分		施設長		サービス 管理責任者	生活 支援員		作業療法士	看護師	事務員 *2	栄養士	調理員等	計	備考
					副主任	生活支援員 *1							
法による 人員基準		サービス管理責任者 1 人以上 利用者 1.7 人：職員 1 人以上（常勤換算）											
現 員	常勤職員	1		1	1	5		1	1			10	
	非常勤職員					1		2				3	
	計	1		1	1	6		3	1			13	

*1：1 名短期入所

*2：本部付

(2) 研修参加の状況

研修名	参加職種	主催	参加人員	実施月
内部研修				
1. 法人関係				
(1) 新入職員研修	新職員	教育委員会	1名	4月
(2) 新入職員フォローアップ研修	新職員	教育委員会	1名	2月
2. 施設内研修				
(1) 新入職員研修	新職員	担当職員	1名	11月
(2) 伝達研修	全職員	担当職員	13名	随時
(3) 自主勉強会	全職員	常勤職員	9名	4～3月
外部研修				
(1) 中堅職員研修	生活支援員	インソース	1名	3月
(2) 管理者研修	施設長	インソース	1名	1月
(3) クレーム対応	副主任	お茶の水ケアサービス学院	1名	6月
(4) 障害者のプール指導	生活支援員	心身障害児総合医療センター	1名	5月
(5) OJT スキルアップ研修	生活支援員	福利厚生センター	1名	10月
(6) トランスファー研修	サビ管	世田谷区立総合福祉センター	1名	12月
(7) 利用者の権利擁護と虐待防止に関する研修	センター長・生活支援員	東京都社会福祉協議会	2名	2月

4. 平成30年度事業計画の実施状況

(1) 施設行事

実施月	月 日	行事名	実施場所	参加者 (単位:人)			
				利用者	職員	他	計
7月	7月6日	七夕会	本館第二多目的室	13	11	2	26
8月	8月5日	夏祭り	本館第二多目的室	12	10	2	24
9月	9月19日	入所式	訓練室	12	10	2	24
10月	10月26日	ハロウィンレク	訓練室・他施設	12	8	2	22
10～2月	10/19、11/9、12/14・21、2/1・8	課外活動	港センター 品川アクアスタジアム	15	7	0	22
12月	12月7日	お楽しみ会	訓練室・本館第二多目的室	15	11	3	29

(2) 相談状況

平成30年度に実施した個別面接の状況は、次のとおりであった。(単位:件)

月 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通 所	0	0	0	0	0	10	1	0	0	0	0	14	25
短期入所	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	3

(3) 地域連携

①実習生の受入状況

実習依頼先機関	実施月	期 間	学 生	社会人等
人事院	6 月	6 月 4 日～6 月 8 日		3
昭和女子大	11 月 12 月	11 月 26 日～11 月 30 日 12 月 3 日～12 月 7 日	2	

②ボランティアの受入状況

内容	延回数	実施方法	グループ・個人名	人数
(1) 主要行事関係				
ふれあい祭	1	介助・介護	関澤様他	1
お楽しみ会	1	介助・介護	岸井様他	3
宿泊訓練	1	介助・活動補助	久保山様他	1
七夕会	1	介助・介護	山川様他	3
入所式	1	介助・移動	山川様他	2
(2) 通常活動		活動補助他	久保山様他	3

(4) 運営会議等の状況

区分 事項	概 要	実施予定 日・回数	参加人員（見込）		備 考
			利用者	職員	
(1) 運営管理 ① 会 議	ア 職員会議	月 1 回		全員	予定通り
	イ 生活支援員会議	月 1 回		生活支援員	予定通り
	ウ 活動会議	随時		関係職員	未実施
	エ 業務調整会議	月 1 回		職種代表	予定通り
	オ ケース会議	随時		全員	全員実施
	カ サービスプラン面談	年 2 回		全員	16 名実施
	キ 短期入所調整会議	随時		関係職員	毎月実施
	ク 苦情解決委員会	随時		関係職員	5、6 月に実施
	ケ 介護職員会議	月 1 回		生活支援員	予定通り
	コ 指導員相談員会議	月 1 回		生活指導員	予定通り
	サ 看護師会議	年 6 回		看護師	予定通り
	シ 世田谷区身障施設長会	随時		センター長	2 回出席
	ス 短期入所施設連絡会	随時		センター長	未実施
	セ 利用調整会議	随時		副主任生活 支援員	3 回出席
	ソ 委託業者協議会	随時		関係職員	送迎バス委託業者 2 回実 施、短期入所委託業者毎 月実施。
	タ 自立支援協議会	随時		関係職員	2 回出席
	チ 医療的ケア提供施設会議	随時		センター長	未実施
	ツ 高次脳機能障害関係施設 連絡会	年 4 回		生活支援員	3 回出席
	テ リスク管理委員会	随時		リスク担当	5 回実施
②職員研修	ア 内部研修 ・スキルアップのための各職 種による研修	随時		全員	7 名実施
	イ 法人研修 ・基礎講座	随時		全員 未受講者	1 名受講
	・衛生講座	随時		未受講者	1 名受講
	・リハビリテーション講座	随時		未受講者	未実施
	・会計経営講座	随時		未受講者	1 名受講
	ウ 外部研修	随時		関係職員	7 名受講
③健康管理	ア 定期健康検診	年 1 回		全員	全職員
	イ 検便	毎月		全員	予定通り

④防災対策	ア 避難訓練 イ 安全委員会 ウ 通所バス避難訓練	毎月 奇数月 1回	全員 全員	全員 担当職員 全員	予定通り 予定通り 11月実施
(2)利用者支援 ①支援方針	ア サービスプラン作成 イ サービスプラン面談 ウ 関係事業者担当者会議	通年 年2回 随時	全員 全員 全員	関係職員 関係職員 ケース担当	全員作成 13名実施・4名未実施 全員実施
②健康管理	ア 定期健康診断 イ バイタルチェック ウ 体重測定 エ 健康指導	年1回 毎日 月1回 月1回	希望者 全員 全員 全員	看護師 看護師 看護師 嘱託医師	4名 毎日通所者全員実施 予定通り 予定通り
③家族会・懇談会	ア 事業報告・情報提供等	毎月	家族	関係職員	家族会：4回実施 懇談会（生活介護） 5回実施 懇談会（短期入所） 1回実施
④行事	ア デイ主要行事 ・ゆとり外出 ・課外活動 ・季節行事 イ 法人三人行事 ・盆踊り ・合同運動会 ・ふれあい祭り	随時 随時 随時 7月 10月 10月	希望者 希望者 希望者 希望者 希望者 希望者	関係職員 関係職員 全員 全員 全員 全員	予定通り 10月～2月に実施 七夕会・お楽しみ会 予定通り 予定通り 予定通り
(3)実習生・ボランティア受入	ア 目黒短期大学実習 イ 国家公務員初任行政研修 ウ 職場体験実習 エ インターンシップ実習 オ 昭和女子大実習	8月・9月 6月・8月 3月 随時 11月・12月		関係職員 関係職員 関係職員 関係職員 関係職員	希望なし 3名 希望なし 希望なし 2名

(別表)

友愛デイサービスセンター資料

(平成31年3月31日現在)

1 生活介護事業

(1) 基本事業(通所)

① 利用者の状況

ア 性別・年齢別状況

年齢 性別	20歳 未満	20～ 25歳	26～ 30歳	31～ 40歳	41～ 50歳	51～ 60歳	61歳 以上	計(人)
男	0	1	1	1	1	1	0	5
女	0	2	1	4	3	1	1	12
計	0	3	2	5	4	2	1	17

イ 障害・疾患別状況

主疾患	人員(人)	身障手帳(級)	主疾患	人員(人)	身障手帳(級)
脳性麻痺	10	1	遺伝性プリオン病	1	1
レット症候群	1	1	もやもや病	1	1
多発性硬化症	1	1	高次脳機能障害	2	1
筋ジストロフィー	1	1			

ウ 区分別状況

※()内再掲

区 分	6	5	4	3	合計(人)
人 員	16	0	1	0	17

② 月別利用状況延べ人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)
定 員	400	400	440	400	440	400	460	400	400	360	380	420	4,900
延人員	219	225	233	212	256	165	234	249	234	230	232	252	2,741

③ 障害程度区分別利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)
区分6	209	211	214	193	232	157	224	241	227	222	224	244	2,598
区分5	10	9	11	9	11	0	0	0	0	0	0	0	50
区分4	0	5	8	10	13	8	10	8	7	8	8	8	93
区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	219	225	233	212	256	165	234	249	234	230	232	252	2,741

(2) 加算事業

① 月別状況延べ数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(回)
給食	193	199	204	181	220	138	199	211	194	203	200	220	2,362
入浴	39	52	43	40	43	30	36	38	35	33	35	42	466
送迎	420	423	446	402	454	293	443	427	378	425	405	429	4,943

2 短期入所事業

(1) 利用者の状況

① 性別・年齢別状況

年齢 性別	10歳 未満	10～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上	計(人)
男	0	0	11	2	7	0	0	20
女	0	3	10	5	4	3	0	25
計	0	3	21	7	11	3	0	45

② 障害・区分別状況

年齢 性別	障 害 区 分									計(人)
	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	児童3	児童2	児童1	
男	17	0	2	1			0			20
女	18	2	1	1			3			25
計	35	2	3	2			3			45

2) 利用実績状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
定員(床)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
利用者数(人)	33	38	34	33	32	27	32	33	30	32	35	35	394
利用日数(日)	101	114	104	100	102	86	100	103	107	104	108	109	1,238
利用泊数(泊)	70	79	70	68	70	58	68	72	79	72	76	75	857
利用率(%)	80.0	84.9	77.8	72.0	75.3	65.5	73.1	80.0	84.9	77.4	90.4	80.6	78.5

6 友 愛 ホ ー ム

(養護老人ホーム)

1 平成 30 年度「重点計画事項」の実施状況

今年度の収支状況については、年間利用率が目標値に達し、収益率は3期連続で黒字を達成した。入所者の利用状況では、前期の利用率は 95.0%で推移したが、後期は 99.0%まで改善し、年間目標値 97.0%を達成した。この改善要因としては、営業活動の継続に加え、9月と12月に派遣職員を採用し支援員の日勤体制を補強したことで措置元の福祉事務所からの照会に応じられる体制になったものと考えられる。一方で、職員の人材確保は採用困難の状況が続いており、人材派遣会社等の経費の支出が増えている。養護老人ホームは処遇改善対象施設ではないことから、今後とも人材の確保困難は継続することが予測される。職員の人材確保並びに定着がサービス向上に不可欠であることから働きやすい職場作りを検討していく。

利用者支援の充実では、個別音楽セラピーが定着し集団レクに馴染みにくい利用者の支援プログラムが充実した。また、一泊旅行等大型行事も予定通り実施した。設備整備では、老朽化した男性浴室及び女性浴室の外扉の更新や利用者への情報発信ツールとして3階デイルーム及び4階食堂にデジタルサイネージ（大型ディスプレイ）を新たに設置した。

福祉サービス第三者評価受審の結果は、利用者の転倒事故報告への対応をより有効にするための対策を求める指摘があり、次年度の重要施策として取り組む。

2 重点事項

(1) 方針管理書（計画・目標）の実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重 点 施 策	担 当	目標値に対する結果
A 経営 財務	1	安定的な事業経営 (a) 利用率の維持・向上 (b) 収支状況の確認と調整	全職員	①利用率目標値 97%以上（前年値） →達成 実績 97.0%（±0） （入所 12 件、退所 14 件）
			相談員	②措置元の新規開拓 2 件以上 →未達成、実績 1 件（板橋区） 新規担当事務所の開拓は継続する。
			相談員	③世田谷区内利用者 3 名以上の受け入れ →達成、実績 3 件、区内 5 事務所 への情報発信は継続する。
			事務員	④四半期毎の収支状況の報告 →四半期毎の実施は出来なかった。内 容を改めて継続する。
			設備修繕 委員会	⑤計画的な老朽化対策の推進 →実施、前期に浴室扉の改修やセンサ ーマットの更新、後期にデジタルサイ ネージ設置、居室内テーブル 10 台を 購入した。

B 品質	1	利用者支援の充実	清掃業務委託管理係	①清掃業務の委託管理の継続 →委託は継続したが、利用者から浴槽清掃不十分の評価があり、レジオネラ属菌の検出もあった。より一層、積極的な管理を行っていく必要がある。
			相談員	②顧客満足度調査の実施と評価 →実施、サービスマナーの向上が改善できた。
			栄養士	③給食満足度の改善（前年比） →達成した。45%から 82.5%へ改善した。
	2	生きがい支援の充実	担当支援員	①音楽セラピーの本格導入 →達成した。一年間の定例化を行った。
			生きがい支援PT	②利用者の施設内役割の継続 →実施したが、次年度は継続的に発展した活動の支援を行う。
	3	安全衛生対策の実施	BCP 対策 WG	①BCP 訓練の実施 →未実施、次年度は BCP の策定を完成する。
			支援員	②循環型浴槽対策レジオネラ（ゼロ） →未達成、次年度は配管消毒を計画に入れ、徹底し予防する。
			看護員	③インフルエンザ・食中毒予防の懇談会実施 →未実施、次年度は、全体会で効果的に行う。
			支援員	④転倒・離脱行為への予防処置の実施 →不十分、具体的な予防処置を評価できるように進める。
C 人材育成	1	人材育成マネジメント (a) サービスマナー向上 (b) 内部研修の充実	各委員会	①リスクマネジメント研修の開催→達成、予定通り 6 回実施した。
			全職員	②伝達研修の実施 →達成、2 件実施した。
			全職員	③年 1 回以上の外部研修の参加 →全員を参加させることは出来なかった。
	2	職員教育の体制整備	MS 検討委員	①YS 指導票の整備と活用 →未実施、更新作業に至らなかった。
			支援員	②要員の適格性確認の整備 →実施した。

《実施状況の評価》

A 経営財務

A 1 安定的な事業経営

利用率の年間目標値 97.0%達成により事業活動収支を黒字とした。入退所状況では、新規入所 12 件、このうち、世田谷区内からの新規利用は 3 件あったが、都内措置元の新規開拓活動の結果、板橋区からの受入れができた。前期が利用率 95%に低迷し、利用率改善のためには、通院を支援する職員の確保が課題になり、9 月と 12 月には派遣職員を採用し支援員の日勤体制を補強した。その結果、後期の利用率は 99%に改善させることができた。施設設備は、老朽化により浴室扉の交換工事や浴槽ろ過装置の改修、水道管の漏れの改修工事を行った。また、1 月の水質検査で、浴槽からレジオネラ属菌が検出されたが、幸い利用者に感染症状は見られなかった。感染症対策の徹底と強化のため浴室配管消毒清掃を来年度の年間計画に織り込む。

B 品質

B 1 利用者支援の充実

①清掃業務を外部委託し 2 年目だが、利用者から浴槽清掃不十分の指摘があった。更に、浴槽からレジオネラ属菌が検出したため、作業手順を確認したところ指示手順が順守されていなかったことが判明した。委託先との会議で改善を指導指示しており、業務の監視及び確認を行っていく。

②顧客満足度調査では、サービスマナー向上の取り組み成果として 2 年連続で利用者の満足度が向上した。一方、利用者への情報提供では放送アナウンスの方法や予定変更などの周知方法に課題があることがわかった。

③給食については、利用者調査の結果、満足度は前年度 45%が今年度 82.5%に改善した。栄養士の交替はあったものの、献立や調理方法に大きな変更はないためその要因は不明であることから、次年度の調査結果の観察を継続する。

B 2 生きがい支援の充実

①個別音楽セラピーが定着したことで、集団活動に馴染みにくい利用者、特に難聴の方や認知症の方の余暇活動を充実することができた。

②元気で活躍の場を求めている利用者については、食堂の下膳補助、ゴミ回収補助、喫煙室の清掃、ゴミ出し係、放送係、椅子拭きなど施設内のボランティア的な役割を担ってもらった。施設内から地域参加を促していくことが今後の課題である。

B 3 安全衛生対策の実施

①BCP 訓練は未実施で終わった。次年度はBCP 策定を完成させる。

②浴槽水からレジオネラ属菌が検出した。前述 A1 及び B1①のとおり清掃業者の委託管理の強化に加え、配管定期消毒を実施することで予防処置を図っていく。

③インフルエンザ感染防止及び食中毒防止対策については、通年の手洗い指導と予防強化期間の対応で予防することができた。次年度は小グループの懇談会ではなく全体会を有効活用していく。

④転倒・離脱行為への予防処置の実施については、毎月の事故防止対策検討委員会で報告し対策を検討しているが、第三者評価では具体的な予防処置を図ることを求められている。次年度は事故報告データから予防処置を講じ結果につなげるように努める。

C 人材育成

C 1 人材育成マネジメント

- ①リスクマネジメント研修として4つのテーマ（事故防止対策、感染症対策、サービスマナー向上、高齢者虐待防止対策）を予定どおり実施した。
- ②伝達研修は参加者から2件の発表を行った。
- ③外部研修については、職員全員の派遣は出来なかったが、法人の階層別研修に82%が参加した。

C 2 職員教育の体制整備

- ①YS指導票の整備と活用については、更新作業に至らなかった。
- ②支援員の要員の適格性確認の整備が整ったため、新人育成期の確認時に活用していく。

3 運営管理

(1) 入退所状況

(別表) 友愛ホーム資料1. 2のとおりである。

(2) 職員配置状況

平成30年度の職員配置状況は、次のとおりである。

(平成31年3月31日現在、単位：人)

職種区分 配置区分		施設長	嘱託医	事務員	相談員		支援員		看護職員	栄養士	調理員等	計	備考
					主任	相談員	主任	支援員					
配置 定員	国配置基準	1	1	1	1	2	1	4	1	1	4	17	注1
	区等増配置							1				1	
	計	1	1	1	1	2	1	5	1	1	4	18	注2
現員	常勤職員	1		1	1	2併1	1	5	1	1	1	14併1	注3
	非常勤職員		2					4	1			7	
	計	1	2	1	1	2併1	1	9	2	1	1	21併1	

注1 国配置基準欄の調理員等4名中、1名は非常勤職員分である。

注2 国配置基準中の調理員等の内1名は営繕手、他の3名は給食調理の外部委託分に相当するものである。

注3 ホーム職員中、事務員及び営繕手は組織上本部職員を併任している。

(3) 職員研修の状況

研修名		参加職種	主催	人員	実施月
法人研修	①初任者研修	支援員	教育委員会	3人	4月
	②初任者研修（フォローアップ）	支援員	教育委員会	3人	2月
	③中堅職員研修	支援員、看護師	教育委員会	3人	11月
	④役職者研修	副主任	教育委員会	1人	2月
	⑤管理者研修（リスクマネジメント）	園長、部長	教育委員会	2人	2月

内部研修	①サービスマナー向上研修Ⅰ	全職種	サービスマナーリーダー	12名	5月
	②感染症対策研修Ⅰ	全職種	看護師	5名	6月
	③事故防止対策研修Ⅰ	全職種	副主任支援員	5名	7月
	④高齢者虐待防止研修Ⅰ	全職種	養護部長	8名	8月
	⑤サービスマナー向上研修Ⅱ	全職種	サービスマナーリーダー	9名	10月
	⑥感染症対策研修Ⅱ	全職種	看護師	8名	11月
	⑦事故防止対策研修Ⅱ	全職種	副主任支援員	8名	12月
	⑧高齢者虐待防止研修Ⅱ	全職種	養護部長	10名	1月
	⑨伝達研修「養護職員に必要なコミュニケーション技術（アサーション）」	全職種	支援員	8名	2月
	⑩伝達研修「接遇・マナーを学ぶ研修」	全職種	支援員	6名	3月
外部研修	①高齢者虐待防止研修	園長、副主任	東京都福祉保健財団	2人	8月
	②都内老人福祉主事と共催研修会	園長	養護分科会	1人	11月
	③特例給食施設講習会	栄養士	世田谷保健所	1人	11月
	④学会分類解説セミナー	栄養士		1人	1月
	⑤チームマネジメントを学ぶグレートアップ研修	副主任	東社協	1人	2月
	⑥養護職員に必要なコミュニケーション技術（アサーション）研修	支援員	養護分科会	1人	2月
	⑦接遇・マナーを学ぶ研修会				
	⑧地域包括ケアに取り組む生活相談員の姿	支援員 生活相談員	東社協 東社協	1人 1人	2月 3月

4 利用者処遇

① 施設行事の実施状況

本年度における主要施設行事の実施状況は、次のとおりである。（単位：人）

実施日	行事名	場 所	参加人員		
			利用者	職員	計
3/29	お花見	NHK 技研	15	4	19
4/20	ホーム喫茶	食堂	39	2	41
5/5	端午の節句（飾り付）	食堂	—	—	—
5/9	バスハイク	深大寺・神代植物公園	5	2	7
5/24	ミニ運動会	食堂	62	11	73
7/5	七夕会	屋上	66	13	79
7/18	納涼盆踊り大会	法人前庭	67	15	82
8/21	盆法要	食堂	34	4	38
9/14	敬老会	食堂	64	10	74
9/26	秋彼岸法要	食堂	28	6	34
10/2	青空ランチ	食堂・屋上	64	8	72

10/7	友愛ふれあい祭り	法人全館	64	14	78
10/13	玉川花火大会鑑賞会	4階集会室（雨天中止）	13	2	15
10/16～17	一泊旅行	山梨県・河口湖	11	7	18
11/17	ホーム喫茶	食堂	64	2	66
11/18	合同運動会	世田谷区総合運動場	35	10	45
12/14	忘年会	食堂	67	8	75
1/1	新年祝賀会	食堂	66	6	72
2/1	豆まき	集会室	27	4	31
2/2	ホーム喫茶	食堂	64	3	67
2/15	よりどりランチ・家族会	食堂・第2多目的室	64	9	77
3/3	ひな祭り（飾り付）	集会室	—	—	—
3/14	春彼岸法要	食堂	30	4	34

② クラブ活動等の実施状況

本年度における実施状況は、次のとおりである。

（単位：人）

名 称	活動内容	実施日	延参加人員
書 道	} 地域のサファイア クラブとの合同活動	第1.3月曜日	3
ペン習字		第1.3月曜日	—
絵手紙		第2.4月曜日	2
歌の会		第2月曜日	7
詩吟		第4月曜日	2
外出	買物・外食	月1回	29
映画	映画の鑑賞	第3火曜日	64
華道	花の生け込み	第2.4火曜日	91

③ 健康維持活動（介護予防加算対象及びそれに準ずる活動）の実施状況

本年度における実施状況は、次のとおりである。

（単位：人）

名 称	活動内容	実施日	延参加人員
楽しい歌声会	日本の名曲の合唱	第2・4火曜日	231
のびのびグループ	合奏（音楽療法）	第1、3、4木曜日	458
石渡体操	石渡先生による体操	第2、4木曜日	215
友遊会	公園散策・室内ゲーム等	毎週金曜日	47
ゲートボール	ゲーム	第1.3火曜日	83
料理クラブ	調理・会食	月1回	50
アニマルセラピー	動物とのふれあい	隔月	62
朝の体操	ラジオ体操、ストレッチ体操、他	毎週月～金曜日	—
音楽セラピー	個別音楽療法	月2回	117

④ 全体会の開催状況

本年度に開催した全体会の状況は、次のとおりであった。

(単位：人)

月	主なテーマ	参加者	
		利用者	職員
4月	「福祉サービス第三者評価」等を踏まえたサービス改善計画・実施状況について	37	10
5月	床清掃、布団乾燥について	38	12
6月	七夕会、盆踊り大会について	45	13
7月	熱中症について	40	6
8月	立ち入り禁止区域について	47	6
9月	ふれあい祭り、青空ランチ、合同運動会、一泊旅行、光明学園交流会について	39	7
10月	合同運動会、冷蔵庫の使用について	47	11
11月	顧客満足度調査について	49	13
12月	年末年始の過ごし方	42	11
1月	家族会について	37	10
2月	日用品・被服費について、顧客満足度調査とその対応について	42	11
3月	お花見、ホーム喫茶、不在者投票について	43	12
計		506	122

5 健康管理

- (1) 内科嘱託医による定期健康診断（年2回）・インフルエンザ予防接種の実施、精神科嘱託医による月2回の診察を実施、疾病の早期発見につなげた。
- (2) 内部研修では、標準予防策の手洗いに重点を置いた研修を実施、ブラックライトを使用し手指の汚染状況を可視化することで手洗いが不十分になりやすい個所を確認、手洗い必要性を理解した。

6 給食状況

- (1) 給食委託業者のプロポーザルの実施

今年度は、給食委託業者のプロポーザルを実施し、来年度もシダックスとの契約を締結した。長年委託している給食業者で給食を提供することにより安定した給食運営を行う事ができ、安心安全な給食を提供することができる。

- (2) 食事満足度の向上

昨年度実施した「食事アンケート」は、食事満足度が前年と比較し大幅に低下する結果となった。栄養士の交代はあったものの、献立や調理方法に大きな変更はないが、昨年度の満足度45%から82.5%に上昇した。来年度は満足度が低下しないように献立や食環境等に工夫をしていく。

7 地域連携

(1) 実習生の受入

本年度の実習生受入れは、次表のとおりである。(単位：日・時間・人)

区 分	研修期間		対象者	人員	主な研修
	日数	時間			
10/2～5、10/7	5	30	日本体育大学	2	教員免許取得希望者の介護等体験

(2) ボランティアの受入

(単位：回・人)

活動名	延回数	内 容	グループ・個人名
詩吟クラブ	7	詩吟指導	藤田清也
ゲートボールクラブ	16	ゲートボール指導	馬場武子
絵手紙クラブ	10	絵手紙指導	山田たき子
楽しい歌声会	17	合唱指導	末木江津子 米田恵子
のびのびグループ	32	音楽療法	深井真理子〔東京ミュージックボランティア協会〕
石渡体操	20	ストレッチ・筋トレ	石渡敬一郎
アニマルセラピー	6	動物とのふれあい	早田由貴子 棚網純子
音楽セラピー	24	音楽療法	小畑あや氏
変わり湯	7	イベント浴・菓子提供	山下ヤス
ハサミの日 カットボランティア	1	ヘアカット	山野学苑
交流会	1	ゲーム・合唱	砧教会教会学校
〃	1	〃	ガールスカウト東京都61団
〃	1	合唱	砧幼稚園ママさんコーラス
〃	1	合唱	コーラスグループたんぽぽ
〃	1	合唱	アンサンブル3355
〃	1	遊戯発表	砧幼稚園

(3) 特別支援学校における社会貢献活動モデル事業の受入れ

都立光明学園の社会貢献活動モデル事業として、生徒4名が友愛ホームに訪問し利用者との交流を行った。友愛ホームからは18名の利用者がスポーツボッチャの体験やクイズに参加し楽しい時間を過ごした。

(別表)

友愛ホーム資料

1 月別入退所者状況

(単位：人)

月別 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所定員	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	840
利用者数	67	64	67	67	67	67	68	69	70	70	69	70	815
入所人員	0	3	2	0	0	2	2	0	1	0	1	1	12
退所人員	3	2	0	0	1	0	1	0	0	2	0	5	14
充足率 %	95.7	91.4	95.7	95.7	95.7	95.7	97.1	98.5	100	100	98.5	100	97.0

(注) ① 利用者数は、当該月の1日現在をもって計上したものである。

② 上記の人数には短期入所利用者も含んでいる。

③ 入所・退所人員は、当該月に移動した数を計上したものである。

2 入退所の理由状況

(1) 入 所

(単位：人)

月別 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅から	0	2	1	0	0	0	2	0	0	0	1	1	7
他施設から	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
病院から	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4
合 計	0	3	2	0	0	2	2	0	1	0	1	2	13

(2) 退 所

(単位：人)

月別 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
長期入院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4
他 施 設	3	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	7
居 宅 等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
死 亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	3
合 計	4	1	0	0	1	0	1	0	0	2	0	5	14

3 年齢別状況 (平成31年3月31日現在)

(単位：人)

年齢 性別	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 ～ 89 歳	90 歳 以上	計	平均年齢 (歳)	最低年齢 (歳)	最高年齢 (歳)
男	0	6	3	3	11	3	1	27	77 歳 4 月	66 歳	91 歳
女	0	0	6	3	8	12	11	40	84 歳 5 月	70 歳	97 歳
計	0	6	9	6	19	15	12	67	81 歳 7 月	—	—

4 在園期間の状況（平成31年3月31日現在）

（単位：人）

期間 性別	1年 未満	1～2年 未満	2～5年 未満	5～7年 未満	7～10 年未満	10～15 年未満	15～20 年未満	20年 以上	計	平均在園 期間	最長在園期 間
男	6	4	13	3	1	0	0	0	27	3年3月	7年2月
女	6	1	16	6	4	2	2	3	40	4年0月	21年5月
計	12	5	29	9	5	2	2	2	67	4年9月	—

5 年金等受給状況（平成31年3月31日現在）

（単位：人）

区分	基礎年金		厚生年金			共済年金		その他年 金	無年金者
	老齢	障害	老齢	障害	遺族	老齢	障害		
男	5	1	7	1	0	0	0	0	16
女	11	1	10	0	4	0	1	1	9
計	16	2	17	1	4	0	1	1	25

6 費用徴収状況（平成31年3月31日現在）

（単位：人・円）

階層区分	徴収金額 (円)	男	女	計	階層区分	徴収金額 (円)	男	女	計
1	0	16	11	27	21	34,100	0	3	3
2	1,000	0	0	0	22	37,500	1	0	1
3	1,800	0	0	0	23	39,800	0	2	2
4	3,400	0	1	1	24	41,800	1	5	6
5	4,700	0	0	0	25	43,800	1	0	1
6	5,800	0	0	0	26	45,800	0	2	2
7	7,500	0	0	0	27	47,800	0	0	0
8	9,100	0	0	0	28	49,800	1	0	1
9	10,800	0	0	0	29	51,800	1	0	1
10	12,500	0	1	1	30	54,400	0	0	0
11	14,100	0	1	1	31	57,100	0	0	0
12	15,800	0	0	0	32	59,800	1	1	2
13	17,500	0	1	1	33	62,400	0	0	0
14	19,100	0	0	0	34	65,100	1	2	3
15	20,800	0	0	0	35	69,100	0	2	2
16	22,500	0	1	1	36	73,100	0	0	0
17	24,100	0	1	1	37	77,100	1	1	2
18	25,800	0	0	0	38	81,100	1	1	2
19	27,500	0	0	0	39	81,100	1	2	3
20	30,800	1	2	3		以上			
					計		27	40	67

7 障害者手帳所持状況（平成31年3月31日現在 人数は延べ）

（単位：人）

区分	身体						知的	精神			計
	1級	2級	3級	4級	5級	6級		1級	2級	3級	
男	2	1	0	1	0	0	0	0	1	0	5
女	2	2	0	1	0	0	0	0	6	0	11
計	4	3	0	2	0	0	0	0	7	0	16

8 介護保険認定申請状況（平成31年3月31日現在）

（単位：人）

区分	要支援		要介護					計	新規・更新 申請中
	1	2	1	2	3	4	5		
男	1	0	5	2	3	1	0	12	0
女	2	1	6	9	2	4	0	24	0
計	3	1	11	11	5	5	0	36	0

9 栄養基準量と給与栄養量

	エネルギー (Kcal)	たんぱく質 (g)	脂質 (g)	カルシウム (mg)	鉄 (mg)	ビタミン				食物繊維 (g)	食塩 相当量 (mg)
						レチノール 当量(μ)	B1 (mg)	B2 (mg)	C (mg)		
栄養 基準量	1,449	58.0	36.0	532	5.4	484	0.86	0.97	85	18.0	7.4
給与 栄養量	1,635	64.6	44.0	471	9.1	450	0.93	1.1	94	8.6	10.3

※ 栄養基準量は年1回4月に算出したものである。

10 栄養比率（％）

炭水化物エネルギー比	脂肪エネルギー比
57.2％	24.2％

11 食品構成と食品群別給与量（g）

食 品 群 名		食 品 構 成	給 与 量
1. 穀 類	米	140	184
	パン 類	5	9
	めん 類	25	49
	その他の穀類・堅果類	5	5
2. い も 類	じゃがいも類	30	34
	こんにゃく類	5	2
3. 砂 糖 類		5	8
4. 菓 子 類		10	38
5. 油 脂 類	動 物 性	1	2
	植 物 性	5	6
6. 豆 類	み そ	15	22
	豆・大豆製品	35	32
7. 魚 介 類	生 物	40	52
	塩 蔵・缶 詰	5	10
	水産練り製品	10	18
8. 獣鳥肉類	生 物	40	45

	その他の加工品	5	13
9. 卵 類		40	33
10. 乳 類	牛 乳	150	90
	その他の乳製品	4	13
11. 野菜類	緑黄色野菜	130	135
	漬 物	10	9
	その他の野菜	180	174
12. 果 物 類		60	16
13. 海 草 類		5	5
14. 調 味 料 類		25	46
15. 調 味 加 工 食 品 類		10	18

1.2 給食提供食数（食）

区 分	朝食	昼食	夕食
年間総食数	23,054	21,157	22,893
月平均食数	1,921	1,763	1,908

1.3 施設内診療（処置状況等）

（単位：人）

区 分		実人員	延 人 員	月平均 延人員
診 察		71	166	13.8
投薬管理		58	46,384	3,865.3
検 査	血圧測定	71	1,211	100.9
	体重測定	71	759	63.3
	検尿	71	159	13.3
処 置	皮膚科処置	30	658	54.8
	点眼・点耳	7	2,386	198.8
	湿布	10	141	11.8
	包交	11	491	40.9
	貼付薬	6	823	68.6
	吸入・その他	28	1,872	156.0
合計		434	55,050	4,587.5

1.4 通院の状況

（単位：人）

通院科名	実人員	延人員	月平均 延人員	比率 (%)
内科	61	672	56.0	44.1
精神科	26	239	19.9	15.7
整形外科	26	251	20.9	16.5

外科	2	10	0.8	0.7
眼科	12	61	5.1	4.0
脳神経外科	4	14	1.2	0.9
耳鼻咽喉科	2	22	1.8	1.4
皮膚科	10	57	4.8	3.7
泌尿器科	8	74	6.2	4.9
婦人科	1	1	0.1	0.1
歯科	17	104	8.7	6.8
透析	0	0	0	0.0
その他	4	20	1.7	1.3
計	173	1,525	127.1	100.0

15 入院状況

(単位：人・日)

病 名	男	女	期 間	日数
1. 長期療養	○		4/1～4/30	29
2. 両大腿骨頸部FX		○	4/9～5/7	28
3. 左大腿骨頸部FX		○	4/25～5/21	26
4. FX 後リハビリ		○	5/8～7/30	83
5. 精査		○	5/25～6/15	21
6. 大腸癌手術	○		6/6～6/21	15
7. 肺炎		○	6/5～6/18	13
8. 精査		○	6/12～6/14	2
9. 肺炎		○	7/1～8/21	51
10. TIA	○		7/6～7/9	3
11. 踵部骨折		○	7/13～9/18	68
12. 中咽頭癌	○		9/4～11/15	72
13. 横紋筋融解症	○		9/26～9/27	1
14. 右大腿骨FX		○	11/3～2/14	103
15. 白内障手術		○	11/15～11/16	1
16. 白内障手術		○	8/23～8/24	1
17. 白内障手術		○	9/20～9/21	1
18. 脳挫傷	○		11/23～2/10	79
19. CD 腸炎	○		11/27～12/13	16
20. 意識障害	○		11/30～12/1	1
21. 統合失調症	○		12/6～3/31	115
22. 頸椎後方拡大手術	○		12/17～2/15	60
23. 水腎症・腎不全		○	12/20～12/27	7
24. TUR-B		○	1/7～1/10	3
25. 肺炎	○		1/21～1/22	1
26. 肺炎	○		1/21～3/22	60

27. 転移性癌	○		2/5～3/21	44
28. 白内障手術		○	1/31～2/1	1
29. 白内障手術	○		2/5～2/6	1
30. 中心性脊髄損傷	○		2/15～3/31	44
31. 加療	○		2/10～3/18	36
32. 白内障手術	○		2/19～2/20	1
33. 心不全	○		2/27～3/31	37
34. 統合失調症		○	2/7～2/22	15
35. リウマチ性多発筋症	○		2/26～3/27	29
36. 大腿骨転子部 FX		○	2/9～3/23	42
37. リハビリテーション		○	3/23～3/31	8
計	19	18	平均入院日数 (30.2 日)	1117

1 6 保健衛生実施状況

(単位：人)

項 目	実施月日	実施方法	実施人員
定期健康診断	年 2 回	嘱託医による診察 身体計測・尿検査	71
区基本健康診査	誕生月又は近い月	指定医療機関	60
インフルエンザ予防接種	10 月	嘱託医	66
布団乾燥	年間 2 回実施	業者委託	124
害虫駆除	年間 4 回実施	業者委託	—

7 友愛荘

(特別養護老人ホーム)

1 平成30年度「重点計画事項」の実施状況

移転改築については、10月17日に計画書、11月13日に協議書を東京都に提出した。その後、11月5日に現地確認、12月18日に初回ヒヤリング、2月28日に初回審査会・選定委員会が行われ、特に指摘事項がなく協議が継続されている。また、3月21日には町田市の「住みよいまちづくり条例」に基づく住民説明会を開催したが、建設に対する反対意見はなく順調に手続きを進めることができている。既存施設の老朽化も深刻な状況にあるため、工期が遅れないよう準備を進めていく。

ベッド稼働率については、新規入所者21人に対し長期入院や死亡での退所が23人となり、新規入所が追いついていない状況のため93.8%となったが、入院者が少なかったこと、多額の修繕費用がなかったことで何とか黒字にすることができた。稼働率の目標を達成するために居宅事業所や病院、老健等との連携を強化し取り組んでいく。

事例研究発表では、「特養からの卒業」と題して在宅復帰支援に取り組んだ内容が法人の事例研究発表で理事長賞を、アクティブ福祉in町田では市長賞を受賞し、職員の自信につながった。

2 重点事項

(1) 方針管理書（計画・目標）の実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重点施策	担当	目標値に対する結果
A 経営 財務	1	改築に向けた取り組み	改築PT	資金計画作成→作成・提出済 都への計画書及び協議書提出 →10月・11月提出済
	2	報酬改定に伴う新加算取得のための体制整備	全 係	低栄養リスク改善加算 →加算要件満たせず未実施 褥瘡マネジメント加算 →加算要件を整備し31年度算定 排泄支援加算 →加算要件満たせず未実施
	3	受け入れ体制の強化	相談係	見学、相談、入退所の休日対応 →出勤日に対応 申込者、待機者リストの整備・活用 →実施済 ベッド稼働率 98%→93.8%
	1	アセスメントの強化	関係職種	課題整理総括表の活用 →介護係ケアプラン情報提供表に変更し実施済
	2	「小さな夢叶えようプロジェクト」の充実	介護部	「夢」の実現に向けたケアプラン作成→ 10月から順次開始

B 品質				「夢」実現に向けたADL向上 →経過途中で実績なし
	3	医療ニーズへの対応	介護係	喀痰研修修了者の増加 2人 →2人取得
	4	ユニットケアの研究	関係職種	施設見学→7施設 延べ48人 研修参加→延べ17人 実務研修→未実施
C 人材 育成	1	キャリア別OJTの作成	教育委員会	新人→9月から実施 中堅・ベテラン用→作成済
	2	専門性の向上	介護部	外部研修参加後の伝達講習の実施 →2回実施 実務研修の実施→1回実施 事例研究発表会への参加 3題 →1題3回
E その他	1	地域との連携強化	相談係	ゆうあい広場での地域交流 →10月実施 保育園とのクリスマス会合同開催 →12月実施
	2	災害対策	安全委員会	参集訓練・炊き出し訓練の実施 →10月実施 災害伝言ダイヤル・消火栓ホース訓練の 導入→随時実施

《実施状況の評価》

A 経営財務

A1 改築に向けた取り組み

移転改築における事務手続きは、上記の実施状況のとおり予定通り進めることができた。今後は5月の最終ヒヤリング、7月の最終審査会、8月の内示に向けて取り組んでいく。

A2 報酬改定に伴う新加算取得のための体制整備

褥瘡マネジメント加算は次年度から取得できる体制を整えられたが、他の加算については要件整備が間に合わなかったため、早期に取得できるよう継続して取り組んでいく。

A3 受け入れ体制の強化

休日の受け入れ体制を整備し、稼働率を上げることを目標としたが、生活相談員の獲得ができず、休日出勤時に対応した。合わせて、新規申込者等の情報を共有するためにリストの見える化を図ったが、速やかに活動することができず稼働率は目標を達成することができなかった。

B 品質

B1 アセスメントの強化

課題整理総括表の活用をスタートさせたが、より介護係と介護支援専門員との連携を深めるために年度途中から「介護係ケアプラン情報提供表」に変更した。介護係から提供された内容がケアプランに反映されるようになり、連携を深めることができた。今後もアセスメント力を強化し、根拠のある支援につなげていく。

B 2 「小さな夢叶えようプロジェクト」の充実

小さな夢を実現するだけではなく、ケアプランに取り入れてADLの向上を図ることを目的としたが、上半期はケアプランの更新のタイミングが合わず未実施となり、下半期に向けて体制を整備する事で10月からはケアプランに取り入れる事ができた。しかし、施設の問題や本人の身体状況の変動等の理由によりADLの向上までには至らなかった。

B 3 医療ニーズへの対応

喀痰の資格は、予定通り2名が取得した。今後も医療ニーズの高い利用者の受け入れに応え、介護職員のスキルアップと安心して夜勤ができる体制を整えるために資格取得者を増やしていく。

B 4 ユニットケアの研究

施設見学は7カ所のユニット型施設に延べ48人が参加し、ユニットケア研修には述べ17人が参加した。今後なるべく多くの職員が見学や研修に参加できるよう計画し、ユニットケアへの理解を深めていく。

C 人材育成

C 1 キャリア別OJTの作成

9月から新人職員向けのOJTを開始し、統一した教育ができるようになったが、中堅、ベテラン職員用のOJTは、新人職員のOJTに追われたことと評価者が特定できなかったことで未実施となった。

C 2 専門性の向上

今年度は、法人及びアクティブ福祉in東京、アクティブ福祉in町田の事例研究発表会に参加した。法人では理事長賞を町田では市長賞を受賞し職員のモチベーションアップにつながった。

外部研修に参加した職員がユニットケア研修を含め伝達講習を2回実施し、伝える側の職員にも学ぶことが多かった。

実務研修では外部講師を招いて褥瘡予防の介護技術を学んだ。当日参加できなかった職員は、ビデオを見て技術習得に努めた。

E その他

E 1 地域との連携強化

ゆうあい広場では図師町内会や障害者就労支援事業所、家族会等の協力を得て「ゆうあいマルシェ」を開催した。販売会だけではなく介護相談、車椅子体験等のコーナーを設け、地域の方との交流を深めることができた。

また、クリスマス会を近隣の保育園と合同で開催し、園児とのふれあいに多くの利用者から好評を得た。

E 2 災害対策

参集訓練は、昨年参加していない職員と転居した職員を対象として実施され、1週間の期間を設けたことで、全員参加することができた。

炊き出し訓練は、非常食のローリングストックを兼ねて昼食に提供し、手順等を確認した。

3 運営管理

(1) 職員配置状況

平成30年度の職員配置は、次のとおりである。(平成31年3月31日現在 単位：人)

区 分	施設 長	嘱 託 医 師	事 務 員	生 活 相 談 員	介護 支 援 専 門 員	介護 職 員	看 護 職 員	機能 訓練 指導 員	管 理 栄 養 士	介 助 員	運 転 手 兼 営 繕	計
常勤職員	1	0	3	1	2	25	1	1	1	0	1	36
非常勤職員	0	2	0	0	0	7	3	0	0	8	0	20
合 計	1	2	3	1	2	32	4	1	1	8	1	56

(2) 職員研修の状況

	研修名	参加職種	主催	人員	実施月
内 部 研 修	高齢者虐待研修	介護職員	町田市社会福祉協議会	8人	4月
	苦情について考えよう	全職種	苦情解決委員会	13人	5月
	食中毒研修	全職種	感染症委員会	17人	6月
	手洗い研修	全職種	感染症委員会	14人	7月
	身体拘束について	介護職員	虐待防止委員会	15人	8月
	褥瘡研修	全職種	褥瘡部会(実務研修)	13人	9月
	感染症対策研修	介護職員	感染症委員会	21人	10月
	ユニットケア勉強会	介護職員	改築検討委員会(伝達講習)	9人	11月
	事故防止について	介護職員	事故防止委員会	13人	12月
	腰痛予防研修	全職種	衛生委員会	35人	1月
	記録の書き方とコミュニケーション	介護職員	教育委員会	11人	2月
	身体拘束について	介護職員	虐待防止委員会	10人	3月
外 部 研 修	東京都認知症介護実践研修	介護職員	東京都社会福祉保健医療研修センター	1人	4-5月
	東京都認知症介護基礎研修	介護職員	東京都社会福祉保健医療研修センター	2人	4月
	高齢者虐待の予防	事務・介護職員	町田市介護人材開発センター	8人	4月
	介護改定状況に見る機能訓練指導員の役割	機能訓練指導員	東社協	1人	5月
	介護事業安全労務講習会	事務員	八王子労基局	1人	5月
	介護報酬請求事務に関する研修会(基礎編)	事務員	東社協	1人	5月
	東京都認知症介護実践研修	介護職員	東京都社会福祉保健医療研修センター	1人	6月
	第7・8回東京都認知症介護基礎研修	介護職員	第7・8回東京都認知症介護基礎研修	1人	6月
	平成30年度第1回東京都介護職員等によるたんの吸引 など研修	介護職員	東京都介護福祉会	2人	6-7月
	褥瘡対策セミナー	機能訓練指導員	パラマウントベッド	1人	6月
	採用力UP研修会	事務員	東社協	1人	7月
	2018 東京都個別ケア研修	介護職員	特別養護老人ホームかしわ園	4人	7月
	第1回東京食に携わる職員のためのユニットケア研修	管理栄養士	日本ユニットケアセンター	1人	7月
	平成30年度福祉施設経営研修	園長	東社協	1人	8月
	高齢者の食支援に関する研修会	管理栄養士	東社協	1人	8月

福祉施設における災害対策の新しいカタチ	営繕	東京都福祉施設士会	1人	9月
利用者のニーズを考え研修会アセスメントからニーズを抽出する方法	介護支援専門員	東社協	1人	9月
「個別ケアセミナー」リフト研修	介護職員	日本ユニットケア推進センター	3人	10月
「個別ケアセミナー」24Hシート研修	介護職員	日本ユニットケア推進センター	1人	10月
平成30年度東京都認知症介護基礎研修	介護職員	東京都社会福祉保健医療研修センター	1人	10月
平成30年度東京都老人福祉施設等感染症対策指導者養成研修	介護職員	東京都福祉保健局	1人	10月
平成30年度第1回たんの吸引など研修	介護職員	東京都福祉保健局	1人	10-11月
介護報酬請求事務に関する研修会	介護・事務員	東社協	3人	11月
誤嚥性肺炎入院ゼロ達成3つ技法	介護職員	東社協	1人	11月
栄養ケアマネジメント研修会	管理栄養士	東社協	1人	11月
機能訓練指導員のための情報交換会	機能訓練指導員	東社協	1人	11月
病院・福祉給食展	管理栄養士	日本医療福祉設備協会	1人	11月
ハラスメント防止研修	園長・介護職員	町田市人材開発センター	2人	12月
モルモネディカルプラネックス見学・勉強会	管理栄養士	町田集団給食研究会	1人	1月
管理職として求められる福祉職場におけるコミュニケーション	介護職員	東社協	2人	1月
労働災害再発防止講習会	事務員	八王子労基局	1人	1月
家族からのヘビークレームの対抗策	介護職員	東社協	3人	2月
契約書の理解とリスクマネジメントの作法	介護職員	東京都福祉保健局	1人	2月
第3回新入職員定着・育成セミナー「福祉職場における働き方法改命と人事管理」	園長	東社協	1人	2月
町田集団給食研究会高齢者部会病院部会合同勉強会	栄養管理士	町田集団給食研究会	1人	2月
平成30年度後期東京都個別ケア研修	介護支援専門員・介護職員	特別養護老人ホームかしわ園	3人	2月
ユニットケア研修フォーラム	園長・介護支援専門員・介護職員	日本ユニットケア推進センター	5人	3月

(3) 行事等の実施状況

実施月日等	行 事 名	実 施 場 所	参 加 者 数			
			利用者	職員	その他	計
4月5日	お花見会	園内	76	27	33	136
4月21日	家族懇談会	園内	0	11	17	28
8月29日	家族会と合同草刈	園庭	0	0	0	0
8月3日	納涼盆踊り大会	園庭	57	27	28	112
9月6日	ぶどう狩り	稲城市内	7	9	2	18
9月8日	敬老祝賀会	園内	76	11	14	101
9月8日	フロア家族懇談会	園内	0	5	7	11
9月21日	彼岸法要	園内	0	20	1	21
8月30日	合同防災訓練	園庭	0	14	3	17

11月18日	合同運動会	世田谷区内	4	5	1	10
10月7日	ゆうあい広場	園内	46	9	52	107
10月11日	参集訓練・炊き出し	園庭	0	40	0	40
11月1日	友愛43`	園内	86	10	0	96
12月14日	クリスマスと年忘れ会	園内	79	13	0	92
12月22日	ゆず湯	園内	14	4	0	18
1月11日	新年祝賀の会	園内	74	6	0	80
月1回	誕生会	園内	803	92	3	898

(4) 日中活動等

教室名	活動回数	参加者延人数
華道教室	11	110
書道教室	4	30
絵手紙教室	4	31
カラオケ教室	18	286
日本舞踊教室	8	130
レクリエーション教室	8	138
合 計	53	725

(5) 町田市委嘱介護相談員による利用者との個別相談件数

実施月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件 数	0	6	10	15	3	6	0	6	6	9	6	7	74

(6) 事故発生件数（行政報告）

発生月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件 数	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	3	0	7

(7) 給食会議、残菜調査、嗜好調査等実施状況

区 分	実施回数	実施月日	実施内容
給食会議	11	毎月（2月中止）	給食業務全般について委託業者との協議
給食懇談会	1	11/14	栄養指導、利用者の要望・意見等聴取
給食業務 年度監査	1	3/27	給食業務プロセスが適切に運用されているか、契約事項及びプロセスに基づいた各記録を確認し総合評価を実施
残菜調査	1,095	毎食時	残菜量を把握
嗜好調査	1	11/14	利用者の嗜好状況を把握
居室訪問	随時	随時	利用者と対面し、摂取状況を把握

(8) 介護福祉士養成校介護実習の受入れ状況

実習依頼学校	実施月	日 数	人 数	延人数
町田福祉保育専門学校	6 月	0	0	0
	8 月	0	0	0
	2 月	0	0	0
合 計		0	0	0

(9) ボランティアの受入れ状況

活動名	内容	延べ回数	延べ人数
華道教室	生け花指導	11	20
書道教室	書道	4	4
絵手紙教室	絵手紙	4	4
カラオケ教室	カラオケ	17	34
日本舞踊教室	踊り	8	32
レクリエーション教室	体操、輪投げ、風船バレー等	8	8
園芸	花壇手入れ	59	137
大正琴	演奏会	7	48
洗濯室	洗濯畳み・縫い物	43	43
傾聴	話し相手	35	36
音楽療法	歌おう会	3	25
環境整備	園庭手入れ	26	26
花の日	園児訪問	2	33
二胡・尺八演奏	演奏	1	7
夏体験ボランティア	納涼祭会場設営	2	3
ボーイスカウト	清掃・歌・楽器演奏	1	25
収穫祭	園児訪問	1	20
お茶会	交流	1	1
大掃除	清掃	1	17
クリスマス会	園児訪問	1	26
新年祝賀会	歌	1	3
合計		236	552

4. 事業計画の実施状況

区分 事項	概 要	実施日 回数等	参 加 人 数		備 考
			利用者	職 員	
(1) 運営管理 ① 会 議	・業務調整会議 ・職員会議 ・ケア会議 ・リーダー会議 ・医務会議 ・庶務会議 ・給食会議 ・警備会議 ・ケース会議	14回 12回 12回 6回 5回 0回 12回 2回 随 時		65人 249人 74人 32人 医務係 0人 63人 6人 担当職員	予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 未実施 委託業者25人 委託業者4人
② 委員会	・教育委員会 ・入所検討委員会 ・改築検討委員会 ・虐待防止 ・身体拘束廃止委員会 ・安全委員会 ・衛生委員会 ・感染症対策委員会 ・事故防止委員会 ・ISO 委員会 ・苦情解決委員会 ・第三者苦情委員会	6回 20回 17回 12回 12回 12回 12回 13回 11回 11回 8回 6回		32人 関係職員 53人 35人 35人 41人 48人 39人 40人 30人 23人 16人	予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 外部委員6人
③ 職員研修	・外部研修 ・法人内研修 ・ユニットケア研修	37回 6回 6回		63人 21人 17人	予定通り実施
③職員研修	・略痰研修 ・内部研修 - 虐待防止 - 身体拘束 - 感染予防 - 事故予防 - 伝達講習 - 課題別	2回 1回 2回 3回 1回 1回 3回		2人 8人 25人 52人 13人 9人 32人	予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施

区分 事項	内 容	実施日 回数等	参加人数		備 考
			利用者	職 員	
④ 研究部会	・摂食部会	12回		46人	予定通り実施
	・排泄部会	10回		34人	予定通り実施
	・入浴部会	12回		26人	予定通り実施
	・夢プロ部会	8回		20人	予定通り実施
	・褥瘡部会	14回		46人	予定通り実施
	・看取り部会	2回		13人	予定通り実施
⑤ 健康管理	・定期健康診断	年1回		39人	
	・ストレスチェック	年1回		47人	
	・夜勤者健康診断	年1回		21人	
	・インフルエンザ予防接種	年1回		58人	
	・検便	月1回		642人	
(2) 利用者サービス					
① 介護方針	・ケアプランの作成	105件			
	・ケアプラン会議	105回		471人	
	・サービス担当者会議	105回	198人	462人	家族同席
	・臨時ケアプラン会議	111回	38人	527人	
② 家族との連携	・家族会懇談会	2回		15人	家族17人
	・給食試食会	1回		7人	家族等18人
	・合同草刈	年1回		担当職員	中止
	・ぶどう狩り	1回		9人	家族2人
③ ニーズ把握	・利用者懇談会	14回	1042人	16人	
	・給食懇談会	年1回	20人	4人	1月
④ 健康管理等	・定期健康診断	年1回	78人	看護師	
	・体重測定	月1回	936人	看護師	
	・血圧測定	毎 日	28470人	看護師	
	・インフルエンザ予防接種	年1回	78人	看護師	
	・内科往診	週2回	551人	看護師	
	・精神科往診	月2回	121人	看護師	
	・歯科往診	週1回	2012人	看護師	
⑤ 給食関連	・嗜好調査	年1回	20人	栄養士	
	・残菜調査	1095回	198人	栄養士	
	・栄養ケアプラン	105回	438人	462人	
	・行事食	年6回	1211人	栄養士	
	・選択食	17回	281人	栄養士	
	・セレクトおやつ	年4回		19人	

区分 事項	内 容	実施日 回数等	参加人数		備 考
			利用者	職 員	
⑥ 行 事 等	・お花見地域交流会	4月5日	76人	27人	ボラ33人
	・盆踊り大会	8月3日	63人	27人	ボラ32人
	・敬老祝賀会	9月8日	55人	11人	ボラ13人
	・彼岸法要	9月21日	0人	20人	
	・地域交流散歩	10月21日	20人	7人	
	・合同運動会	11月18日	4人	5人	
	・友愛荘の日44'	11月1日	86人	8人	
	・クリスマス会	12月14日	48人	5人	園児21人
	・新年祝賀会	1月11日	74人	20人	日清2人
	・友愛シネマ café	4回	59人	21人	2回中止
	・小さな夢叶えようプロジェクト	22回	64人	59人	
⑦ 各教室	・華道	11回	110人	22人	ボラ20人
	・書道	4回	30人	8人	ボラ4人
	・絵手紙	4回	18人	8人	ボラ4人
	・カラオケ	17回	286人	36人	ボラ35人
	・日本舞踊	8回	130人	16人	ボラ32人
	・レクリエーション	8回	138人	16人	ボラ8人
⑧ 日常生活	・誕生会	24回	803人	92人	
	・集団体操	183回	全 員	介護職員	
	・健康体操	2412回	12502人	2412人	
	・理美容	24回	370名	24名	
(3) その他					
① 防 災 等	・法定設備、器具整備点検	年2回		委託業者	
	・防災訓練	年12回		関係職員	
	・地域合同総合訓練	年1回		14人	地域3人
	・参集訓練	年1回		16人	
	・炊出し訓練	年1回		24人	
① 防 災 等	・建物、設備の点検	年1回		委託業者	
	・電気工作物点検	年6回		委託業者	
	・非常通報装置点検	年2回		委託業者	
	・灯油地下タンク検査	年1回		委託業者	
	・ボイラー点検	年2回		委託業者	
	・循環型浴槽の清掃・消毒	毎 日		関係職員	
	・循環型浴槽の点検・清掃	年2回		委託業者	
	・循環型浴槽の細菌検査	年1回		委託業者	

区分 事項	内 容	実施日 回数等	参加人数		備 考
			利用者	職 員	
② 環境衛生	・害虫駆除消毒 ・大掃除 ・貯水槽検査清掃 ・煤煙検査 ・床清掃 ・エレベータ点検 ・水質検査 ・残菜処理 ・室内清掃 ・園庭、外回り清掃 ・塵芥処理	年2回 年2回 年1回 年2回 年2回 年4回 365回 365回 365回 随 時 随 時		委託業者 委託業者 委託業者 委託業者 委託業者 委託業者 関係職員 委託業者 関係職員 関係職員 関係職員	
③ 地域交流	・ゆうめい 広場 ・ボランティア受入れ - 行事 - 傾聴 - 清掃 - 各教室 ・各保育園 ・各幼稚園 ・山崎友好会 ・ボーイスカウト ・お雛子保存会 ・障害者就労支援事業所	1回 随 時 11回 33回 27回 53回 6/7・12/14 6/8 8回 7/1 8/3 31回	46人 630人 563人 98人 27人 725人 73人 25人 130人 33人 63人	9人 146人 151人+小さな夢 2人 106人 4人 2人 16人 2人 1人	地域52人 天理教17人 こころみ26人
④ 実習生受入	・介護福祉士 ・中学生職場体験 ・特別支援学校インターンシップ	0 1回 0		0人 担当職員 0人	

(別表)

友 愛 荘 資 料

1 月別入退所者状況

(利用者数は各月末日現在 単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所定員	78	78	78	78	78	78	78	78	78	78	78	78	936
利用人員	76	77	76	76	76	76	77	78	77	77	76	75	917
入所人員	2	3	2	2	1	2	2	2	1	1	1	2	21
退所人員	3	2	3	2	1	2	1	2	1	1	2	3	23
充足率(%)	97.4	98.7	97.4	97.4	97.4	97.4	98.7	100	98.7	98.7	97.4	96.2	97.97

2 入退所の理由状況

(1) 入所理由

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居 宅	男	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	女	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
	計	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	5
他施設	男	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	女	0	2	1	2	1	0	0	1	0	1	0	0	8
	計	0	2	2	2	1	0	0	1	0	1	0	0	9
病 院	男	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	女	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	2	5
	計	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0	2	7
計		2	3	2	2	1	2	2	2	1	1	1	2	21

(2) 退所理由

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
死 亡	男	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
	女	2	1	0	0	0	1	1	1	0	0	2	1	9
	計	2	1	0	0	0	2	1	1	0	0	2	2	11
長期入院	男	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	女	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	計	0	1	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5
他 施 設	男	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
	女	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3
	計	0	0	0	2	1	0	0	1	0	1	0	0	5
居宅復帰	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
計		3	2	3	2	1	2	1	2	1	1	2	3	23

3 年齢別状況

(3月31日現在 単位：人)

	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～89歳	90歳以上	計
男	0	0	2	2	8	6	18
女	0	0	1	10	29	17	57
計	0	0	3	12	37	23	75
比率 (%)	0	0	4.0	16.0	49.3	30.7	100.0

<参考>

(単位：歳)

	平均年齢	最少年齢	最高年齢
男	84.2	71	97
女	86.0	74	101
平均年齢	85.6		

認定調査実施状況

(単位：人)

新規	更新	区分変更	計
0	44	3	47

4 在園期間の状況

(3月31日現在 単位：人)

	男	女	計
1年未満	4	13	17
1年以上～2年未満	4	6	10
2年以上～3年未満	2	4	6
3年以上～4年未満	0	8	8
4年以上～5年未満	2	3	5
5年以上～6年未満	0	9	9
6年以上～7年未満	1	3	4
7年以上～8年未満	1	4	5
8年以上～9年未満	0	2	2
9年以上～10年未満	0	1	1
10年以上～15年未満	3	2	5
15年以上～20年未満	1	2	3
21年以上～25年未満	0	0	0
合 計	18	57	75

5 要介護認定状況

	男	女	計	比率 (%)	平均介護度 3.9
要 介 護 1	1	1	2	2.7	
要 介 護 2	1	4	5	6.8	
要 介 護 3	3	11	14	18.9	
要 介 護 4	7	20	27	36.5	
要 介 護 5	6	20	26	35.1	

計	18	56	74	100	
---	----	----	----	-----	--

6 栄養基準量と給与栄養量

区 分	エネルギー	蛋白質	脂 質	カルシウム	ビ タ ミ ン				食塩 相当量 (mg)
	(Kcal)	(g)	(g)	(mg)	A(μg)	B1(mg)	B2(mg)	C(mg)	
栄養 基準量	1310	54.0	36.4	528	479	0.86	0.96	85	9.0
給与 栄養量	1377	52.9	33.3	463	489	0.69	0.74	72	7.9

注) 栄養基準量は4月に算出(年1回)。

7 栄養比率

(単位:%)

炭水化物エネルギー比	脂質エネルギー比
63.01	21.65

8 食品構成と食品群別給与量

食 品 群 名		食品構成(g)	給与量(g)
1 穀類	米	145.70	147.43
	パン類	25.71	26.66
	めん類	13.50	19.52
	その他の穀類・堅果類	5.00	4.22
2 いも類	じゃがいも類	30.00	24.89
	こんにゃく類	1.00	0.26
3 砂糖類		10.00	10.65
4 菓子類		10.00	7.95
5 油脂類	動物性	0.50	0.38
	植物性	10.00	11.63
6 豆類	みそ	15.00	15.77
	豆、大豆製品	40.00	34.87
7 魚介類	生物	45.00	47.63
	塩蔵・缶詰	5.00	2.91
	水産ねり製品	10.00	10.17
8 獣鳥肉類	生物	45.00	50.92
	その他の加工品	5.00	3.90
9 卵類		30.00	24.13
10 乳類	牛乳	20.00	5.38
	その他の乳製品	95.00	103.88
11 野菜類	緑黄色野菜	150.00	111.11
	漬物	3.00	5.09
	その他の野菜	150.00	141.56
12 果物類		45	39.84

13 海草類		10.00	1.86
14 調味料類		38.00	36.07
15 調理加工食品類		3.00	1.72

9 給食提供食数

	区 分	朝食	昼食	夕食
月平均食数	入所者	2112.9	2109.6	2113.2
	ショートステイ	57.3	57.3	53.1
年間総食数	入所者	25,355	25,315	25,358
	ショートステイ	687	687	637

10 主な疾病及び治療・手術した疾病状況

(3月31日現在 単位：人)

科別・区分	疾患・症状名	人 数			比率(%) 人数÷78
		男	女	計	
呼吸器系	肺炎・気管支炎	4	8	12	15.4
	気管支喘息	0	1	1	1.3
	インフルエンザ	0	0	0	0
	その他	4	8	12	15.4
消化器系	慢性胃腸炎	0	2	2	2.6
	感染性（ノロウイルス）胃腸炎	0	0	0	0
	胆石症、肝がん、他	0	2	2	2.6
	便秘	2	4	6	7.7
	その他	3	9	12	15.4
循環器系	高血圧	8	18	26	33.3
	心疾患、心不全、狭心症	5	11	16	20.5
	不整脈、心房細動、低血圧	5	0	5	6.4
代謝系	糖尿病	4	8	12	15.4
	高コレステロール血症	0	0	0	0
	高尿酸血症	0	0	0	0
	甲状腺機能低下	1	2	3	3.8
	高脂血症	1	4	5	6.4
腎・泌尿器系	前立腺肥大症、膀胱炎	5	5	5	6.4
血液・造血器系	鉄欠乏性貧血	3	2	5	6.4
脳血管系	脳梗塞後遺症	6	9	15	19.2
	脳出血後遺症	2	7	9	11.5
	脳性マヒ、小児マヒ	0	0	0	0
精神・神経系	アルツハイマー型認知症	3	17	20	25.6
	脳血管性認知症	3	7	10	12.8
	症候性てんかん	3	6	9	11.5
	パーキンソン病(症候群含)	1	3	4	5.1

	うつ病(うつ状態含)	0	2	2	2.6
	統合失調症	0	4	4	35.1
	不眠症、他	1	8	9	11.5
整形外科系	骨折	3	15	18	23.1
	骨粗鬆症	0	4	4	5.1
	腰痛症、変形症、他	1	8	9	11.5
皮膚科	疥癬	0	0	0	0
	尋常性乾癬	0	0	0	0
	アレルギー性皮膚炎	0	1	1	1.3
眼科	白内障(手術)	1	3	4	5.1
	緑内障(手術)	0	2	2	2.6
	眼球乾性アレルギー性眼炎	0	2	2	2.6
耳鼻科	アレルギー性鼻炎	0	0	0	0
外科系	慢性動脈閉塞症、静脈炎、他	0	2	2	2.6

11 通院状況

区分 科目	実人員	延べ人員			月平均通院人員	延べ人員比率
		男	女	計		
内科	63	18	65	83	6.9	23.8%
外科	1	0	2	2	0.1	1.1%
整形外科	13	2	23	25	2.1	14.3%
眼科	2	0	2	2	0.1	1.1%
泌尿器科	3	1	24	25	2.1	26.2%
精神科	3	1	2	3	0.2	0.0%
心理テスト	0	0	0	0	0.0	0.0%
皮膚科	11	6	19	25	2.1	16.7%
婦人科	0	0	0	0	0	0.0%
耳鼻科	1	0	2	2	0.1	1.2%
脳神経外科	14	1	27	28	2.3	16.7%
その他	7	3	4	7	0.6	0.0%
合 計	118	32	170	202	16.8	100.0%

12 入院状況

(3月31日現在)

病 名	期 間	人 員 (人)			日 数 (日)	入院先病院名
		男	女	計		
肺癌・大腸癌	3/30～6/21		1	1	82	町田病院
異食	4/26～5/23		1	1	26	桜ヶ丘病院
暴言・暴力	4/27～6/4	1		1	37	相模湖病院
不眠・不穏	5/1～6/23		1	1	52	こころのホスピタル

大腸ファイバー検査	5/1～5/7	1		1	5	町田病院
肺炎・食思不振	6/27～9/26		1	1	90	町田病院
不眠・不穏	8/3～8/11		1	1	10	高尾厚生病院
食思不振	5/21～9/10		1	1	19	町田病院
肺炎	8/26～9/14	1		1	19	多摩丘陵病院
肺炎	9/17～9/27		1	1	9	多摩丘陵病院
発熱・貧血	9/18～11/13	1		1	53	町田病院
肺炎	9/21～10/15		1	1	18	多摩丘陵病院
発熱・ウイルス性感染	9/22～11/27		1	1	66	町田病院
発熱・気管支炎	9/30～10/24		1	1	7	町田病院
持続的微熱精査入院	10/6～10/29		1	1	21	町田病院
左大腿骨骨折	11/2～11/26		1	1	24	あけぼの病院
慢性腎不全・心不全	11/7～12/11		1	1	86	町田市民病院
肺炎	12/4～12/26	1		1	21	町田病院
胸水・肺炎	12/26～1/21	1		1	25	町田病院
意識レベル低下	2/4～2/8		1	1	3	町田病院
下血	2/11～2/18	1		1	6	町田市民病院
腎不全・総胆管炎	3/23～3/26		1	1	2	町田病院
計		7	15	22	648	一人平均入院日数日 29.4 日
前年度合計		9	21	30	1275	一人平均入院日数日 42.5 日

注)入院日、退院日は日数に含まない。入院期間が平成 30 年度から平成 31 年度にまたがる場合は、日数は平成 30 年 4 月 1 日からカウントする。平成 29 年度から平成 31 年度をまたぐ場合は 3 月 31 日までとする。

13 健康管理実施状況（職員健診含）

（単位：人）

項目	実施時期	実施場所	対象者	人員
入所時健康診断	入所時	西村内科	入所者	21
定期健診	年 1 回誕生月	西村内科	入所者	82
体重測定	毎月	友愛荘	入所者	95
血圧測定	毎日、随時	友愛荘	入所者	95
心電図	年 1 回誕生月・随時	西村内科・友愛荘	入所者	97
インフルエンザ 予防接種	11 月～2 月	友愛荘・西村内科	入所者	78
定期健康診断	5 月～10 月	多摩丘陵病院	職員	39
夜勤者健診	1 月～3 月	多摩丘陵病院	介護職員	21
腰椎検査	6 月～10 月・2 月～3 月	多摩丘陵病院	介護・看護	54
ストレスチェック	9 月	多摩丘陵病院	全職員	47
インフルエンザ 予防接種	11 月	友愛荘	全職員	55

検 便	毎月	エムビック 環境分析センター	全職員	613
-----	----	-------------------	-----	-----

14 施設内診療状況 (単位：人)

	該 当 数	延 数			平均延数	備 考
		男	女	計		
内 科	95	160	391	551	11.5	週1回
精 神 科	18	45	76	121	5.4	月2回
眼 科	0	0	0	0	0	診療なし
皮 膚 科	0	0	0	0	0	診療なし
歯 科	83	598	1414	2012	9.7	週1回

15 看取りの状況 (単位：人)

区 分	期 間	人 員	備 考
女	4/8 ～ 4/28	1	永眠
女	4/18 ～ 4/27	1	永眠
女	2/7 ～ 5/7	1	永眠
女	10/6 ～ 10/11	1	永眠
女	2/22 ～ 2/23	1	永眠

16 利用者の身辺自立の状況

(1) 食事の状況 (単位：人)

	自 立	一部介助	全介助	経管栄養	合 計
男	6	8	3	2	19
女	25	16	13	4	58
計	31	24	26	6	77

(2) 排泄の状況 (単位：人)

区分	自立	一部介助	全介助	合計	ポータブル トイレ使用	オムツ使用
男	1	10	10	19	0	10
女	5	29	24	58	8	28
計	6	39	34	77	8	38

(3) 入浴の状況 (単位：人)

区分	一般浴槽利用			チェア浴槽利用		合計
	自立	一部介助	全介助	一部介助	全介助	
男	0	3	0	10	6	19
女	0	10	0	25	22	58

計	0	13	0	35	28	77
---	---	----	---	----	----	----

(4) 洗面等の状況

(単位：人)

区分	洗 面				更 衣			
	自立	一部介助	全介助	合計	自立	一部介助	全介助	合計
男	3	11	5	19	2	12	5	19
女	14	21	23	58	6	33	19	58
計	17	32	28	77	8	45	24	77

(5) 移動の状況

(単位：人)

区分	歩行		歩行器	車椅子			合計
	自立	一部介助		自立	一部介助	全介助	
男	2	0	1	2	6	8	19
女	8	2	1	12	7	28	58
計	12	2	2	14	13	36	77

17 防災訓練

実 施 月	訓 練 内 容	参加者数		備 考
		職員	利用者	
4～7 月	初期消火、避難誘導、避難誘導ルート確認	29	0	図上訓練1回、水害・土砂含指定緊急避難場所確認
8 月	町内会との合同防災訓練 通報、初期消火、避難誘導	10	0	町内会1名、町田福祉園 2名
9 月	初期消火、避難誘導、消火器訓練	6	0	
10 月	参集訓練・炊き出し訓練 起震車（地震体験）・避難誘導	40	0	市役所職員 2名
11 月	初期消火、避難誘導	9	9	
12 月	初期消火、避難誘導	6	0	
1～3 月	AED 講習、初期消火、避難誘導	23	0	町田消防署 1名
計		123	9	

18 機能訓練実績数

訓練実施日	運動療法 延べ人数	手技療法 延べ人数	物理療法 延べ人数	一日平均 実施人数
158 日	717 人	812 人	18 人	9.7 人

8 砧 ホ ー ム

(特別養護老人ホーム)

1 平成 30 年度「重点計画事項」実施状況

経営財務において、事業縮小している 3 階 5 床の年度後期からの復旧を見込んで設定した目標稼働率 95%は、介護職員の不足を補い切れずに実現できず 92.3%にとどまった。

サービスの質においては、虐待の芽チェックリストを活用した点検活動や権利擁護意識の向上を目的とした勉強会のほか、KYT（危険予知訓練）活動を継続することによる職員教育を進めた。見守り支援機器の活用定着なども手伝い、結果として、事故件数のは前年度より半減した。

専門性の向上においては、人材確保が厳しさを増す中、介護プロフェッショナルキャリア段位制度の取り組み開始以来初の認定者を 2 名輩出することができ、また勉強会も概ね計画どおり実施できた。アクティブ福祉 in 東京での 4 年連続受賞は、その着実な向上を裏付ける目に見える成果となった。

社会への貢献では、東京都の次世代介護機器の活用支援モデル施設として、新たな介護ロボットを導入/活用しつつ発展的に普及啓発活動を推進した。東京都並びに都の関係機関と連携を保ちながら、年間 50 組 300 名以上の見学者に対応するなど、モデル施設としての使命を果たした。

2 重点事項

方針管理書（計画・目標）の実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重点施策	担当	目標値に対する結果
A 経営 財務	1	経営の安定化	相談係 ・経理係	・ベッド稼働率維持（95%） ⇒92.3%のため、未達成。
B 品質	1	安全と安心の充実	全係・WG	・サービスマナー・人権擁護意識の向上（勉強会） ・安全衛生活動の充実（KYT） ・施設内生活環境の向上
C 人材 育成	1	専門性の向上	介護係 ・相談係	・キャリア段位認定者の増加（年 6 名） ・各種勉強会の実施（毎月 2 回） ・ICF に基づいたケアプランの作成に向け新アセスメント方式の確立（年度内） ・アクティブ福祉 in 東京 '18 での発表（介護・相談員）
E その他	1	社会への貢献	全 係	・都のモデル施設として施設見学の受入れ
	2	就業環境の向上	全 係	・有給休暇が取得可能な勤務環境の整備 ・ICT システムの導入・運用

《実施状況の評価》

A 経営財務

A 1 経営の安定化

経営の安定化を図るため、ベッド稼働率 95%を目標としたが、92.3%と目標達成には至らなかった。3 階 5 床の復旧の遅れのため、本入所の予定の利用者が体調の変化やケガなどにより、入所

に至らず、空床ベッドが発生したことも稼働率低下の要因であった。

ショートステイの利用者数は、緊急ショートステイや新規利用者の受け入れも積極的に行い、昨年度より 28.8%増加の 2,967 名となり、ベッド管理が複雑化する中、地域の社会資源としての責任を果たせた。

B 品質

B 1 安全と安心の充実

東社協の主催するサービスマナー研修リーダーコース（全 3 回＋公開講座）に介護職員が参加した。2 月に勉強会を通して研修内容を施設内にフィードバックする予定であったが、突発的な人員不足を生じ勉強会を開催することはできなかった。他方、権利擁護意識の向上については虐待の芽チェックリストを 3 ヶ月毎に実施し、勉強会では施設内の傾向を分析し意識の向上につなげることができた。

安全衛生活動の充実では、職員全員に KYT の勉強会を実施し、例題をもとにグループワークを通して身近に潜む危険因子への意識を高めることができた。

施設内生活環境の向上については、壁、天井の補修や消火器の転倒防止ベルトの設置等により、同時に職員の業務環境の改善にもつながった。

職員の入れ替わりや見守り支援機器の運用定着も要因と考えられるが、年度内の事故件数も 15 件と前年度の 31 件より大幅に減少しており、実行レベル（活動の充実）のみならず実現レベル（数字の上）においても目標が達成できた。

C 人材育成

C 1 専門性の向上

キャリア段位制度については、7 月に 2 名の段位認定を受けることができた。当初は 6 名の認定者の輩出を見込んでいたが、職員の退職やシフトの見直しにより認定活動を行うことが難しく、それ以上の認定者を出すことはできなかった。キャリア段位制度は実技に特化した認定制度であり、現場の介護技術を向上させる上で重要な活動であることをあらためて認識し、次年度も継続して活動を行いたい。

勉強会の開催については、2 月のサービスマナー勉強会（2 回）を実施することができなかったが、それ以外の勉強会は全 22 回全て実施することができた。シフト勤務の都合上、職員全員が出席できる勉強会の開催は難しいが、出席できない職員へのフォローはテストアンケートで実施し要点は共有できた。

ICF に基づいたケアプランの作成では、施設全体にて ICF そのものの勉強会を開催しつつ、ケアマネージャーによる外部研修の学びに基づき、ケアプラン作成に向けたアセスメントシートの改編を実施した。来年度より本アセスメントシートを用いてケアプランの作成に着手する。

アクティブ福祉 in 東京では、介護係からポスターセッションへの参加、相談係から多職種連携の口演発表を行った。結果として口演発表は日本介護福祉士養成施設協会会長賞を受賞した。このことで 4 年連続の受賞となり、アクティブ福祉 in 東京では史上初の快挙となった。専門性を維持向上していく上で次年度も外部へ向けた発表の機会を設け、積極的に活動していきたい。

E その他

E 1 社会への貢献

東京都の次世代介護機器の活用支援モデル施設として、介護ロボットと協働したケアの実践に

取り組んだ。特に、コミュニケーションロボットを新たに2台導入し発展的に活動を推進した。結果、機器の活用にかかる見学依頼は、分野や業界、地域や国を超えて拡がり、通年の対応件数は53件、延べ見学者数は前年度の3倍に当たる316名を数えた。取り分けマスコミからの取材が増えたが、都やその業務委託先である東京都福祉保健財団からの紹介者も多く、よく連携しモデル施設としての使命を果たした。

E2 就業環境の向上

激しさを増す介護人材不足に備えて、更なる介護提供体制の改編を図り、研修等の学びの機会を確保しつつ有給休暇の取得が可能な勤務体制を整えた。

ICTについてはタブレットシステムを導入し、利用者の記録入力を開始した。システムの動作やデータ集計等、課題はあるが業者と連携して快適でより使いやすいシステムを構築していきたい。

高齢施設共通事項

食事サービス（友愛ホーム・砧ホーム・砧デイサービスセンター共通）

（注）本項については、平成21年度より老人給食統括施設長（砧ホーム）の所属施設の計画書に一括記載することとした。

① 安全で美味しい食事の提供

今年度まで数年来、「誤嚥のリスクが少なく安全かつ美味しく食べられる新しい食形態「仮称：やわらか食」の開発・導入に取り組んできたが、年度内の食形態確立には至らなかった。しかし、これまでの情報収集や研究から、来年度からの取り組みとして「日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2013」を活用した食形態の調整と整理分類という具体的な方向性を決定することができた。

② 残菜調査の分析

今年度も残菜量の計量と記録は継続したが、目標のデータ分析と給食献立への反映は未達成となった。蓄積したデータは、給食の満足度向上や残菜量削減のための資料として来年度以降有効に活用したい。

3 運営管理

（1）職員配置状況

平成30年度の職員配置は、次のとおりである。（平成31年3月31日現在 単位：人）

区 分	施設長	嘱託医師	生活相談員	介護支援専門員	介護職員	看護職員	機能訓練指導員	管理栄養士	介助員・運転手	計
常勤職員	1	0	2	1	22	3	1	1	0	31
非常勤職員	0	2	0	0	3	3	0	0	1	9
合 計	1	2	2	1	25	6	1	1	1	40

（2）職員研修の状況

	研修名	参加職種	主催	人員	実施月
① 内 部 研 修	事故予防勉強会	全職種	安全衛生担当	8人	4月
	介護報酬改定と稼働率の勉強会	全職種	相談係	11人	4月
	身体拘束勉強会	全職種	身体拘束禁止委員会	13人	5月
	介護ロボット（マッスルスーツ®）勉強会	全職種	介護係（協力：イノフィス）	10人	5月
	感染予防・手洗い手技の勉強会	全職種	医務係	10人	6月
	口腔ケア勉強会	全職種	介護係（協力：高輪会）	11人	6月
	移動・移乗の勉強会	全職種	機能訓練・リハビリ担当	12人	7月
	看取りケア勉強会	全職種	医務係	12人	7月
	救命（AED・窒息・酸素）勉強会	全職種	医務係	9人	8月
	機器類の取り扱いの勉強会	全職種	介護係	6人	8月
	感染予防（ノ・インフル）と嘔吐処理の勉強会	全職種	医務係	8人	9月
	感染症シーズンに入る前の体制確認の勉強会	全職種	相談係	8人	9月
	褥瘡勉強会	全職種	栄養係	6人	10月
	ICF勉強会	全職種	ICFワーキンググループ	8人	11月
	事故予防勉強会（2回目）	全職種	相談係	8人	11月
	身体拘束勉強会	全職種	介護係	10人	11月
	ストレスマネジメント勉強会	全職種	介護係	10人	12月
	ICT勉強会	全職種	ICTワーキンググループ	7人	12月
	キャリア段位制度の勉強会	全職種	介護係	9人	1月
	サービスマナー勉強会	全職種	サービスマナーワーキンググループ	0人	中止
	事業計画の勉強会	全職種	園長	人	2月
	人権擁護勉強会	全職種	園長	人	3月
②外部研修		延べ42回参加			

4 事業計画の実施状況

(1) 運営管理

事項	区分	概要	実施日・回数	参加者等（見込）		備考
				利用者	職員	
① 会議		ア 業務調整会議	12回	－	関係職員	事故予防委員会として開催 感染対策委員会として開催
		イ リスクマネジメント会議	12回	－	〃	
		ウ 感染対策会議	12回	－	〃	
		エ 相談員・ケア会議	11回	－	〃	適時情報共有にて代替
		オ 介護係リーダー会議	24回	－	〃	
		カ 介護係グループ会議	12回	－	〃	
		キ 看護師会議	12回	－	〃	
		ク 排泄ケア会議	12回	－	〃	
		ケ リハビリ会議	12回	－	〃	
		コ 食事ケア会議	12回	－	〃	
		サ ケース会議	60回	－	〃	
		シ 入所検討会議	11回	－	〃	
		ス 職員会議	0回	－	〃	
		セ 給食委託業者定例会議	6回	－	〃	
		ソ サービスマナー向上WG	12回	－	〃	
		タ 安全衛生WG	12回	－	〃	
		チ 介護ロボット推進会議	24回	－	〃	
						上記オと同時開催

	チ 利用者家族懇談会	9月17日 3月23日	- -	〃	参加家族12名 参加家族17名
	ソ お話会	28回	延526名	〃	
	テ フラワーアレンジメント	2回	20名	〃	
	ト 音楽の会	11回	延262名	〃	
	ナ 書道	8回	延52名	〃	
	ニ 誕生会	12回	該当者	関係職員	
⑤ 健康増進	ア 機能訓練 ・歩行支援 ・シーティングチェック ・ポジショニングチェック ・福祉用具活用支援 イ 音楽セラピー ウ 食事摂取促進体操	397回 995回 322回 随時 月4回 随時	対象者 〃 〃 全 員 対象者 全 員	機能訓練 指 導 員 介護職員 〃	ボランティア講師
⑥ 地域との交流等	ア ボランティア連携 ・洗濯物たたみ ・清掃等 ・傾聴活動 ・ボランティア懇談会 ・各種行事支援 ・グループ活動等支援 イ 職場等体験受入れ ウ 地域行事に参加	月3回他 随時 21回 3月11日 随時 〃 3日間 適時	- - 延230名 12名 - - 9名	介護職員 〃 関係職員 関係職員 〃 〃 関係職員 〃	介護支援ボランティア他 日赤砦分団・光寿会 砦・用賀・船橋希望中学校
⑦ 実習生等の受入れ	ア 介護福祉士 イ 介護等体験 ウ 国家公務員研修 エ 社会福祉士	13～23日間 5日間 5日間 23日間	8名 4名 8名 1名	関係職員 〃 〃 〃	東京都社会福祉協議会 人事院等

(別表)

砧ホーム資料

(平成31年3月31日現在)

1 月別入退所者状

(単位：人)

月別 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所定員	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	720
利用者数	48	51	50	51	53	53	52	52	52	53	53	52	620
入所人員	1	3	3	1				1	2	1	0	0	12
退所人員		5	2			1		1	1	1	1	0	12
充足率(%)	80.0	85.0	83.3	85.0	88.3	88.3	86.7	86.7	86.7	88.3	88.3	86.7	86.1%

(注) 利用者数は各月1日現在

2 入退所の理由状況

(1) 入所理由

(単位：人)

月別 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅から	男		1										1
	女	1	2	1				1					5
	計	1	2	2				1					-
他施設から	男												
	女		1	1	1					1			4
	計		1	1	1					1			-
病院から	男												
	女								2				2
	計								2				-
計	1	3	3	1				1	2	1			12

(2) 退所理由

(単位：人)

月別 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
在宅復帰	男												
	女												
	計												
長期入院	男		1										1
	女							1		1			2
	計		1					1		1			-
死亡	病院	男											
		女			1						1		1
		計			1						1		-
	施設	男											
		女		4	1			1		1			8
		計		4	1			1		1			-
計		5	2			1		1	1	1	1		12

3 年齢別状況

(単位：人)

(参考)男女別平均年齢 (単位：歳)

区分	64歳以下	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳以上	計
男			2	1		2	2			7
女				5	2	16	13	9	1	46
計			2	6	2	18	15	9	1	53
比率 (%)			3.8	11.3	3.8	34.0	28.3	17.0	1.9	100

区分	平均年齢	最少年齢	最高年齢
男	82.6	73	94
女	88.9	77	101
計	85.8		

4 在園期間の状況

(単位：人)

5 要介護認定状況 (単位：人)

期間	性別	男	女	計	比率 (%)
1年未満		1	14	15	28.3
1年以上 2年未満			3	3	5.7
2年以上 3年未満		3	6	9	17.0
3年以上 4年未満		1	9	10	18.9
4年以上 5年未満			3	3	5.7
5年以上 6年未満		1	2	3	5.7
6年以上 7年未満		1	4	5	9.4
7年以上 8年未満			3	3	5.7
8年以上 9年未満			1	1	1.9
9年以上 10年未満			1	1	1.9
10年以上 11年未満					
11年以上 12年未満					
12年以上 13年未満					
13年以上 14年未満					
14年以上 15年未満					
15年以上					
計		7	46	53	100.0

介護度	性別	男	女	計	比率 (%)	平均介護度 4.2
要介護 1						
要介護 2						
要介護 3			9	9	17.0	
要介護 4		5	19	24	45.3	
要介護 5		2	18	20	37.7	
計		7	46	53	100.0	

6 給食数

	区 分	朝 食	昼 食	夕 食
年間総食数	介護老人福祉施設	18,558	18,528	18,586
	ショートステイ	2,635	2,471	2,643
月平均食数	介護老人福祉施設	1,547	1,544	1,549
	ショートステイ	220	206	220

7 栄養基準量と給与栄養量

	エネルギー (Kcal)	たんぱく質 (g)	脂質 (g)	カルシウム (mg)	鉄 (mg)	ビタミン				食物繊維 (g)	食塩 相当量 (mg)
						レチノール 当量(μ)	B1 (mg)	B2 (mg)	C (mg)		
栄養基準量	1,276	52.7	31.9	513	5.1	464	0.83	0.93	85	17.0	7.1
給与栄養量	1,503	62.0	44.5	508	8.7	400	0.89	1.14	93	7.7	10.1

※栄養基準量は年1回4月に算出したものである。

8 栄養比率

炭水化物エネルギー比	57%	脂肪エネルギー比	27%
------------	-----	----------	-----

9 食品構成と食品群別給与量（g／日）

食 品 群 名		食品構成	給与量	食 品 群 名		食品構成	給与量
1. 穀 類	米	157	138	8. 獣鳥肉類	生 物	45	50
	パン類	9	20		その他の加工品	5	14
	めん類	34	36	9. 卵 類		30	31
	その他の穀類・堅果類	10	5	10. 乳 類	牛 乳	190	119
2. いも類	じゃがいも類	43	35		その他の乳製品	8	12
	こんにゃく類	12	2	11. 野 菜 類	緑黄色野菜	110	129
3. 砂糖類		7	10		漬 物	12	9
4. 菓子類		25	33		その他の野菜	185	161
5. 油脂類	動物性	0	3	12. 果物類		60	15
	植物性	5	6	13. 海草類		12	5
6. 豆 類	み そ	22	21	14. 調味料類		33	456
	豆・大豆製品	35	31	15. 調理加工食品類		0	18
7. 魚介類	生 物	55	49				
	塩蔵・缶詰	5	11				
	水産練り製品	5	17				

10 健康管理の実施状況

（単位：人）

項 目	実施期間	実施場所	人員
体重測定	定期 月1回	砧ホーム	61
バイタルサイン	適宜	砧ホーム	63
尿検査	年1回(1月)	砧ホーム	51
往診歯科	月4回（金曜日）	砧ホーム	61
入所時健診・定期健診(胸部レントゲン・心電図・血液検査・尿検査など)	入所時及び年1回	田代内科クリニック	59
嘱託医師の診察（内科）	週2回(月・木曜日)	砧ホーム	63
嘱託医師の診察（精神科）	月2回(月曜日)	砧ホーム	17
定期薬分包	2週間毎	砧ホーム	62
インフルエンザ予防接種	年1回(11月)	砧ホーム(田代内科クリニック)	51
定期的通院	医師の指示による 間隔	阿部整形外科	1
		日産玉川病院(脳神経内科・消化器内科・乳腺外科・整形外科・眼科・耳鼻科・泌尿器科)	2
		関東中央病院(循環器内科・外科・整形外科・皮膚科)	4
		もろ眼科クリニック	1
		幸野メディカルクリニック	1
		安藤アイクリニック	4
		斉藤泌尿器科	2
		りかこ皮膚科クリニック	4
		浴風会病院	1
		東京医療センター	1
		慈恵医科大学付属第三病院	1

11 通院状況

（単位：人）

科別	区分	実人員	延 人 員			月平均 診療人員	延人員 比率(%)
			男	女	計		
内 科		63	11	101	112	9.33	42.91
精 神 科		3	1	2	3	0.25	1.15
外 科		3	1	16	17	1.42	6.51
整 形 外 科		7	1	27	28	2.33	10.73
脳 神 経 外 科		1	0	5	5	0.42	1.92
婦 人 科		1	0	6	6	0.5	2.30
眼 科		7	2	12	14	1.17	5.36
耳 鼻 科		1	0	3	3	0.25	1.15
皮 膚 科		9	5	29	34	2.83	13.03

泌 尿 器 科	4	12	17	29	2.42	11.11
歯 科	0	0	0	0	0	0
その他(他科・救急外来など)	5	2	8	10	0.83	3.83
合 計		35	226	261	21.75	100

12 施設内診察処置状況

(1) 疾患別

(単位：人)

科別	区分	実 人員	延 人 員			月平均人員	延人員 比率 (%)
			男	女	計		
内 科		63	73	653	726	60.5	27.60
精 神 科		17	24	130	154	12.83	5.86
皮 膚 科		44	71	146	217	18.08	8.25
歯 科(口腔ケア含む)		61	198	1335	1533	127.75	58.29
合 計			366	2264	2630	219.16	100

(2) 処置別

(単位：人)

処置別	区分	内 容	実 人員	延 人 員			月平均人員	比率 (%)
				男	女	計		
診 療		診察介助 (内科・精神科・皮膚科)	63	168	929	1097	91.42	4.04
		注射介助・実施 (インフルエンザ・肺炎球菌・点滴など)	51	7	49	56	4.67	0.21
検 査		採血	34	7	51	58	4.83	0.21
		検便・尿	51	8	61	69	5.75	0.26
		体重測定	61	74	485	559	46.58	2.06
		バイタルサイン	63	730	4580	5310	442.5	19.57
処 置		包交	51	576	1939	2515	209.58	9.27
		湿布貼布	10	22	733	755	62.92	2.78
		経皮薬貼布	12	185	2264	2449	204.08	9.03
		軟膏塗布	57	2136	6572	8708	725.67	32.09
		褥瘡処置	2	20	54	74	6.17	0.27
		点眼・点耳・点鼻	20	450	2340	2790	232.5	10.28
		経管栄養	0	0	0	0	0	0
		吸引	13	0	25	25	2.08	0.09
		吸入	4	0	706	706	5883	2.60
		酸素	9	1	10	11	0.92	0.04
		口腔ケア	2	0	4	4	0.33	0.02
		排便コントロール	54	186	1293	1479	123.25	5.45
		浣腸・摘便	0	0	0	0	0	0
		坐薬	4	0	12	12	1	0.04
		バルーン管理	2	343	10	353	29.42	1.30
		爪きり	46	16	74	90	7.5	0.33
		相談	0	0	0	0	0	0
		その他(救急搬送付き添い・インフルエンザ検査・エンゼルケアなど)	16	1	15	16	1.33	0.06
合 計				4930	22206	27136	2261.33	100

(3) ショートステイ利用者の処置

(単位：人)

区 分	内 容	延人員
診 察	診察	1
検 査	バイタルサインチェックなど	1328
処 置	軟膏塗布 点眼 湿布 白癬 褥創 など	3101
合 計		4430

(4) 看取りケア

(単位：人)

区分	期間	人員	備考
女	5/2 ～ 5/29	1	永眠
女	5/7 ～ 5/14	1	永眠
女	5/10 ～ 5/17	1	永眠
女	5/17 ～ 5/19	1	永眠
女	6/21 ～ 6/26	1	永眠
女	9/5 ～ 9/7	1	永眠
合計		6	

13 入院状況

(単位：人)

病名	人 員			期 間	入院 日数	入 院 場 所	備考
	男	女	計				
肺炎・尿路感染		1	1	4/1 ～ 4/12	11	関東中央病院	3/19～入院
心不全		1	1	4/1 ～ 4/18	17	関東中央病院	3/23～入院
誤嚥性肺炎		1	1	4/1 ～ 4/9	8	日産玉川病院	3/24～入院
急性腎不全・脳梗塞		1	1	4/1 ～ 6/21	81	日産玉川病院	3/30～入院
心不全		1	1	4/22 ～ 5/17	25	関東中央病院	
脳梗塞		1	1	4/28 ～ 5/7	9	河北総合病院	
癌転移	1		1	5/8 ～ 5/25	17	関東中央病院	
肺炎		1	1	6/25 ～ 6/27	2	日産玉川病院	
尿路感染		1	1	8/13 ～ 11/12	91	日産玉川病院	
誤嚥性肺炎		1	1	8/23 ～ 8/31	8	関東中央病院	
肺炎		1	1	9/5 ～ 9/13	8	日産玉川病院	
肺炎	1		1	9/30 ～ 10/16	16	日産玉川病院	
気管支炎疑い		1	1	10/4 ～ 10/10	6	関東中央病院	
尿路感染		1	1	10/11 ～ 10/18	7	関東中央病院	
誤嚥性肺炎・心不全		1	1	11/7 ～ 11/20	13	関東中央病院	
肺血症		1	1	11/12 ～ 11/23	11	関東中央病院	
大腿骨頸部骨折		1	1	11/26 ～ 12/4	8	自衛隊中央病院	
水疱性類天疱瘡		1	1	11/27 ～ 12/13	22	東京医療センター	
検査		1	1	12/11 ～ 1/22	42	東京医療センター	
誤嚥性肺炎		1	1	1/2 ～ 2/10	39	日産玉川病院	
腎不全・尿路感染		1	1	1/12 ～ 2/21	40	日産玉川病院	
腎不全		1	1	2/23 ～ 3/31	37	日産玉川病院	入院継続中
大腿骨骨折		1	1	3/15 ～ 3/31	17	日産玉川病院	入院継続中
肺炎・肺うつ血		1	1	3/18 ～ 3/28	10	日産玉川病院	
合計	2	22	24	平均入院日数 22.7 日	545		

注) 退院日は日数に含まない。入院期間が年度をまたぐときは、4/1～、～3/31 までをカウントする。

14 個別機能訓練の状況

区 分	歩 行 誘 導 支 援	シーティングチェック	ポジショニングチェック	計
実人数	22	62	30	－
延人数	397	995	322	1714
延/延計 (%)	23.1	58.1	18.8	100.0

15 ボランティアの受入れ状況

活 動	実施回数	実回数及び延べ人員	団体名等
傾聴 お話会	20回 月4回	7名が20回 延140名 1～4名が30回 延68名	せたがやシニアボランティア せたがやシニアボランティア
華道の会 書道の会	2回 10回	1名が2回 延2名 1名が10回 延10名	せたがやシニアボランティア せたがやシニアボランティア
音楽の会	月1回	5名が12回 延60名	国立音楽学院
音楽セラピー講師	月4回	1名が48回 延48名	国立音楽学院
誕生日会	月1回	2名が12回 延24名	国立音楽学院
フラダンス公演	年1回	8名が1回 延8名	Makalapua Hula Hale
歌の公演	年1回	1名が1回 延1名	平 みち氏
洗濯補助	週1回 随時 随時	延84名 延96名 延138名	日赤砵分団 光寿会 個人
行事補助 お花見 バス外出 盆踊り大会 友愛ふれあい祭り 親睦交流会 合同運動会	3回 5/9・11/7 7/18 10/7 10/24 11/18	延9名 延7名 6名 6名 1名 3回	せたがやシニアボランティア 個人・せたがやシニアボランティア 個人・せたがやシニアボランティア 個人・せたがやシニアボランティア 大蔵ふたば保育園 個人・せたがやシニアボランティア

16 利用者の身辺自立の状況

(1) 食事の状況

食事提供形態（人）

主食			
米飯	全粥	その他	合計
17	29	6	52

副食							
常食	一口大	刻み	極刻み	ソフト	ミキサー食	その他	合計
8	9	13	10	6	6	0	52

1日あたりの平均水分摂取量（制限のない方）

水分摂取量
1000ml

(2) 排泄の状況

排泄の場所

排便					排尿				
トイレ	ポータブル	ベッド	その他	合計	トイレ	ポータブル	ベッド	その他	合計
27	5	20	0	52	28	4	20		52

紙おむつ類の使用状況

なし	パッド類	紙パンツ	テープ止め	その他	合計
2	37	5	8	0	52

(3) 入浴の状況

マルチバス	シートバス	シャワーバス	その他	合計
7	20	25	0	52

17 ショートステイの利用状況

（単位：人）

項目 \ 月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用延人員	28	30	25	26	31	29	27	29	24	26	23	22	320
延利用ベッド数	249	264	227	229	266	272	264	273	216	277	223	207	2967

9 砧デイサービスセンター

(通所介護事業)

1 平成 30 年度「重点計画事項」の実施状況

平成 30 年度は介護保険法改正による単位数減に加えて、事業規模区分が「通常規模」から「大規模Ⅰ」を飛び越え「大規模Ⅱ」になった。これは、平成 29 年度に利用者が急増し、月 900 名を超えたことで、単位数減となったためである。介護報酬が二段階の単位数減となった上で平成 30 年度をスタートすることとなった。1 日平均要介護利用者数の予算を 43 名/日としたが、実績は 38.0 名/日となり収支差額は-1,400 万円と大幅な赤字となった。

支出面では、予算に計上した「多目的トイレ」及び「浴槽」の改修工事と「砧介護保険サービス移動に伴う脱衣室の移設工事」を実施した一方で、事業計画・予算に無かった本館 1 階のトイレ改修と本部人件費の負担増加が総額約 400 万円となり、収支差額改善への大きなブレーキとなった。

しかし、3 年以上に亘り利用者数向上のために集客手法及び活動内容を総合的に見直した結果、平成 27 年度一般コース要介護平均利用者数 28.0 名/日から、1 日あたり 10.0 名増となり成果が上がってきた。また、職員体制については、4 月末の介護職員 1 名の退職、7 月末の運転手の長期休暇による契約の終了、9 月の看護職員 1 名の退職、10 月には妊娠した職員の育児休暇取得での減員に対し、5 月の介護職員採用 1 名と、非常勤看護師の異動による 1 名の補充のみとし、人件費を最小限に抑えた。

取り組みとしては、「①職員の妊娠を契機とした職場環境改善」と「②法人内の各事業連携による地域福祉発展の可能性」について事例研究発表研修で報告し、①が優秀賞を、②が特別賞を受賞することができた。また、全営業日、出勤職員による「事故ゼロ宣言」の継続もあり、安全への意識が高まり、緊急時の対応マニュアルや緊急安心カードを新たに作成し、重大な事故の発生もなく事故件数も減少した。

収支面では赤字となったが、これまでの取り組みで利用者確保の成果が表れているため、ペースを下げず継続する。そして、支出面で課題を残した本部経費負担と過去の事故による保証について解決することで黒字へ転換することができる感触をつかんだ 1 年であった。

2 重点事項

方針管理書（計画・目標）の実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重点施策	担当	目標値に対する結果
A 経営 財務	1	利用率の維持向上	調整係	平均利用者数：43 名/日⇒38.0 名/日→未達成 ・見学・体験利用者 2 名以上/月⇒36 件/年 達成 ・新規利用契約者 1 名以上/月⇒52 件/年 達成 ・週間登録日数増 2 日以上/月⇒37 日/年 達成
	2	法人内事業との連携強化	調整係	対象利用者の前年度末比 2 割増 ⇒2.5 割増 達成

B 品質	1	地域のニーズに応じた事業展開	全係	祝日営業の実施 年間 11 日の祝日営業の実施 7 月 16 日海の日 要介護 31 名 総合 5 名 8 月 11 日山の日 要介護 44 名 総合 4 名 9 月 17 日敬老の日 要介護 51 名 総合 8 名 9 月 24 日振替休日 要介護 34 名 総合 5 名 10 月 8 日体育の日 要介護 34 名 総合 5 名 11 月 3 日文化の日 要介護 50 名 総合 5 名 11 月 23 日勤労感謝の日 要介護 36 名 総合 1 名 12 月 24 日振替休日 要介護 50 名 総合 5 名 1 月 14 日成人の日 要介護 29 名 総合 4 名 2 月 11 日建国記念日 要介護 32 名 総合 4 名 3 月 21 日春分の日 要介護 36 名 総合 4 名
	2	老朽化設備等の更新	主 任 検討 PT	送迎車両の入替え⇒延期（不足時は他施設より借用） トイレ及び浴室の改修⇒身障用トイレ改修 脱衣室の改修。 浴槽及び手すり設置工事改修。
	3	安全対策の継続強化	サービス係	インシデント分析による事故予防の徹底 ⇒世田谷区報告事故 昨年度 7 件/今年度 2 件 全営業日、出勤職員による「事故ゼロ宣言」の実施 送迎車両全台にドライブレコーダーの設置 緊急時の対応マニュアル作成と緊急安心カードの作成
	4	ボランティアとの連携	調整係	新規ボランティアの定着 2 名以上 ⇒新規ボランティア 7 組 6 月ウクレレ・アイカネ（初） 8 月アイカネ、福寿会（初）、世田谷区民吹奏楽団（初）、 9 月ソプラノデュオ（初）、和楽（初）、 めがね補聴器相談会 活動補助 1 名
	5	サービス活動の充実	サービス係 機能訓練係	新プログラムの確立 2 件以上 ⇒3 件確立 踊りの会 施設内運動会 めがね補聴器相談会
C 人材 育成	1	サービスマナーと質の向上	主 任	全職員外部研修 1 件参加⇒全体 15 件（常勤職員 14 名） 内部研修 12 件以上⇒10 テーマ実施 介護職員勉強会 7 回実施
	2	キャリア段位制度の活用	サービス係	評価者講習修了 1 名以上⇒平成 31 年 1 月 5 日 1 名修了 レベル認定者確保 1 名以上⇒レベル認定者実施なし

《実施状況の評価》

A 経営財務

A 1 利用率の維持向上

今年度も昨年度に引き続き経営の健全化を重点事項に挙げ、新規利用者の確保、在籍利用者の利用回数増につながるよう、送迎付き見学や体験利用、新規活動・行事企画のチラシ作成による追加利用募集などを積極的に行い、今年度も新規利用者は 52 名増えた。しかし、最も報酬単価の低い「大規模Ⅱ」の規模となり、利用時間区分が細分化された今回の法改正の影響も受けたため想定以上の減収となり、940 万円の赤字となった。

A 2 法人内事業との連携強化

利用率の向上においても「砧介護保険サービス・友愛ホーム・砧ホーム」との連携を強化す

ることが有効と判断し、特に外部のデイサービスに通所している友愛ホーム利用者には、当センターの広報が不十分であることを確認したため、どのように積極的な営業をしていくか課題を残すこととなった。

B 品質

B 1 地域のニーズに応じた事業展開

前年度に祝日営業を試行したところ利用ニーズが高いことを確認したため、運営規程を改定し、今年度は正式にゴールデンウィークと年末年始を除いた祝日を営業日とした。祝日営業の実績は11日となった。

B 2 老朽化設備等の更新

リース契約により新たな送迎車両への入替えを計画したが、経営悪化に伴い本部への借入返済が見込める状態となるまで見送ることとした。また、各所老朽化により、「臭気や衛生面が課題であった車椅子用トイレ」と「浴槽の湯漏れと安全面が課題であった浴室」及び「狭隘で安全衛生面が課題であった脱衣室」の改修工事（計約300万円）を完了し、利用環境の改善を図った。特に友愛デイサービスセンターと26年間共用していた「浴室及び脱衣室」は、同センターの移転に伴い、選任したプロジェクトチームが具体的な利用方法の検討を進め、効率的な業務改善にもつながった。

B 3 安全対策の継続強化

前年度に構築した「転倒・離設リスクマネジメント」の強化により、前期は転倒・離設の事故は予防できたが、「軽微な裂傷事故」と「重篤な被害には至らなかった誤配薬」の2件が発生した。いずれも業務手順を見直してその効果を検証することとした。また、安全委員会との連携により、送迎車両全車にドライブレコーダーを設置するとともに後退時の車外誘導を徹底し、安全運転に対する意識向上を推進した。また、緊急時の対応マニュアルや利用者ごとの緊急安心カードを新たに作成することで、緊急時における安全性を向上した。

B 4 ボランティアとの連携

世田谷施設の地域連携検討委員会と協働し、新規のボランティアを確保することで活動メニューを拡充するとともに、より一層地域に開かれた施設を目指した。新規に「ウクレレ・アイカネ」、「福寿会」、「世田谷区民吹奏楽団」「ソプラノデュオ」及び「和楽」の5組を招聘し、ご利用者から好評を得ることができた。また、活動補助ボランティアも1名2回/月で定着した。

B 5 サービス活動の充実

年間を通じた長期目標をご利用者に提示することで、自立支援を意識した取り組みを目指すこととし、「踊りの会」と称して練習期間と披露の機会にメリハリのある活動を実践した結果、センター内の一体感の醸成につながった。また、制度上の問題から外出活動全般の実施が困難になったため、ミニ外出の無期限中止、バスハイク廃止、合同運動会への参加取りやめとした。外出系の活動・行事は利用者に人気が高く集客面で大きな痛手となったが、発想を転換し施設内での運動会を開催、家族もご招待することで新しい形を生み出した。

C 人材育成

C 1 サービスマナーと質の向上

各職員の質の向上を目指し年間を通して全職員がそれぞれ1回以上外部研修に参加する方針とし、全体で15件の外部研修と10テーマの伝達研修を開催した。また、介護職員それぞれがテーマや企画を担当した勉強会を7回実施。自分たちに何が欠けていて何が必要かを常に考え

実践する力を養った。

C2 キャリア段位制度の活用

介護職員の資質（専門性）向上を図るため、キャリア段位制度の活用を引き続き継続した。後期には新規に1名がアセッサー（評価者）資格を取得した。レベル認定については残念ながらレベル認定には至らず、来年度へ持ち越しとなった。

3 運営管理

(1) 職員の配置状況

平成30年度の職員配置状況は、次のとおりである。（平成31年3月31日現在、単位：人）

職種区分 配置区分		施設長	医 師	事務員	生 活 相談員	看 護 職 員	介護 職 員	機能訓練 指導員	計	備 考
現 員	常勤職員	1		1	2(3)	1(1)	10(3)	(1)	15(8)	0は兼務
	非常勤職員		1			1(1)	1	1(1)	4(2)	
	計	1	1	1	2(3)	2(2)	11(3)	1(2)	19(10)	

注 1 機能訓練指導員の非常勤職員は、マッサージ師である。2 事務員は法人本部に所属している。

3 看護職員は機能訓練指導員を兼務。

(2) 職員研修の状況

平成30年度の職員研修の状況は、次のとおりである。

研 修 名		参加職種	主 催	人 員	実施月
内 部 研 修	内部伝達研修	全職員	担当職員	随時	月1回
	介護職員勉強会	介護職員	介護職員	随時	月1回
外 部 研 修	四輪運転者講習	介護職員	警視庁	1	4月
	認知症ケア研修「医学的視点からの理解と支援」	介護職員	世田谷区社会福祉事業団	1	6月
	在宅介護の現場における無自覚な虐待	相談員	東京都社会福祉協議会	1	7月
	ハトセラ®ストから学ぶ触れるケア	介護職員	世田谷区社会福祉事業団	1	7月
	メンタルヘルス研修 セルフケアセミナー	看護職員	中央労働災害防止協会 健康快 適推進部研修支援センター	1	11月
	社会福祉士実習指導者講習会	介護職員	神奈川県社会福祉士会	1	11月
	リーダー養成 マネジメント研修1	介護職員	世田谷区社会福祉事業団	1	11月
	リーダー養成 マネジメント研修2	介護職員	世田谷区社会福祉事業団	1	12月
	デイサービス収益改善セミナー	介護職員	三菱総研	1	1月
	家族からのヘビークレームへの対抗策	相談員	東京都社会福祉協議会	1	2月
	職場の人材育成力UP研修	介護職員	世田谷区社会福祉事業団	1	2月
	外国人介護人材受け入れについて	介護職員	東京都社会福祉協議会	1	2月
	歌って笑って明日への活力にしよう	介護職員	世田谷区社会福祉事業団	1	2月
	地域包括ケアに取り組む生活相談員の姿	相談員	東京都社会福祉協議会	1	3月
	横浜市の介護人材から学ぶ	介護職員	東京都社会福祉協議会	1	3月

(3) 配食サービス

引続き地域ボランティアによる協力員方式により、在宅高齢者の健康維持や自立生活等を促す地域の支え合い活動として定着し、独居高齢者の安全・安心に寄与した。

(4) 高齢者住宅生活協力員業務

本事業は、世田谷区が運営する高齢者集合住宅「ホープ大蔵」の入居者が、健やかに安心して

自立した生活が営めるよう、生活協力員を配置して安否確認、緊急時の対応、相談援助及び毎月1回の懇談会など、様々な活動や支援を行う事業であり、本年度も計画に基づき円滑に事業を実施した。

3 事業計画の進捗状況

事項	区分	概 要	予定日・回数	参加人員（見込）		備考
				利用者	職 員	
(1) 運営管理						
① 会 議		ア 職員会議	月1回	—	全 員	
		イ ケース会議	随 時	—	担 当	
		ウ 業務調整会議	月1回	—	関係職員	
		エ サービス係会議	〃	—	〃	
② 職員研修		ア 法人内研修	随 時	—	対象職員	
		イ 外部研修	〃		〃	
		ウ 伝達研修等	月1回		〃	
③ 防災対策		ア 合同防災訓練	月1回	全 員	全 員	
④ 健康管理		ア 定期健康診断	9月5.6.7日		全 員	
		イ 検 便	月1回	—		
(2)利用者支援						
① 支援方針		ア 家族懇談会	年1回	希 望	担 当	未実施
		イ ケース会議	月1回	全 員	〃	
② 健康管理		ア 血圧・体温・脈拍測定	毎 回		〃	
		イ 体重測定	月1回	全 員	〃	
		ウ 健康指導	随 時	全 員	〃	
③ 環境衛生		ア 害虫駆除	年4回	全 員	業 者	
		イ 床清掃	月4回	—	業 者	
		ウ 大掃除	12月	全員	担 当	
④ 給食処遇		ア 給食アンケート調査	年2回	—		12月1回実施
⑤ 行 事		ア 花見会(外出活動に含)	4月	希望者	〃	
		イ 端午の節句	5月2日	52名	担当者	
		ウ 夏祭り	7月7日	64名	担当者	
		エ 盆踊り大会	7月18日	自由参加	担当者	
		オ 敬老会	9月17日	59名	担当者	
		カ 友愛ふれあい祭り	10月7日	自由参加	担当者	
		キ 施設内運動会	10月30日	48名	担当者	ご家族2名
		ク 年末お楽しみ会	12月24日	52名	担当者	
		ケ 新年会	12月23日	60名	担当者	
		コ 節分会新年会	2月2日	51名	担当者	
		サ ひな祭り	3月2日	49名	担当者	
⑥ 介護予防・日常生活支援総合事業			通年	対象者	全 員	
⑦ 配食サービス			〃	登録者	ボランティア	
⑧ 高齢者住宅生活協力員業務			〃	対象者	調整係	
⑨ 小中学校・保育園との総合学習授業受入れと交流等			〃	全 員	全 員	
⑩ 介護等体験			18名×5日	—	全 員	

(別表)

砧デイサービスセンター資料

1. 通所介護事業

(1) 月別利用状況

【一般コース】

<延べ利用者数>

(単位：延人数)

月 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	8	8	4	5	5	4	8	12	12	12	12	20	110
要支援2	33	39	53	57	51	50	62	49	48	45	49	55	591
事業対象	68	50	41	45	44	40	40	44	43	48	43	48	554
予防小計	109	97	98	107	100	94	110	105	103	105	104	123	1255
要介護1	294	308	322	307	313	284	294	267	226	169	173	164	3121
要介護2	177	195	216	242	242	227	270	281	299	281	288	308	3026
要介護3	238	236	256	270	283	263	281	294	286	261	279	314	3261
要介護4	133	134	119	114	104	121	124	80	67	66	69	84	1215
要介護5	75	84	105	81	107	82	88	82	81	67	66	81	999
介護小計	917	957	1018	1014	1049	977	1057	1004	959	844	875	951	11622
合 計	1026	1054	1116	1121	1149	1071	1167	1109	1062	949	979	1074	12877

<一日平均利用者数>

(単位：人)

月 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実施日数	24	24	26	26	27	25	27	26	24	24	24	26	24
総合	4.5	4.0	3.8	4.1	3.7	3.8	4.1	4.0	4.3	4.4	4.3	4.7	4.5
介護	38.2	39.9	39.2	39.0	38.9	39.1	39.1	38.6	40.0	35.2	36.5	36.6	38.2
合 計	42.8	43.9	42.9	43.1	42.6	42.8	43.2	42.7	44.3	39.5	40.8	41.3	42.8

(2) 月別入浴利用状況

(単位：人)

月 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一般	274	285	320	316	327	289	339	298	292	271	267	306	3584
計	274	285	320	316	327	289	339	298	292	271	267	306	3584

(3) 月別機能訓練利用状況

(単位：人)

月 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
運動器	17	17	16	16	16	15	17	17	17	17	20	19	204
計	17	17	16	16	16	15	17	17	17	17	20	19	204

(4) 地域別利用者状況（長期欠席者を除く）

平成31年3月31日現在

地域名	人数（人）	比 率（％）
砧	82	51.6
大蔵	28	17.6
岡本	12	7.5
瀬田	1	0.6
祖師谷	10	6.3
上用賀	3	1.9
成城	5	3.1
千歳台	4	2.5
鎌田	2	1.3
喜多見	2	1.3
玉川	4	2.5
玉川台	2	1.3
桜丘	1	0.6
宇奈根	2	1.3
用賀	1	0.6
計	159	100.0

(5) 利用者増減状況（単位：人）

平成30年度当初登録在籍者数	144
新規登録者数	52
廃止者数	32
平成30年度末登録在籍者数	164

(6) 平成30年度廃止者廃止事由状況

事 由	人数（人）	比率（％）
死去、疾病、ADL低下、	4	12.5％
他施設・他サービス利用	2	6.3％
施設入所	19	59.4％
その他（転居・自立等）	7	21.9％
計	32	100.0％

(7) 施設内処置状況

処置別（単位：人）

区分 処置別	内 容	延 人 員			月平均人員	比率（％）
		男	女	計		
検 査	体温・脈拍測定	3,869	8,891	12,760	1,063.3	39.4
	血圧測定	3,869	8,891	12,760	1,063.3	39.4
	体重測定	438	872	1310	109.2	4.0
処 置	服薬管理	1,580	1,772	3,352	279.3	10.3
	点眼・点耳	199	251	450	37.5	1.4

	軟膏塗布（皮膚）	301	183	484	40.3	1.5
	包交(外科)	0	0	0	0.0	0.0
	湿布貼布	106	129	235	19.6	0.7
	便・尿コントロール	16	330	346	28.8	1.0
	胃ろう	156	69	225	18.8	0.7
	酸 素	1	141	142	11.8	0.4
健 康 相 談		0	0	0	0.0	0.0
その他		287	34	321	26.8	1.0
合 計		10,822	21,568	32,390	2,699.2	100.0

2 委託事業

(1) 高齢者配食サービス事業（世田谷区）

（単位：人）

区分 月	月始 登録 者数	新規 登録 者数	移行 登録 者数	登録 廃止 者数	移行 廃止 者数	月末 登録 者数	配 食 日 数 (日)	実 配 食 数 (食)	平均配 食数 (食)	協力 員数
4 月	13			1		12	24	272	11.3	1
5 月	12					12	24	257	10.7	1
6 月	12			1		11	26	271	10.4	1
7 月	11			1		10	25	237	9.5	1
8 月	10					10	26	239	9.2	1
9 月	10	1				11	23	232	10.1	1
10 月	11					11	26	268	10.3	1
11 月	11					11	24	237	9.9	1
12 月	11	1				12	23	228	9.9	1
1 月	12	1				13	23	263	11.4	1
2 月	13					13	23	264	11.5	1
3 月	13			1		12	25	259	10.4	1

(2) 世田谷区営住宅生活協力員派遣事業

協力員数 平成30年4月1日：3名 平成31年3月31日：3名

区営住宅月別入居者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
ホープ大蔵	23	23	23	23	23	20	20	20	20	20	19	19

10 港区立障害保健福祉センター

1 平成30年度「重点計画事項」の実施状況

港区は第5期港区障害福祉計画において、平成32年4月に新たに建設する南麻布施設に「こども療育パオ」を移転し、新たに児童発達支援センターと位置づけることになっている。また、同施設には、身体障害と知的障害を重複して持つ重度の障害者を対象とする定員40名の障害者支援施設（障害者入所施設）も整備し、平成32年3月に開所する。

センターの指定管理は平成21年度から30年度末までの予定であったが、こども療育パオが現在地で31年度末まで事業運営を行うことになったため、指定管理を1年間延長することになった。

そのため、当法人だけを候補者とした非公募方式による31年度一年間限定の指定管理者公募要項が4月に示された。当法人は5月下旬に申請書を提出し、10月の議会の議決を経て指定管理者に指定された。

一方、令和2年度以降のセンター及び南麻布施設（児童発達支援センター、障害者支援施設）における新事業に係る指定管理者公募要項が11月に公表され、プロポーザルの所要の手続きを踏まえて、令和元年6月の区議会で指定管理者が決定されることになった。

これを踏まえ当センターでは、これら3施設に係る指定管理者申請を行うため、29年度後半から施設長と主任・副主任で構成するプロジェクトチームを組織し、月1～2回のペースで会議を開催し、順調に準備を進めてきたところである。11月末からは、指定管理者選定業務に豊富な経験を有する当法人の山崎理事が加わり申請準備を加速させた。12月下旬に3施設の申請書を提出し、2月に第2次審査としてのプレゼンテーションを行い、申請手続きを終えた。

港区では、障害福祉サービス事業者等のサービスの質の確保及び自立支援給付に係る費用等の支給の適正化を図ることを目的として、今年度より港区単独で障害福祉サービス事業者等に対し、指導及び監査を実施することになった。センターにおいては、6月から10月に地域活動支援センター（①自立訓練（機能訓練）、②計画相談支援等）、こども療育パオ（重症心身障害児通園事業）、工房アミ（生活介護）及びみなとワークアクティ（就労継続支援B型）において実地指導が行われた。

法令等で定める指定基準等に照らして改善の必要がある事項について、助言や指導を受けた。後日文書で指摘された事項については、事業所内で改善方法等について検討し改善報告書を港区に提出した。これまで職員が気付かなかった事項について幅広く指導が行われたため、今回の実地指導を事業実施方法等見直しの良い機会と捉え、より良いサービス提供に努めていきたいと考えている。

2 重点事項

方針管理書（計画・目標）実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重点施策	担当	目標値に対する結果
A 経営 財務	1	指定管理更新等に向けた取り組み	PT	指定管理者申請書提出に向けた準備を進めた
	2	危機管理体制の再徹底	施設長	緊急時対応マニュアルを作成して、緊急連絡体制を構築し、毎月、土日・夜間に緊急連絡訓練を実施した

	3	医療的ケアに係る対応	施設長	32年度から始まる新事業に向け、看護師等医療スタッフの研修等を行った。
--	---	------------	-----	-------------------------------------

《実施状況の評価》

A 経営財務

A1 指定管理更新等に向けた取り組み

センター及び南麻布施設（児童発達支援センター、障害者入所施設）に係る指定管理者申請を行うため、29年度後半から施設長と主任・副主任で構成するプロジェクトチームを組織し、月1～2回のペースで会議を開催し、準備を進めた。

A2 危機管理体制の再徹底

今年度からこども療育パオにおいて隔週土曜日の相談事業を始めた。しかし、土曜日開所のため施設長、主任が不在になることが想定されるため、土曜日に出勤した職員が、月曜日に業務報告を確実に実施することとして事業所全体に周知を図った。

また、土曜日・休日、夜間において、パオ以外にも入浴事業、レスパイトにおいて事業を行っている。しかし、センター職員の大半が不在のため、その時間帯に緊急事故等が発生した場合、職員の応援等迅速な対応が必要になってくる。

このため、これらの時間帯における緊急時対応方法として、センター緊急連絡マニュアルを作成し、事業実施事業所から施設長に連絡を行い、施設長からセンター近隣に居住する職員に連絡し、事業所に出動することを想定した通報訓練を行った。

A3 医療的ケアに係る対応

令和2年度からセンターで始まる放課後等デイサービスは、医療的ケア児、重症心身障害児を対象にサービスを提供することになっている。このため、他施設で実施している重症心身障害者（児）通所事業所や放課後等デイサービスの視察に行った。

また、看護師は「看護師講習会ミドルコース」への参加、他施設の視察と職員研修会の参加を積極的に行い、医療的ケア児に対する処遇方法等の研修を行った。

10－（１）運営管理部

1 重点事項

方針管理書（計画・目標）の実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重点施策	担当	目標値に対する結果
A 経営 財務	1	運営管理部業務の体制整備	係全員	・引継ぎの終了、複数係の配置を実施・継続中
	2	委託業者との連携強化	係全員	・委託先内部監査の実施終了 ・設備管理委託業者との定例打合せの開始、継続中

《実施状況の評価》

A 経営財務

A1 運営管理部業務の体制整備

平成29年6月に人事異動があり新任職員への引継ぎを優先させてきたが、決算業務を終えて平成30年5月に完了した。

また、港区との連絡調整や次年度指定管理料(センター予算)の積算調整等の業務に関し複数担当で実施しているほか、下半期から国保連請求業務についても複数担当制を実施し体制の強化を図った。

A2 委託業者との連携強化

10月に送迎業務、給食業務、プール監視業務の委託業者に対して内部監査を実施し仕様書どおりの業務が実施できているかの確認等を行った。概ね適正な運営が行われていたが、一部要改善項目があった。要改善事項についてはその後改善が図られた。

また、これまで定期的な打合せを行っていなかった設備管理委託業者と月1回定例で打合せを平成30年3月より開始しており、情報交換を密にするなど連携強化を図った。

運営管理部職員配置状況（平成31年3月31日現在）

単位：人

		センター長	参事	部長	事務員 (支援員)	医師	備考
区の基準	常勤	1	1	1	1		
	非常勤				1	1	
配置状況	常勤	1	1	1	2		
	非常勤				1	1	

2 事業計画の実施状況

区分 事項	概 要	実施日・回 数	参加人員	進捗状況
(1) 運営管理 ① 会議	・センター施設長会議 ・業務調整会議 ・運営管理部会議 ・三者連絡協議会	毎月 毎月 毎月 随時	センター長・各施設長 施設長・主任・副主任 運営管理部職員	予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 7月・3月実施
②センター内 委員会	・外部苦情委員会 ・苦情・虐待防止委員会 ・衛生委員会 ・安全委員会 ・教育委員会 ・広報委員会 ・男女参画委員会 ・給食委員会 ・バス委員会	年2回 毎月 毎月 毎月 奇数月 年3回 偶数月 毎月 毎月	センター長、施設長、委員 委員 委員 委員 委員 委員 委員 委員 委員 委員	未実施 予定通り実施 8月を除いて実施 予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施
③健康管理	・定期健康診断 ・インフルエンザ予防接種	1回 年1回	全員 全員	予定通り実施 予定通り実施

10－（2）地域活動支援センター

1 平成30年度「重点計画事項」の実施状況

地域活動支援センターは4つの部門に分かれているため、円滑な情報共有を図るため、毎月、地域活動支援センターの全体会を開催した。また、地域交流や地域貢献の更なる促進を目指し、ボッチャ大会を年4回開催し、8月には夏祭りを初めて催し近隣住民との交流に努めた。入浴サービス提供では、浴室に季節の彩を施した「季節湯」がご利用者から好評を得た。

2 重点事項

方針管理書（計画・目標）の実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重 点 施 策	担 当	目標値に対する結果
A 経営 財務	1	地域活動支援センター内での情報共有の強化	全職員	地活センター全体会を毎月1回、開催
B 品質	1	緊急時の体制づくりと訓練の実施	全職員	後期にマニュアルと訓練計画を作成
	2	医療的ケア対象利用者の受け入れ開始に向けた準備	全職員	看護師が「重症心身障害児と医療的ケア」研修参加（1名）、こども療育パオ見学（看護師2名）
	3	地域交流・地域貢献の更なる促進	全職員	① ボッチャ大会の定期開催（4回） ② 「視覚障害者サポート教室」実施 ② 地域社会の中での訓練プログラムの実施 ③ 夏祭りの開催（参加者約100名）
	4	利用者の自立支援・社会参加支援の取り組み	全職員	①単発音楽セラピー、クリスマスコンサート、体操講座の実施 ②支援者向け研修の開催、就労支援や生活介護施設の体験利用等の実施
	5	入浴サービスにおける支援と環境両面の充実	入浴部門	顧客満足度85%以上の獲得 ①支援面 ・職員のスキルアップ内部研修を実施 ・季節湯の導入 ②環境面 ・4月 機会浴室の床、壁の張替え工事完了 ・8月 一般浴室の床張替え工事完了 ・季節に合わせたフロア内装飾の実施
C 人材 育成	1	職員の資質向上に向けた取り組み	全職員	①職員内部研修全員受講（4回実施） ②職員の地域施設への見学派遣

《実施状況の評価》

A 経営財務

A1 地域活動支援センター内での情報共有の強化

4つの部門に分かれている地域活動支援センター内の情報を適切に共有するために、毎月、障害保健福祉センターの全体会終了後に地活職員全員が集まり地域活動支援センターの全体会を実施した。限られた時間ではあるがトップから施設の方針や情報を直接伝えていくことがで

きる機会となり情報共有の強化を図ることができた。

B 品質

B 1 緊急時の体制づくりと訓練の実施

機能訓練部門では3月に緊急時対応フローに沿って利用者の転倒事故を想定した訓練を実施した。訓練を通して改善点等が確認できたので訓練を繰り返しの確に対応できる体制を整えた。その他の部署では未着手となっているので来年度にマニュアル作成の完成を急ぐ。

B 2 医療的ケア対象利用者の受け入れ開始に向けた準備

「重症心身障害児と医療的ケア」研修へ看護師1名派遣し、医療的ケアの実態や重症心身障害児の特性を学ぶ機会となった。また、こども療育パオめろん組の見学に看護師2名が参加し、重症心身障害児通園施設における看護師の役割、療育内容等を見る機会として有効であった。次年度に向けては、看護師の技術研修への派遣や地域活動支援センター職員の医療的ケアに対する知識を高めることに重点をおく。

B 3 地域貢献・地域交流の更なる促進

地域住民とセンター利用者との交流機会として5月、9月、11月、3月にボッチャ大会を開催した。参加者はそれぞれ19名、22名、14名、25名と多くの方に参加していただき好評を得た。しかし、参加人数が多くなることで事故のリスクも増えることから、これまで当日参加だったところを事前申し込み制にするなど来年度も引き続き実施するにあたり円滑な運営方法を検討していく。

また、港区視覚障害者福祉協会の協力を得て近隣住民や障害者部会の民生委員の方々、ヘルパー事業所などを対象に「視覚障害者サポート教室」を1月に開催し、視覚障害者の理解・ガイドヘルプの方法について体験した。参加者だけでなく職員の支援力向上にも役立つ充実した内容となった。

機能訓練について、訓練室内だけでなく、目標に応じ、屋外に出て訓練を実施することを計画したが、前期は、実施該当利用者がいなかった。後期は、東京都の就労準備プログラムへの通所利用者の公共交通機関を利用して通所練習2名、生活介護施設での体験実習2名が社会参加のための訓練の集大成として、買い物やレストランでの食事、屋外の車いす移動などを行い、実際の地域社会の中で訓練の効果を確認できた。高次脳機能障害者機能訓練では、喫茶店等を仲間と利用し、仲間とのやり取り、役割分担、店員とのやり取りといったコミュニケーションの訓練を取り入れ、実際の場面で練習することで実践的な練習ができ、達成感や自信を持てる社会参加経験につながった。

地活センターの夏祭りを8月24日にセンター多目的体育室において開催し、約100名の参加があった。初めての開催となったが、センター内の他事業所の利用者だけでなく、地域の住民の方々も多数参加し、大きな盛り上げを見せた。課題点を改善し、来年度も実施し地活センターの定例行事にしていく。

B 4 自立支援・社会参加支援

多目的体育室の工事のため、地域自立支援事業の体操教室「ジャンプ」は後期を休止とし、「音楽セラピー」は開催場所を機能訓練室に移動するとともに、定員規模を15名から10名に縮小し開催した。休止する講座の代替として、単発の音楽セラピーを11月に開催した。また、12月

に竹芝小記念室においてクリスマスコンサート「みんなで楽しくミュージッククリスマス」、2・3月に体操講座「みんなで挑戦！ヘルスエクササイズ」を実施した。来年度もより利用者が参加したいと思う企画を立案していく。

なお、今年度後半に実施する予定だったギタリストによるコンサートは工事終了後の体育室で開催するのが適切と判断し来年度に実施することにした。

自立訓練では、訓練の終了後を見据え、自立や社会参加を目指し、生活介護施設での実習を通して利用に向けた課題の整理、施設職員との連携がとれた。また、利用者の自立と社会参加には、ヘルパー等の支援者の力も必要となる。そこで、プールの個人利用を促進していく為、「プール活動支援者講座」を開催し、4名のヘルパーと1名の家族の参加があった。いずれも、利用者支援への自信につながった。利用者の中には復職を目標としている方もいる。地域社会参加だけではなく、社会復帰支援として、東京都の就労準備プログラムに2名つなげた。自立と社会参加に向け、適切な支援機関につなぐことも必要な支援であった。

B 5 入浴サービスにおける支援と環境両面の充実

直営から2年が経過し顧客満足度も80%以上を安定的に維持することができた。

意向調査の結果、新しく導入したサービス「季節湯」に対し「とても満足」83.3%「まあまあ満足」16.7%、「普通」0%「不満」0%と目標値の85%を大幅に上回る結果を獲得することができた。アンケートの評価分析の結果、今年度の評価に「季節湯」が大きく貢献していることがわかる。「季節湯」は単に入浴剤を入れるだけではなく、各季節湯のテーマに合わせた装飾をフロア全体に施すことにより効果的な演出を提供することで、利用者より大きな反響を得た。この結果を踏まえ、さらに入浴を楽しんでいただけるよう工夫し提供していく。一方、利用者から設備面で機械浴槽の老朽化に関する指摘があり、①機械浴槽塗装表皮剥離片の除去、②マシンの日常点検を重点的に実施、③機械浴槽緊急避難訓練を行い、安全対策を実施した。同時に区と設備の老朽化、ガイドラインの策定など課題を明確にして協議し、引き続き、来年度も利用者の安全確保を最優先に取り組んでいく。

C 人材育成

C 1 職員の資質向上に向けた取り組み

複数部門を有し各種専門技術を持った職員が配置されているという地活センターの特色を活かし、事業ごとに講師担当者を決め、全職員が受講対象としてa 障害理解、b 障害者の特性に応じた接遇、c 介助支援技術、d サービス知識についての内部研修を実施した。具体的には、機能訓練部門から『『見えない障害』への配慮について』、支援部門から「障害に応じた接遇 支援機器・アプリの活用」、入浴サービス部門から「双方（利用者と介助者）が安楽な移乗方法」、相談部門から「相談支援とは？」と題し担当職員がそれぞれ講師を務めて実施した。

また、区内の社会資源やサービスの把握をすることを目的に、2月に千代田区の地域活動支援センターに施設長及び支援員が訪問した。当センターと同様のサービスを実施しており社会資源のあり方、事業運営方法について参考となった。来年度も引き続き全体の支援力を向上させるため、他施設の見学や研修会等への派遣を実施する。

(3) 地域活動支援センターの活動状況

①平成 30 年度のサロン事業実施状況は次のとおり

実施月	実施回数	参加人数	参加ボランティア数
4 月	4	29	7
5 月	4	30	12
6 月	4	39	9
7 月	3	28	3
8 月	3	34	6
9 月	4	43	7
10 月	3	26	3
11 月	4	28	3
12 月	2	12	5
1 月	3	15	4
2 月	3	20	3
3 月	4	26	4

②平成 30 年度の地域自立生活支援事業の実施状況は次のとおり

講習会	開催月 (曜日)	定員 (人)	利用者数 (登録人数)	利用者 (延人数)	内容
パソコン 火曜日教室	毎週火曜日 (全10回×1教室)	10 ×1教室	6	36	「図形を使って絵を描こう」ワードの基本操作、図形テキストボックスワードアートシェイプアートの挿入・編集
パソコン 火曜日教室	毎週火曜日 (全10回×1教室)	10 ×1教室	6	44	「エクセルの便利な機能を学ぼう」SUMIF関数などを使ったエクセルの基本操作
パソコン 火曜日教室	毎週火曜日 (全10回×1教室)	10 ×1教室	10	75	「カレンダーをつくろう」ワードとエクセルを使った基本操作
パソコン 金曜日教室	毎週金曜日 (全10回×1教室)	10 ×1教室	9	61	「エクセルの便利な機能を学ぼう」SUMIF関数などを使ったエクセルの基本操作
パソコン 金曜日教室	毎週金曜日 (全10×1教室)	10 ×1教室	6	33	図形を使って絵を描こう」ワードの基本操作、図形テキストボックスワードアートシェイプアートの挿入・編集
パソコン 金曜日教室	毎週金曜日 (全10×1教室)	10 ×1教室	9	56	パワーポイントの基本操作、パワーポイントで紙芝居を作ろう
視覚障害者のための パソコン教室	奇数月水曜日 (月3回×6ヶ月)	3 ×6ヶ月	1	18	「音声ソフト」の基本操作
パソコン 単発教室	6月(4回) - 1月(4回) 2月(4回) ×2	10 ×4教室	39	131	パワーポイントを使って動くアルバムを作ろう・ペイント 3D アートを学ぼう。タブレット入門講座・タブレットを使ってインスタグラムをやってみよう。
水彩画教室	4～12月(8回)	10	6	42	水彩画の入門教室
絵手紙教室	4～9月(10回)	15	15	116	季節の野菜などを題材に、はがきや

	10～3月（10回）	15	13	107	和紙に絵を描き言葉を添え製作
リフレッシュ 体操 ジャンプ	4～9月（10回）	10	5	37	座っての運動やストレッチ体操と 道具を使用し負荷をかけた体操実 施
	10～3月（10回）	体育館改修のため未実施			
リフレッシュ 体操 ステップ	4～9月（10回）	10	10	83	マットや平行棒を使い、自分で動か せる範囲で身体を動かし健康を増 進
	10～3月（10回）	10	10	83	
リフレッシュ 体操 ホップ	5～9月(10回)	10	10	86	椅子に座ってのストレッチ体操、ボ ールやセラバンドを使った運動と 筋トレ実施
	10～3月(10回)	10	10	83	
料理教室	5月	8	7	7	参加者同士の交流をテーマに家庭 でも手軽に作れる献立を調理し、会 食を通じ、参加者の交流を深め社会 生活能力を向上
	8月	8	8	0	
	11月	8	8	8	
	2月	8	8	7	
音楽セラピー	4月～9月（10回）	15	15	106	声を出し歌う・リズムに合わせ身体 を動かす・楽器を演奏する等
	10月～3月（10回）	10	10	78	
創作教室	7月	10	10	8	アロマストーンとアロマスプレー 作り、クリスマスリースを製作し た。
	12月	10	8	7	
音楽セラピー	11月（単発）	10	10	9	声を出し歌う・リズムに合わせ身体 を動かす・楽器を演奏する等
ミュージックク リスマス	12月（1回）	—	—	43	定員・登録なしの自由参加
ヘルスエクスサ イズ	2月（1回）	10	8	7	みんなで挑戦ヘルスエクスサイズ
	3月（1回）	10	7	6	
計 19 教室		315	264	1377	

③平成30年度自主グループ活動内容

	名 称	内 容	頻度	活動日
1	どんぐりの会	言語機能の維持とコミュニケーション	月1回	第4金曜
2	O B September クラブ	水中運動	週1回	毎週水曜
3	なご実の会・みなと	視覚障害者も楽しめる生け花	月1回	第1木曜
4	典雅会	カラオケ、茶道、手芸など	月5～6回	第2・4金曜 第2～5火曜
5	書道自主グループ「ヒューマ ンぶらざ」	書道活動	月1回	第1火曜
6	もく木会	陶芸、磁器、ガラス器の絵付け（シー ル）	月2回	第1・2木曜
7	絵手紙 虹	絵手紙を通した会員相互の親睦	月1回	第3火曜
8	木曜パソコン会	パソコン技術習得と社会参加を促進、 親睦を図る	週1回	毎週木曜
9	すみれ会	カラオケを通し親睦を図る	月1回	第4木曜
10	港区ダーツクラブ	ダーツ	月2回	第1・3水曜
11	港サンフレッチェ	スポーツ吹き矢	月14回	毎週月、火、金曜 第1・3水曜
12	パンプキンの会	調理活動	偶数月1回	偶数月第1又は3

				木曜
13	シネマチック同好会	映画鑑賞と親睦		休止中
14	港カーレットクラブ	カーレット（カーリングのルールを取り入れた卓上ゲーム）	月 14 回	毎週月、火、金曜 第1・3水曜

④平成 30 年度入浴提供実績

	機械入浴 (18 人)	介助入浴 (11 人)	家族入浴 (7 人)
4 月	114	81	23
5 月	130	84	32
6 月	129	78	29
7 月	141	83	30
8 月	138	82	21
9 月	126	76	25
10 月	136	83	33
11 月	128	79	24
12 月	114	78	24
1 月	115	79	24
2 月	105	76	20
3 月	125	80	24
30 年度 延べ総数	1,501	959	309
29 年度 延べ総数	1,251	884	311
実績比	+250	+75	-2
前年比	+20%	+8%	-0.01%

⑤平成 30 年度 相談支援事業者連絡会の開催状況は以下のとおり

日時	内容	参加人数
4 月 17 日（火） 18:00～19:30	定例会 グループワーク「よりよいアセスメントについて考える」	25 名
5 月 15 日（火） 18:00～19:30	定例会 報酬改定後の請求業務について 事例検討「多問題家族の事例」	25 名
6 月 19 日（火） 18:30～20:30	研修 「アンガーマネジメント」 (区主催研修)	全体人数 93 名（一般参加者 含む）
7 月 17 日（火） 18:00～20:00	定例会 グループワーク「自立支援協議会に向けて地域の課題を探 る」	21 名
8 月 27 日（月）	講演会	17 名

18:00～20:30	「自立支援協議会のあり方について」	
9月18日（火） 18:00～20:30	定例会 南麻布障害者支援施設の情報提供 自立支援協議会への報告事項	17名
10月16日（火） 18:00～19:30	定例会 勉強会「地域移行支援の取り組みについて」	29名
11月20日（火） 18:00～19:30	定例会 児童発達支援センター開設に向けての情報提供	31名
12月18日（火） 18:00～20:30	定例会 研修「いのちについて考える」（区主催研修）	19名
1月15日（火） 18:00～19:30	定例会 「自立支援協議会に向けての話し合い」 （自立支援協議会会員講師予定）	17名
2月20日（火） 18:00～19:30	研修 「アセスメントについて」	20名
3月19日（火） 18:00～19:30	定例会 今年度の振り返りと次年度について	15名

地域での相談員

地域での相談員、パネリスト、事例検討の実績

港区高次脳機能障害理解促進事業 高次脳障害相談会 相談員（相談支援専門員・作業療法士・言語聴覚士）	12回
--	-----

⑥平成30年度 港区から委託された相談支援事業の受付状況は次のとおり。（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
福祉サービス利用等	25	6	4	14	8	11	11	21	11	11	12	7	141
障害（病状）の理解	6	0	2	1	4	1	4	3	3	2	3	0	29
健康・医療	5	4	8	3	4	7	4	6	4	12	4	3	64
不安の解消・情緒安定	7	6	5	6	5	5	6	9	6	5	5	7	72
保育・教育	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	4
家族関係・人間関係	4	5	3	3	4	1	1	6	2	1	1	2	33
家計・経済	3	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	7
生活技術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
就労	1	0	1	3	3	1	1	7	6	1	0	2	26
社会参加・余暇活動	14	7	3	6	4	0	0	6	9	7	0	5	61
権利擁護	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
その他	0	1	0	4	0	0	0	1	2	1	0	0	9
合計	66	29	27	41	32	27	28	60	44	41	26	26	447

⑦専門相談受付内容と件数

年齢層 \ 相談内容	補装具	住宅改造	相談 リハビリ	機能評価	福祉サー ビス等	その他	計
40歳以下	4	6	4	2	0	13	29
41～50歳	3	3	0	0	0	1	7
51～60歳	4	1	1	0	0	11	17
61～64歳	1	0	0	0	0	1	2
65歳以上	0	2	0	0	0	0	2
計	12	12	5	2	0	26	57

⑧専門医相談の実施状況は次のとおり。

週 曜日	1 週	2 週	3 週	4 週
月	整形外科	—	精神科 整形外科	—
火	—	内 科	—	内 科
水	眼 科	—	精神科	—
木	—	—	—	耳鼻咽喉科
金	—	—	—	—

⑨専門医相談の利用実績

(単位：件)

診療科目 \ 年齢層	精神神経	整形外科	内 科	眼 科	耳鼻咽喉科	計
17歳以下	1	0	0	0	1	2
18～40歳	37	43	209	109	127	525
41～64歳	12	12	60	35	50	169
65歳以上	0	0	0	1	1	2
計	50	55	269	145	179	698

⑩栄養基準量と給与栄養量

	エネルギー (kcal)	たんぱく質 (g)	脂質 (g)	カルシウム (mg)	鉄 (mg)	ビタミン				食物 繊維 (g)	食塩 相当量 (mg)
						レチノール 当量 (μ)	B1 (mg)	B2 (mg)	C (mg)		
栄養基準量	700	26.3	19.5	200	3.5	225	0.35	0.40	35	6.0	2.7
給与栄養量	686	25.0	20.6	138	2.6	196	0.37	0.33	49	5.2	3.2

※ 栄養基準量は年1回4月に算出したもの

⑪栄養比率 (%)

炭水化物エネルギー比	脂肪エネルギー比
58	27

⑫食品構成と食品群別給与量 (g)

食 品 群 名		食 品 構 成	給 与 量
1. 穀 類	米	60	63
	パ ン 類	11	8
	め ん 類	28	29
	その他の穀類・堅果類	1	0
2. い も 類	じゃがいも類	16	15
	こんにゃく類	1	1
3. 砂 糖 類		2	2
4. 菓 子 類		0	17
5. 油 脂 類	動 物 性	1	1
	植 物 性	3	4
6. 豆 類	み そ	3	3
	豆・大豆製品	12	10
7. 魚 介 類	生 物	18	12
	塩 蔵・缶 詰	1	1
	水産練り製品	5	7
8. 獣鳥肉類	生 物	39	42
	その他の加工品	3	5
9. 卵 類		11	9
10. 乳 類	牛 乳	14	10
	その他の乳製品	15	15
11. 野菜類	緑黄色野菜	52	45
	漬 物	1	1
	その他の野菜	91	92
12. 果 物 類		25	19
13. 海 草 類		1	1
14. 調 味 料 類		9	10
15. 調 味 加 工 食 品 類		1	11

⑬給食提供食数 (食)

区 分	昼食
月平均食数	2,651
年間総食数	31,841

※ 食事提供は昼食のみ

提供食数は工房アミ、みなとワークアクティ、こども療育パオ大人食の喫食数を合わせたものである

⑭自立訓練（機能訓練）利用者状況（平成31年3月31日現在）（単位：人）

種 別 年 齢 層	性 別		障 害 別				障 害 等 級		
	男	女	脳 血 管 障 害	神 経 ・ 筋 疾 患	脳 性 麻 痺	そ の 他	1 ・ 2 級	3 ・ 4 級	5 ・ 6 級
30歳以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31～40歳	2	0	1	0	0	1	1	1	0
41～50歳	3	2	3	0	0	2	4	1	0
51～60歳	2	0	1	1	0	0	2	0	0
61～70歳	0	2	0	0	0	0	0	0	0
71歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7	2	5	1	0	3	7	2	0
	9		9				9		

⑮自立訓練（機能訓練）各コース利用状況（平成30年度）

コース名			利用者数（人）	実施回数（回）	利用者延人数（人）
通所型	生活基礎プログラム		1	50	49
	自立社会参加プログラム	月	9	42	161
		水	7	51	257
		木	7	49	164
	コミュニケーションプログラム		7	50	158
	水中プログラム		4	48	113
	ボッチャ 4 月 15 日		4	1	4
訪問型		一時間以上	6	7	8
		一時間未満	3	24	26
計			48	322	940

⑯重複障害者機能訓練利用状況

期 間	利 用 者 数（人）	実 施 回 数（回）	利用者延人数（人）
前 期	15	48	296
後 期	14	45	232

⑰学齢児機能訓練利用状況

期 間	利 用 者 数（人）	実 施 回 数（回）	利用者延人数（人）
前 期	12	24	109
後 期	13	23	124

⑮高次脳機能障害者機能訓練 利用状況

期 間	利 用 者 数 (人)	実 施 回 数 (回)	利用者延人数 (人)
前 期	5	25	105
後 期	5	25	113

3 事業計画の実施状況

区分 事項	概 要	実施予定 日・回数	担当	進捗状況
1 運営管理 ①会議	地活センター全体会 業務調整会議 地活センター会議 自立訓練担当会議 入浴担当会議 ケースカンファレンス 個別支援計画 個別支援計画会議 計画相談調整会議 利用会議（自立訓練） 利用会議（区単独事業）	月 1 回 第 1 月曜 第 4 火曜 第 3 金曜 月 1 回 随時 随時 随時 第 3 金曜 随時 年 2 回	全職員 施設長・役職者 施設長 係 施設長 係 係 係 係 施設長 係 施設長 係 施設長 係	予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施 随時実施 随時実施 随時実施 予定通り実施 随時実施 8 月、2 月に実施
【他係連携会議】	機能訓練士会 相談員ミーティング 看護師会議	月 1 回 月 1 回 隔月	PT・OT・ST 係 係	予定通り実施 予定通り実施 予定通り実施
【関係機関との会議】	相談支援事業者連絡会 サービス事業者連絡会	毎月 随時	係 施設長	予定通り実施 7 月で解散
②職員研修	学校見学 他施設見学 外部研修	随時 随時 随時	係 全員 全員	計画に基づき参加 計画に基づき参加 計画に基づき参加
③実習生受け入れ予定	東洋大学 東京福祉大学	8 月～9 月	係 係	1 名受け入れ 本年度は受入なし
2 利用者支援 相談業務	一般相談 専門相談 専門医相談	随時 随時 随時	係 係 精神神経科、整形 外科 眼科、内科、 小児神経科、耳鼻 咽喉科、歯科	随時実施 随時実施 随時実施

10－（３）こども療育パオ

港区単独事業：心身障害児通園施設・発達相談
児童発達支援事業所：重症心身障害児通園

1 重点事項

方針管理書（計画・目標）実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重 点 施 策	担 当	目標値に対する結果
A 経営 財務	1	土曜日の個別相談を開始	全員	4月より月2日実施した。
	2	危機管理体制作り及び緊急時の対応について	全員	土曜開設日の対応マニュアルを整備した。
	3	重症心身障害児対応のセンター内部研修の実施	全員	センター他部署の職員を研修・見学で受入れた。
	4	職員の資質向上	全員	外部理学療法士による研修を実施し、医療的ケア児と肢体不自由児の活動に参加して遊びの中での介助方法を学んだ。
	5	地域福祉への貢献	全員	施設見学会の実施 →7・8月に幼稚園教諭の現場実習を受入れた。11月、12月には療育見学会を実施した。

《実施状況の評価》

A 経営財務

A1 土曜日の個別相談を開始

予ねてより保護者から個別相談の土曜の開所が望まれてきた。平成30年4月から相談員、心理士、支援員による相談日を月2日設け、就労などにより平日利用が困難な保護者が相談しやすい体制を整備した。土曜日に相談日を設ける事で、両親で相談に來所する家庭が増加し、より家庭全体の状況を把握した上で相談に応じることができた。

A2 危機管理体制作り及び緊急時の対応について

土曜日開所にあたり、他施設も含め、施設長、主任の不在が想定されるため、センターにおける「土日・夜間の緊急時対応マニュアル」をパオ職員に周知徹底すると共に、当マニュアル以外で必要な危機管理事項についても全職員で確認した。

また、土曜日の業務報告を確実に実施するために、土曜日に出勤した職員が月曜日に報告した。

なお、土曜日出勤者全員が出勤しない場合は、日直者が土曜日のミーティング記録を周知情報を共有した。

土曜日開所時における緊急時に対応するため、センター緊急連絡マニュアルを踏まえた通報訓練を毎月行った。

A3 重症心身障害児対応のセンター内部研修の実施

今後、センターで医療的ケアが必要な障害者を受入れていくため、10年間医療的ケアに必要な児のクラスを運営してきた経験から、地域活動支援センター及び工房アミ職員（看護師3名、支援員2名）を受入れた。具体的な研修内容は、バス添乗時の看護師対応方法、降車からクラスへの移動方法、クラスやグループでの療育活動に参加し、医療的ケアが必要な利用児への支援内容と方法を確認した。研修実習後に提出された研修報告書では職員間の連携の必要性や大切さを理解できたようだ。

A4 職員の資質向上

外部の理学療法士を講師として、医療的ケアに必要な児と肢体不自由児の活動に直接参加して頂き、遊びの中での介助方法を学んだ。肢体不自由児に関しては、例年と同じように、各クラスでの取り組みをまとめ、発表形式による内部研修会を12月に全職員が参加して実施した。研修実習後に提出された研修報告書では、各クラスの担当だけではなく、職員全員が現場で直ぐに活かせる支援が学べたと好評だった。こども療育パオでは様々な特性のある利用児が利用するので、職員は様々な支援スキルが求められるため、引き続き行っていく。

A5 地域福祉への貢献

区立の療育施設として、地域の保育園や幼稚園の職員を対象に、こども療育パオでの療育内容及び一般的な内容から個別的なケースも含めて、特別な支援を必要とする子どもたちに対する「支援方法、障害特性や障害への理解」を伝えるため、7、8月に10名の幼稚園教諭の実習を受入れた。

11月には地域の保育園等職員向けの療育見学会を2日間開催し、合計39名が参加した。クラスでの様子を見学するだけでなく、療育で使用している教材の展示会も行った。来所した見学者と直接会うことで顔が見える関係ができ、関係機関とのつながりが一層強化できた。

ア. 個別支援（相談・指導）

方針管理書（計画・目標）実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重点施策	担当	目標値に対する結果
B 品質	1	初回面談枠の増加	担当	初回面談を年間148件実施した。随時随時でインテークを実施した。
	2	待機児グループの実施	担当	10月より月3回程度実施した。

《実施状況の評価》

B 品質

B1 初回面談枠の増加

現在、初回面談を月平均12.3件設けているが、電話予約から初回面談まで最大で2ヶ月待ちになっている現状があるため、土曜日の相談日に初回面談日を設け、早期に相談開始できるよう待ち期間の短縮化に努めた。また、相談内容や年齢を考慮して相談枠を予定枠より増やすなど、個別性に配慮した対応に努めた。

B 2 待機児グループの実施

指定日通園に該当する児童数が定員を超えて3名以上になったため、10月より待機児グループを実施した。頻度は月3回程度、指定日通園に準じて支援員による療育内容とし、心理士、言語聴覚士、作業療法士もグループに参加し、適宜保護者の相談に応じた。

イ. 通園事業

方針管理書（計画・目標）実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重 点 施 策	担 当	目標値に対する結果
B 品質	1	重症心身障害児通園事業の3歳児以上の利用日数増	担当	火・木曜日に2歳児以下通園児が5名以下の日には年長児を優先に登園できるようにした。
	2	主活動以外の時間の療育について	担当	主活動の開始時間を早め、主活動後の給食までの時間を長めに取りすることで、トイレトレーニングに時間を掛けて取り組める等、時間を有効活用することができた。

《実施状況の評価》

B 品質

B 1 重症心身障害児通園事業の3歳児以上の利用日数増

3歳児以上の利用児は週に3日（月・水・金曜日）の登園となっているが、火・木曜日の2歳児以下の出席状況に応じて、3歳児以上の利用児も火・木曜日に登園した。6月より年長児の登園を火・木曜日を含め週5日間できるように職員体制を整備し受け入れた。

B 2 自由遊びの内容について

今年度より、朝の会の開始時間及び主活動の開始時間を早めることで、これまで生じていた朝の自由時間を短縮した。これに伴い、主活動後から給食までの時間が今までより長くなったが、その時間はトイレトレーニングに時間を掛けて取り組む等、有効活用することができた。また、朝の会の内容を充実させる等、各クラスに合わせた取り組みができて、子どもたちにとっても意義のある時間になった。変更事項については、内容を懇談会や個別面接で説明した。日々の生活での様子は、保護者との日常のやりとりの中で伝えた。

2 事業計画の結果

【職員の配置状況】

平成 30 年度の職員の配置状況は、次のとおりである。

(平成 31 年 3 月 31 日現在)

(単位：人)

職種	施設長	支援員	看護師	臨床心理士	作業療法士	理学療法士	言語聴覚士	社会福祉士
常勤・非常勤								
こども療育パオ								
常勤職員（定員）	1	17	1	3	1	0	1	2
常勤職員（現員）	1	17	1	3	1	0	1	2
非常勤職員	0	5	0	1	1	0	0	0
重心【めろん】								
常勤職員（定員）		2	2			1		
常勤職員（現員）		2	2			1		
非常勤職員		0	0			0		

【内部会議】

会議名	頻度	参加者	内 容
朝・帰りのミーティング	毎 日	全 員	始・就業時情報交換
職員会議	月 1 回	〃	施設内全体の問題・情報交換・全体周知事項報告
ケース会議・インテーク報告会	毎週木	施設長・個別担当職員	利用検討・利用方針
ケース・カンファレンス	〃	関係職員 嘱託医	個別指導 相談 通園について
業務調整会議	月 1 回	関係職員	業務内容の検討
リーダー会議	月 1 回	担当職員	通園事業
個別担当者会議	月 1 回	個別担当職員	個別相談事業
クラス会議（日々）	随時	担当職員	指導方法 活動内容 計画
〃（指定日・めろん）	〃	〃	〃
日々クラス会議	〃	〃	合同の活動、指導内容検討
行事担当者会議	〃	〃	行事の立案
係担当者会議	〃	〃	
利用会議	月 1 回	施設長・相談員・嘱託医	利用決定

【外部会議】

項 目	時期	担当者
地域療育連絡会	5・11・2月	関係職員
東京都立青山特別支援学校・運営連絡協議会・評価委員会	6・12・1月	施設長
東京都社会福祉協議会 H30 年度知的発達障害部会 総会・定例会	5・10・1月	施設長
港区障害者地域自立支援協議会幹事会	11・1月	相談員
東京都重症心身障害児（者）通所施設連絡会	7・2月	施設長
港区要保護児童対策地域協議会 実務者会議	5・1月	支援員、看護師
東京都児童発達支援管理者研修（講師）	11月・3月	施設長
港区教育委員会特別支援協議会（幼稚園）	2月	施設長
港区教育委員会就学支援委員会	10～2月	施設長、主任

【職員研修】

	研修名	参加職種	主催	人員	実施月
外部研修	・平成 30 年度社会福祉サービス等報酬にかかる行政説明および勉強会	支援員	全国重症心身障害日中活動支援協議会	1名	5月
	・こどものことば	支援員	新医療東京支部	1名	5月
	・障害児のプール指導	訓練士	心身障害児総合医療療育センター	1名	5月
	・怒りと上手につきあうために	支援員	障害者福祉課	3名	6月
	・強度行動障害基礎講座	支援員	東社協知的発達部会	1名	6月
	・重症心身障害児者の3大ケア	支援員	日総研グループ	2名	7月
	・看護師基礎講座	看護師	東京都福祉保健局障害者政策推進部	1名	7月
	・夏場の感染症講習会	看護師	みなと保健所	1名	7月
	・発達段階における思春期の特性と上手な関わり方	心理士	子ども発達支援センター	1名	7月
	・支えあう家族の取り組みから学ぼう	心理士	うまだ・あけぼの学園	1名	8月
	・気になる子の学習支援	心理士	ジャパンライムセミナー	1名	8月
	・発達障害、知的障害のある子の保護者について学ぶ	支援員	発達協会	1名	10月
	・発達障害がある子どものコミュニケーションを確実にする支援技術	支援員	発達協会	1名	10月
	・発達障害、知的障害のある子の「感覚」への対応	支援員	発達協会	1名	11月
	・東京都サービス管理責任者研修及び東京都児童発達支援管理責任者研修（2日課程）	対象職員	東京都	1名	9月
	・東京都サービス管理責任者研修及び東京都児童発達支援管理責任者研修（2日課程）	対象職員	東京都	2名	11月
	・就学以降の発達障害支援のキホンのき	心理士	日本発達障害ネットワーク	2名	1月
	・大塚特別支援学校 研修報告	支援員		2名	2月
	・地域で暮らす医療的ケア児を支援する看護師を増やそう	看護師	一般社団法人日本小児看護学会	1名	2月
	・第2回都内重症心身障害児者通所施設連絡会	看護師	重心連絡会	1名	2月
	・子どものアトリエ・教師のために ワークショップ 2019 春季講座	支援員	横浜美術館教育普及グループ	1名	3月

内部研修・施設内勉強	職員研修（基礎講座）	新人職員		6名	4月
	新入社職員研修（モニタリング・個別支援計画）	新入職員		8名	4月
	新入社職員研修（障害特性・認知発達検査）	新入職員		7名	4月
	新人研修（3回）	対象職員		対象者全員	5月
	内部研修会（児童発達と相談支援）	全職員		全員	5月
	内部研修（摂食）	全職員		全員	6月
	センター内部研修（接遇、ハラスメント）	全職員		全員	6月
	内部研修（定型発達）	全職員		全員	7月
	内部研修（各クラスの取り組み・支援について）	通部職員・非常勤職員		通部職員	8月
	内部研修（ノロウィルス）	全職員		全員	11月
	内部研修（水野心理スーパーバイズ）	全職員		全員	12月
	内部研修（重症心身障害児の発達について）	全職員		全員	1月
	内部研修（強度行動障害）	全職員		全員	2月
	内部勉強会（原PTスーパーバイズ ケーススタディ報告会）	担当職員		担当職員	5.6.8.9.11.12. 2.1.2月
	内部勉強会（水野心理士スーパーバイズ ケース報告会）	担当職員		担当職員	6.8.9.10.12. 2月
	法人事例研究発表会	施設長		1名	9月
	法人研修（中堅職員研修）	対象職員		2名	11月
	法人管理者研修	施設長		1名	1月
	法人リーダー研修	対象職員		2名	2月

【実習生受入れ状況】

本年度の実習生の受入れ状況は、次のとおりである。

（単位：人）

実習依頼学校及び学部学科	実施月	期間（日）	学年（年）	受入数（人）
首都圏大学 作業療法士学科	5月～6月	40	3	1
上智社会福祉専門学校 保育実習	5月～6月	10	2	1
国立障害者リハビリテーションセンター学院 言語聴覚学科	6月～7月	30	2	1
東洋英和女学院大学 保育実習	6月～7月 7月～8月	12	4	2
昭和女子大学 人間社会学部初等教育学科	8月	12	3	1
日本リハビリテーション専門学校	9月	5	2	1

【ボランティアの受入れ状況】

本年度のボランティアの受け入れ状況は、次のとおりである。

（単位：人）

内 容	延回数（回）	実施内容	グループ・個人名	人数（人）
学齡児グループ	13	学齡児グループ活動	区ボランティアセンター紹介	2

【行 事】

こども療育パオで行った行事は次のとおりである。 ※（ ）内は保護者等を含めた数

行事名	実施日	参加数	職員	備考
はじめの会	4月5日	38人(47人)	全 員	
春の遠足	5月17日	11人(11人)	関係職員	神宮外苑ニコニコパーク
	5月18日	28人(28人)	関係職員	行船公園
保護者参加日	7月7日	40人(56人)	関係職員	
保護者勉強会	6月29日	21人(39人)	関係職員	
運動会	11月10日	54人(195人)	関係職員	
クリスマス会	12月14日	46人(46人)	関係職員	
おわかれ遠足(日々)	3月1日	36人(36人)	関係職員	しながわ水族館
修了式・おわかれ会	3月8日	37人(46人)	全員	

【一時保育の状況】本年度の一時保育の利用状況は、次のとおりである。

月 項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施日数(日)	0	19	17	15	21	17	19	11	14	13	15	3	164
利用者延べ人数(人)	0	37	37	46	42	44	44	45	44	44	57	15	455
利用登録者数(人)	37	40	40	40	40	39	39	39	39	39	39	39	

【就園児グループ】本年度の就園児グループ活動の利用状況は、次のとおりである。

オレンジグループ		活動内容	参加数(人)	オレンジグループ		活動内容	参加数(人)
1	6月4日	言葉/運動	8	11	11月5日	運動会練習	8
2	6月11日	言葉/運動/制作	8	12	11月19日	運動会	7
3	6月25日	言葉/運動/制作	8	13	12月3日	クリスマス会準備	7
4	7月23日	言葉/運動/制作	7	14	12月17日	クリスマス会	8
5	7月30日	言葉/運動/制作	5	15	1月7日	お正月遊び	7
6	8月20日	言葉/運動/制作	5	16	1月21日	就学準備課題/SST	8
7	9月3日	買い物ごっこ	7	17	2月4日	制作/SST	7
8	9月10日	外出(買い物)	6	18	2月18日	制作/就学準備課題	6
9	10月1日	制作/運動	5	19	3月4日	計画/就学準備課題	4
10	10月15日	外出(新橋駅)	5	20	3月11日	終わりの会	7

・地域連携として、利用児所属園の職員がグループ見学と面接を実施。

7月に私立みなと幼稚園(職員1名)、11月と12月に私立同胞幼稚園(職員10名)

【 2 歳児待機グループ】本年度の2 歳児待機グループ活動の利用状況は、次のとおりである。

ふたばグループ		活動内容	参加数 (人)	ふたばグループ		活動内容	参加数 (人)
1	10 月 1 日	オリエンテーション	4	17	3 月 11 日	運動遊び	6
2	10 月 15 日	紙遊び	3	18	3 月 18 日	自由遊び (オリエンテーション)	5
3	10 月 22 日	ボール遊び	3	10	1 月 7 日	小麦粉粘土遊び	2
4	11 月 5 日	紙遊び	2	11	1 月 21 日	ボール遊び	5
5	11 月 19 日	小麦粉粘土遊び	2	12	1 月 28 日	節分製作	5
6	11 月 26 日	寒天遊び	1	13	2 月 4 日	運動遊び	5
7	12 月 3 日	クリスマス製作	3	14	2 月 18 日	スヌーズレン	6
8	12 月 10 日	運動遊び	1	15	2 月 25 日	紙粘土遊び	6
9	12 月 17 日	運動遊び	2	16	3 月 4 日	紙遊び	5

【 0・1 グループ】本年度の0・1 歳児グループ活動の利用状況は、次のとおりである。

そらまめグループ		活動内容	参加数 (人)
1	4 月 26 日	しゃぼんだま/スキップ遊び	5
2	5 月 22 日	製作	5
3	6 月 14 日	スヌーズレン	3
4	7 月 19 日	布あそび	4
5	8 月 23 日	ジャンピー	5
6	9 月 13 日	新聞紙あそび	4
7	10 月 11 日	ハロウィン	7
8	11 月 15 日	マラカス作り	6
9	12 月 13 日	スヌーズレン	9
10	1 月 24 日	リズム遊び	4
11	2 月 14 日	布あそび	7

【学齡児グループ】 本年度の学齡児グループ活動の利用状況は、次のとおりである。

A グループ

実施日		活動内容	参加数（人）	実施日		活動内容	参加数（人）
1	5月16日	オリエンテーション	5	9	10月10日	散歩	4
2	6月6日	散歩	7	10	10月31日	プール	4
3	6月27日	プール	5	11	11月21日	プール	3
4	7月18日	プール	4	12	12月12日	クッキング	3
5	7月27日	夏祭り	5	13	1月9日	運動あそび	4
6	8月8日	プール	3	14	1月30日	プール	3
7	8月29日	クッキング	2	15	3月13日	散歩	5
8	9月19日	プール	4	16	3月29日	遠足	5

B グループ

実施日		活動内容	参加数（人）	実施日		活動内容	参加数（人）
1	5月23日	オリエンテーション	6	9	10月17日	散歩	7
2	6月13日	散歩	6	10	11月7日	プール	7
3	7月4日	プール	7	11	11月28日	プール	5
4	7月25日	プール	6	12	12月19日	クッキング	6
5	7月27日	夏祭り	7	13	1月16日	運動あそび	4
6	8月15日	プール	6	14	2月6日	プール	7
7	9月5日	クッキング	7	15	3月20日	散歩	6
8	9月26日	プール	4	16	3月29日	遠足	6

【おもちゃ図書館】

おもちゃ図書館の状況

本年度のおもちゃ図書館の利用状況は、次のとおりである。

開催日		貸出数（件）	開催日		貸出数（件）
1	4月	1	8	11月	1
2	5月	3	9	12月	0
3	6月	12	10	1月	3
4	7月	1	11	2月	4
5	8月	1	12	3月	5
6	9月	2		計	33
7	10月	0			

【健康管理】

■日常の健康管理報告

- ・平成 30 年度は救急搬送を必要とする事例が 1 件あった。
- ・パオ施設内にて嘔吐・下痢があった場合に、全職員が迅速な対応が取れるように「感染性胃腸炎発生時のフロー」の作成と汚物処理キットを用いて職員全員に講習を行った。
- ・アレルギー対応マニュアルを作成し、食物・動物アレルギー児への事務手続きや給食の提供まで、また緊急時の対応についての一連の流れを明確にし、迅速な対応が出来るようにした。
- ・近年数名いる食事制限の児に対しては、年度末更新で医師の診断書の提出と健康管理表、緊急時対応シートの提出をしていただき、対象食品を完全除去するように対応している。
- ・てんかん個別対応ファイルを作成し、発作が出現したときの対応や預かり薬の管理、てんかん発作のある児を迅速に把握できるようにした。
- ・日々通園児の登園時にクラスを巡回し視診を行うことで、異常の早期発見や体調変化への迅速な対応が出来るようになった。
- ・全クラスの利用児の情報を PC に入力し、日々の看護記録・摂食指導内容などを記録することで、情報の共有が容易になった。
- ・そらまめ・学齢児グループの利用児情報を PC に入力し健康状況などが迅速に把握できるように対応した。
- ・重症心身障害児クラスの児は個別の健康管理シートを用いて通園時は必ずバイタル測定や観察を行い記録し、継続的に健康管理が行えるようにした。
- ・重症心身障害児クラスの送迎には、常時観察が必要であり医療的ケアが必要な児に対しては看護師が添乗しバス送迎を行った。

■感染症対策

- ・感染性胃腸炎の流行時期には例年通り新人職員を主とした職員全員に対し講習を行い、嘔吐物処理の周知をした。
- ・冬季に季節性のインフルエンザが流行したが集団発生をすることはなく終息した。しかし同時期に 4 人以上の欠席児がいたため区へ報告をした。インフルエンザや感染症が流行しやすい冬季にはグループ活動や他クラスとの交流を控え、感染拡大防止に努めた。
- ・おもちゃやコップなどのピューラックス希釈水での消毒を毎日施行することで、感染症の拡大防止に努めた。
- ・指定された感染症の出現時は、保護者へお知らせを配付し感染拡大防止に努めた。
- ・規定の感染症報告があった場合は書面でお知らせの作成を行い、各保護者へ通達し感染拡大防止に努めた。

パオが行った健康管理は次のとおりである。

項目	回数	利用者	担当者	
身体測定	月 1 回	全 員	看護師	
小児科健診	〃	全 員	専門医	別表にて報告
歯科健診	〃	〃	〃	〃
専門医相談・検診	随時	希望者	〃	

■その他

- ・平成 30 年度の重症心身障害児クラスでの医療的ケアの事故発生はなかった。個別対応シート内に緊急時の対応なども書き込み、予測できる危険を踏まえながら日々の医療的ケアを実施するよう心がけた。また必要な医療物品はパオに予備を保管し、すぐに対応できるようにした。
- ・預かり薬の期限はこちらで確認し、新年度から続けて通園する児に対しては返却せずそのままパオで保管する。個別対応シートは毎年更新することとし保護者に説明し承諾を得た。

こども療育パオ資料

(別表)

○ 利用者の障害状況 (月末現在)

(単位：人)

月	4			5			6			7			8			9		
単一障害・ 重複障害又は合併症	通園	在宅	めろん	通園	在宅	めろん	通園	在宅	めろん	通園	在宅	めろん	通園	在宅	めろん	通園	在宅	めろん
A：知的障害	16			17			18			18			16			16		
B：発達障害	17			20			20			20			23			23		
C：肢体不自由	1			5			5			5			5			5		
D：ABC に難聴等合併													1				1	
E：重症心身障害	4	1	9	3	1	9	3	1	9	3	1	9	3	3	9	3	3	9
F：その他	9	2		2	2					3	3		3			4	1	
計	47	3	9	47	3	9	46	3	9	49	4	9	50	4	9	51	5	9
月	10			11			12			1			2			3		
単一障害・ 重複障害又は合併症	通園	在宅	めろん	通園	在宅	めろん	通園	在宅	めろん	通園	在宅	めろん	通園	在宅	めろん	通園	在宅	めろん
A：知的障害	18			18			19			19			19			19		
B：発達障害	23			23			24			24			24			24		
C：肢体不自由	5			5			4			5			5			5		
D：ABC に難聴等合併		1			1			1			1			1				
E：重症心身障害	3	4	9	3	4	9	3	4	9	3	4	9	3	5	9	3	5	9
F：その他	1			2	1						1							
計	50	5	9	51	6	9	50	5	9	51	6	9	51	6	9	51	6	9

○ 利用者の年度の推移

(単位：人)

年度 (平成)	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
クラス																
日々 (3～6 歳)	16	18	22	23	20	17	18	20	23	22	31	33	35	33	31	39
すいか併用通園 (3～6 歳)										5						
指定日 (概ね 0～3 歳)	10	13	14	17	14	14	12	20	15	17	11	11	12	12	10	12
めろん (0～6 歳)							6	5	6	11	8	8	8	8	9	9
並行・併用通園	3	1	2	1	4	6	4	4	5					4	8	11
利用者計	29	32	38	41	38	37	40	49	49	55	50	52	55	57	58	71

○ 利用者数（月末現在）

本年度の利用者数の動向は、次のとおりである。（単位：人）

月 区分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
通園部門	男	32	32	33	39	37	37	36	37	37	37	37	37
	女	15	15	14	13	13	14	14	14	14	14	14	14
	計	47	47	47	52	50	51	50	51	51	51	51	51
めろん*	男	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	女	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	計	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
在宅	男	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	女	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3	3	3
	計	3	3	3	4	4	5	5	6	6	6	6	6
学童グループ	男	0	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	女	0	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	計	0	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15

*東京都重症心身障害児（者）通所事業（めろん）

○健康管理の状況

年間診察件数（延べ人数）

（単位：人）

月 項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
小児科診	0	0	17	17	18	14	22	20	21	19	21	21	190
歯科診	11	9	14	13	13	13	13	14	11	14	13	12	150
ケース診	7	6	8	2	5	5	8	4	7	10	6	4	72
摂食指導	7	8	6	7	4	1	1	0	0	2	3	2	41

○ 相談延べ件

（単位：人）

内訳 区分	理学療法	作業療法	言語	心理	社会福祉士	看護	計
発達・療育相談	322	909	1106	1605	281	8	4231
訪問指導	0	0	0	1	0	0	1
巡回訪問	3	6	2	14	1	0	26
その他	0	0	0	0	2	0	2
合計	325	915	1108	1620	284	8	4260

※巡回訪問実施施設…区立保育園（暫定・公民含む）：5園 認証保育所：1園

私立保育園：3園 区立幼稚園：2園 私立幼稚園：2園 その他：2

○ 発達・療育相談事業利用者数

(単位：人)

年 齢 分		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	学齢児	その他	計
区										
相 談		22	38	73	42	33	29	14	7	258
内 訳	単発相談	7	8	8	4	4	5	13	6	55
	受 付 中	15	30	49	21	16	10	1	1	143
	通園利用	0	0	16	17	13	14	0	0	60
指導・訓練		16	27	48	49	70	61	0	0	271
内 訳	単独利用	16	23	46	49	70	61	0	0	265
	通園利用	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	在 宅	0	4	2	0	0	0	0	0	6
合 計		38	65	121	91	103	90	14	7	529

※パオ通園児の指導・訓練は発達・療育相談事業ではなく、パオの活動として行うため計上しない

○ 栄養管理の状況

給食提供食数（食）

区 分	昼食
月平均食数	751
年間総食数	9,009

栄養基準量と給与栄養量

	エネルギー (Kcal)	たんぱく質 (g)	脂質 (g)	カルシウム (mg)	鉄 (mg)	ビタミン				食塩 相当量 (mg)
						レチノール 当量(μ)	B1 (mg)	B2 (mg)	C (mg)	
栄養 基準量	380	14.3	11.4	150	1.7	135	0.21	0.24	14	1.5
給与 栄養量	393	14.4	11.0	86	1.4	131	0.24	0.19	37	1.5

※ 栄養基準量は年1回4月に算出したものである。

栄養比率（％）

炭水化物エネルギー比	脂肪エネルギー比
60	25

食品構成と食品群別給与量（g）

食 品 群 名		食 品 構 成	給 与 量
1. 穀 類	米	35	36
	パン 類	6	6
	めん 類	8	6

	その他の穀類・堅果類	0	0
2. いも類	じゃがいも類	13	16
	こんにゃく類	1	0
3. 砂糖類		1	1
4. 菓子類		0	6
5. 油脂類	動物性	1	0
	植物性	2	1
6. 豆類	みそ	2	1
	豆・大豆製品	8	7
7. 魚介類	生 物	11	8
	塩蔵・缶詰	1	0
	水産練り製品	3	3
8. 獣鳥肉類	生 物	24	27
	その他の加工品	2	2
9. 卵 類		7	6
10. 乳類	牛 乳	12	6
	その他の乳製品	14	15
11. 野菜類	緑黄色野菜	36	34
	漬 物	0	0
	その他の野菜	58	56
12. 果物類		20	25
13. 海草類		1	0
14. 調味料類		8	77
15. 調味加工食品類		2	0

10－（４）工房アミ（生活介護事業）

1 重点事項

方針管理書（計画・目標）の実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重点施策	担当	目標値に対する結果
A 経営 財務	1	新規事業の定着	全 員	① アミ4の拡張分スペースを有効利用し、「アート」活動で使用した。「アート」活動は、課題別に参加利用者の振り分けを行い実施した。 ② 延長事業は利用者が増え、事業として定着した。
B 品質	1	自立促進と地域交流	全 員	課題別外出を年2回実施した。
	2	安心、安全なサービス提供	全 員	年間を通して、大きな事故は無く運営出来た。
C 人材 育成	1	職員の資質向上	全 員	研修対象職員28名中、27名が外部研修又は他事業所の見学等に参加した。

《実施状況の評価》

A 経営財務

A1 新規事業の定着

- ① アート活動において、利用者個別の障害特性による課題（支援内容）別の振り分けを行い、アミ4拡張スペースを使ってそれぞれのグループで活動した。
- ② 延長事業は、受付から利用決定、帰宅時バスルートの設定までの手順が確立し、利用を希望する人も増え、事業として定着できた。次年度から利用者の更なる利便性向上のため、当日の利用申し込み（但し、保護者の迎えが必要）にも対応していく。

B 品質

B1 自立促進と地域交流の促進

アミの利用者や活動、障害への理解促進を目的に広報誌「アミ便り」を年2回発行した。後期には、区民まつりやヒューマンプラザまつりといった大きな行事があり、支援者やボランティアだけではなく、一般来場者との貴重な交流の場となっている。

また、課題（支援内容）別グループでの外出を前期に続き後期も1回実施した。少人数での外出のため、時間のゆとりができ、喫茶店やファーストフード店などでの飲食やお土産の購入など利用者それぞれに楽しむことができた。

B2 安心、安全なサービス提供

前期同様、後期も利用者に関する大きな事故はなかったものの、個人情報に関して、職員あて文書を同姓の利用者に渡す、延長事業において最寄のバス停と停車時間を記した用紙を一時的に紛失するなど不適切な取り扱いが発生している。是正処置を定め、確実に実行することで再発を防止した。

アミ職員が兼務するレスパイト及び延長事業における緊急時の連絡手順を整えるとともに、災害発生を想定した一斉送信メールを活用した連絡訓練を実施した。

C 人材育成

C 1 職員の資質向上

研修対象職員 28 名中、27 名が外部研修または他事業所の見学等に参加（1 名は研修当日体調不良による不参加）した。また、全職員を対象に「障害者虐待防止法の理解と対応」（厚生労働省版）の読み合わせと、虐待防止に関するセルフチェックを行うと同時に、管理者も体制整備に関するチェックを行い虐待発生の防止に努めた。

2 運営管理

本年度の職員配置・研修の参加状況は、次のとおりである。

職員配置状況（平成 31 年 3 月 31 日現在 単位：人）

職種区分 配置区分	施設長	支援員			看護師	栄養士	計	備 考
		サビ管	主任	支援員				
正規職員	1	1	1	28	1	(1)	32(1)	栄養士はセンター共通
非常勤職員	0	0	0	1	0	0	0	
計	1	1	1	29	1	(1)	33(1)	

職員研修の状況

	研修名	参加職種	主催	人員	実施月
内 部 研 修	職員研修（新人研修）	支援員	法人	4 名	4 月
	介護伝達研修（1 週間）	支援員	工房アミ	25 名	4 月
	プール研修	支援員	工房アミ	9 名	5 月
	ハラスメント研修	全職員	教育委員会	22 名	6 月
	接遇研修	全職員	教育委員会	23 名	6 月
	摂食研修	支援員	工房アミ	10 名	8 月
	センター内入浴研修	支援員	入浴	9 名	10 月
	法人内施設交換研修	支援員	法人内施設	1 名	11 月
	法人中堅職員研修	支援員、看護師	教育委員会	4 名	11 月
	ノロウィルス研修	全職員	衛生委員会	29 名	11 月
	総合防災訓練	全職員	安全委員会	25 名	11 月
	個人情報保護について	全職員	港区	29 名	12 月
	防犯訓練	全職員	安全委員会	23 名	2 月
	法人役職者研修	主任	教育委員会	3 名	2 月
	新人職員フォローアップ研修	支援員	教育委員会	4 名	2 月
	法人リーダー層研修	支援員	教育委員会	1 名	3 月
	トランス研修	支援員	工房アミ	新規職員	随時
	虐待研修	全職員	工房アミ	29 名	8 月
外	発達障害の理解と支援	支援員		1 名	6 月

部 研 修	重症心身障害児・者を守る会全国大会	主任	重症心身障害児・者を守る会	1名	6月
	たん吸引3号	支援員、主任		3名	6月
	強度行動障害アドバンス研修	支援員	東京都社会福祉協議会 知的発達部会	1名	6～12月
	他事業者施設見学	支援員、主任	外部施設	9名	7月
	ビジネス講座研修(3回)	主任		1名	7、8月
	ボランティア受け入れについて研修	主任	東京ボランティア・市民活動センター	1名	7月
	強度行動障害支援者養成研修	支援員	東京都社会福祉協議会 知的発達部会	1名	7月
	障害差別解消法	支援員		2名	7月
	虐待リスクマネジメント	主任		1名	8月
	障害者アート	支援員		1名	9月
	介護福祉士実習指導者	支援員		2名	9月
	アンガーマネジメント	支援員		1名	9月
	スーパービジョン研修	支援員	東京都心身障害者福祉センター	1名	9月
	防災訓練研修	支援員		1名	9月
	施設のものづくり	支援員		2名	10月
	強度行動障害基礎研修(2回)	支援員	東京都社会福祉協議会 知的発達部会	1名	10月
	AED講習	支援員	東京消防庁	2名	10月
	チームリーダー研修(2回)	支援員	東京都心身障害者福祉センター	1名	10月
	労基法等に関する基礎研修	主任		1名	11月
	児童発達支援管理責任者研修	主任	東京都心身障害者福祉センター	1名	11月
	重症心身障害者の地域生活と通所施設職員の役割	支援員		1名	11月
	コロメソッド	支援員、主任	外部施設	3名	11, 12月
	強度行動障害支援者養成研修	支援員	東京都社会福祉協議会 知的発達部会	1名	11月
	施設見学	支援員	外部施設	2名	12月
	施設見学	支援員	外部施設	5名	12月
	相談基礎研修(2回)	支援員	東京都心身障害者福祉センター	5名	1月
	相談支援専門員(4回)	支援員	東京都心身障害者福祉センター	2名	1月
	サービス管理責任者研修(3回)	支援員	東京都心身障害者福祉センター	1名	2月

	地域における医療的ケア	支援員		4名	2月
	感情コントロール	支援員		1名	2月
	災害福祉広域支援ネット	支援員	東京都社会福祉協議会	1名	3月

3 利用者支援

(1) 活動

今年度は日々の活動において項目（運動、手芸、紙すきなど）は変更せず、それぞれの活動において内容の充実を目標に実施した。運動では外出の機会を増やし、手芸では作業工程を細分化し、全利用者がそれぞれ作業可能な工程に携わる形でハーバリウムを作り、秋の行事で販売した。また、行事では、利用者の障害の状態による小グループ編成で外出（テレビ局ロビー見学、喫茶利用等）を実施している。グループを分けることで、移動手段やペース、行動範囲など障害の特性に配慮して行動できた。

(2) 個別支援

年度後期に長期入院を伴う利用者の体調変化が続いた。退院後、在宅酸素吸入開始、食事形態の変更などアミでの支援内容にも影響が生じている。今後このような個別に医療的な処置や配慮を必要とする利用者が増えることが想定されるため、利用者個別に保護者、主治医との連携を強化していくとともに、事業所全体としても、関連資格取得や研修受講などによる職員のスキルアップ、令和2年度に計画されているセンター2階移転に向けて必要なハード面の整備を区と協議していく。

(3) 施設行事実施状況

平成30年度に実施した主な行事は次のとおりである。

行事名	実施日	参加人数	実施場所
開始式	4月2日	43名	センター
帰宅行動トレーニング	5月～6月	14名	センター～自宅
グループ外出	5月	47名	テレビ朝日、日本テレビ
	11月	47名	Kitte、カレッタ汐留
1日外出	アミ1: 6月8日	13名	TEPIA 先端技術科学館
	アミ2: 6月5日	12名	
	アミ3: 6月19日	10名	
	アミ4: 6月12日	9名	
運動会	6月29日	45名	センター
縁日	8月24日	42名	センター
宿泊訓練（アミ1・4）	9月13日～14日	24名	鴨川シーワールドなど
みなと区民まつり	10月6日	※ 0名	増上寺、芝公園一帯
ヒューマンぷらざまつり	10月28日	41名	センター
宿泊訓練（アミ2・3）	11月15日～16日	23名	鴨川シーワールドなど
大規模震災訓練	12月7日	37名	センター（工房アミ）
障害者週間記念事業	12月1日	※ 0名	男女共同参画センターホール
クリスマス会	12月21日	41名	センター
成人を祝う会	1月11日	44名	センター

1 日外出	ア1: 2月2日	10名	スカイツリー
	ア2: 2月1日	12名	
	ア3: 2月6日	8名	
	ア4: 1月30日	8名	
1 日外出	ア1: 3月6日	12名	浜松町コロック倶楽部 (カラオケ)
	ア2: 3月27日	11名	
	ア3: 3月15日	8名	
	ア4: 3月22日	10名	

※職員のみ参加

4 健康管理

事業計画に基づき、次のとおり健康管理を実施した。

(1) 健康診断（年1回）

5月に港センター6階多目的体育室と7階会議室にて利用者全員を対象に定期健康診断を実施した。

(2) 歯科検診（年2回）

全利用者を対象に6月と2月に実施した。

(3) 体重測定（週1回または月1回）

毎月体重測定を行い、健康状態の把握、運動の目安とした。家族から週1回の測定を希望された方、必要性の高い方については週1回の測定を継続。

(4) 血圧測定（年2回）・検尿（年1回）

血圧測定と検尿（蛋白、糖、潜血検査）を全員に実施した。

(5) 内科・眼科・耳鼻科・整形外科・精神科検診

利用者の健康状態を定期的に観察するために、センター専門医相談の医師による検診を実施した。

(6) 内服薬の管理

利用中の服薬管理を行い、薬の飲み忘れや誤薬などが生じないようにした。また、災害時に備え3日分の薬を工房アミで保管し、1年毎（薬の内容によって2～3ヶ月毎）の交換を行った。

(7) 医療処置・応急処置

点眼、点鼻、軟膏塗布、傷の処置など日々対応を必要とする利用者への処置を実施した。また外傷の確認や手当、体調不良者の対応等を随時実施した。

(8) 家族・医療機関との連携

利用者の日頃の健康状態を把握し、家族との情報共有を行った。体調不良や怪我が生じた際は速やかに家族へ連絡・報告を行い、必要に応じて医療機関への受診対応を行った。また、家族からの健康相談に応じ、専門医相談の医師及び医療機関との連携に努めた。

(9) 感染予防対策

ノロウィルスの感染流行時期に合わせて（11月）、職員への嘔吐物など汚物処理方法の勉強会を実施した。特に冬季のインフルエンザ流行時は、手指消毒、換気、共有部分の消毒、湿度管理、マスクの着用などを行い感染防止に努めた。

専門医相談による健診

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	延数
健康診断	—	42	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	42
内科(検診)	24	19	24	19	24	18	21	18	25	10	32	19	253
歯科	—	—	43	—	—	—	—	—	—	—	40	—	83
眼科	8	12	10	13	9	13	8	12	9	11	7	11	123
耳鼻科	8	13	10	13	11	13	10	12	11		11	11	123
整形外科	3	5	3	8	6	5	3	4	3	5	2	4	51
精神科	4	3	4	4	4	4	5	3	4	5	3	2	45

5 実習生の受入れ

実習	実習期間	人数	備考
港特別支援学校 3 年	6 月 11 日～15 日	1 名	利用者実習
	6 月 25 日～29 日	1 名	
	7 月 2 日～ 6 日	1 名	
	10 月 15 日～19 日	1 名	
	10 月 22 日～24 日	1 名	
港特別支援学校 2 年	9 月 25 日	1 名	
利用希望者	1 月 9 日・16 日・30 日	1 名	
	2 月 1 日・13 日・22 日・27 日		
国家公務員	6 月 25 日～29 日	4 名	初任者研修
明治大学	8 月 20 日～24 日	4 名	介護等体験
東洋大学	10 月 1 日～ 5 日	3 名	
	10 月 22 日～29 日	1 名	
上智社会福祉専門学校	8 月 23 日～31 日	3 名	
	9 月 3 日～ 7 日	1 名	
東京福祉大学	11 月 28 日	2 名	
読売理工医療福祉専門学校	11 月 15 日～22 日	1 名	

6 平成30年度事業計画の実施状況

区分 事項	概 要	実施予定 日・回数	参加人員（見込）		備 考
			利用者	職員	
(1) 運営管理 ① 会 議	職員会議 業務調整会議 ケース会議 ケース検討会議 活動会議 摂食指導カンファレンス 利用決定会議	月1回 月1回 年2回 年2回 年2回 年6回 随 時		全 員 担当者 サビ管、担当者 クラス職員 担当者 担当者 センター長、施設長、サビ管、看護師	毎月実施 毎月実施 1回実施 1回実施 1回実施 3回実施 1回実施
② 職員研修	ア 内部研修 各種勉強会・伝達研修 イ 法人研修 基礎講座 フォローアップ講座 リーダーシップ研修 ウ 外部研修 摂食指導講習会 施設見学・実習 その他研修	年6回 4月 10月 2月 1回 随 時 随 時		全 員 新人職員 基礎講座受講者 中堅職員 関係職員	介助伝達・プール研修・活動伝達 1回実施 はつらつ太陽 特別支援学校見学 東社協ほか
③ 健康 管理	ア 定期健康検診 イ 生活習慣病検診 ウ インフルエンザ予防接種 エ 腸内細菌検査 オ ストレスチェック	年1回 年1回 年1回 毎 月 年1回		全 員 指定者 全 員 全 員 全 員	8月～9月
(2)利用者支援 ① 支援方 針 ② 健康管 理	ア 個別支援計画書作成 イ 個別面接 ウ 家族連絡会 エ 定期健康検診 オ 歯科検診 カ 専門医検診 キ 健康指導(専門医相談) ク ヴァイタルチェック ケ 体重測定	年2回 年2回 年5回 年1回 年2回 毎 月 随 時 毎 日 毎 月	全 員 全 員 保護者 全 員 全 員 全 員 全 員 全 員 全 員	サビ管管理責任者 サビ管、担当者 施設長・主任	

事項	区分	概 要	実施予定 日・回数	参加人員（見込）		備 考
				利用者	職員	
③ 行事活動		みなと区民まつり ヒューマンぷらざまつり 障害者週間記念事業式典 宿泊訓練 一日外出 ミュージックセラピー プール 調 理 アート 芸 術 季節行事	10 月 10 月 12 月 1 回 年 3 回 7 回／年 8 回／年 毎 月 毎 月 6 回 随 時	全 員 全 員 全 員 全 員 全 員 全 員 3 クラス 全 員 全 員	全 員 全 員 対象者 全 員 クラス職員 クラス職員 クラス職員 クラス職員 クラス職員 クラス職員 全 員	
(3) 防災対策		ア センター合同防災訓練 イ センター防災訓練 ウ 工房アミ震災訓練 エ 安全委員会 オ 安全 4S 点検	年 1 回 毎 月 年 1 回 毎 月 毎 月	全 員 全 員 全 員	全 員 全 員 全 員 委 員 全 員	
(4) その他						
① 実習受入		ア 利用希望者、特別支援学校生 イ 大学、専門学校等からの実習	随 時 随 時		担当者 担当者	港特別支援学校、 光明特別支援学校 国家公務員、上智 社会福祉専門学 校・介護等研修
② 見学者受入 ③ ボランティア受入		地域、学校、他施設等 地域ボランティア、港区社協他			施設長、主任 "	学校、他施設 随時受入れ
④ 外部評価		ア 東京都第三者評価 イ ISO9001 サーベランス	随 時 随 時			非該当年 非該当
⑤ 環境整備		ア 施設内環境整備 イ 床清掃 ウ 布団乾燥・消毒 エ 害虫駆除	隔 年 年 1 回 毎 月 年 1 回 年 1 回 随 時		全 員 全 員 全 員 業 者 業 者 業 者	毎月実施 未実施 未実施 未実施

工房アミ資料

(別表)

1 利用者の状況

(1) 性別・年齢別状況

(平成31年3月31日現在)

種 別 年 齢 層	性別		障害別			障害等級							車 椅子 利用 者
	男	女	知的 障害	身体 障害	(重複 障害)	愛の手帳			身体障害者手帳				
						1・ 2 度	3・ 4 度	手 帳 なし	1・ 2 級	3・ 4 級	5・ 6 級	手 帳 なし	
18～20 才	1	1	2	1	1	2				1		1	0
21～30	13	7	20	14	14	20			9	4	1	6	7
31～40	3	12	15	12	12	14	1		7	4	1	3	7
41～50	5	3	8	5	5	8			5			3	3
51 以上	1	1	2	1	1	2			1			1	1
計	23	24	47	33	33	46	1		22	9	2	14	18
	47		47			47			47				

利用者平均年齢 32.9歳

(2) 障害支援区分

	区分6	区分5	区分4	区分3	計
男	13	4	5	1	23
女	15	8	1	0	24
計	28	12	6	1	47

平均障害支援区分：5.4 (平成31年3月31日現在)

(3) 月別利用状況及び利用率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
定員	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
利用者数	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47
充足率 (%)	115	115	115	115	115	115	112.5	112.5	112.5	112.5	112.5	112.5	113.8
一日あたり の平均利用 者数 (人)	45.6	45.6	45.4	46	45.4	41.6	44.7	44.1	44.7	43.8	45	42.4	44.5
一日あたり の利用率 (%) (※)	114	114	113.5	115	113.5	104	111.8	110.3	111.8	109.5	112.5	106	111.3

※ 出席率は、利用者数に対する割合

(4) 入所及び退所の状況

入所：平成30年4月2日 2名 (特別支援学校卒業生)

10－（５）みなとワークアクティ

1 平成30年度「重点計画事項」の実施状況

新規利用者獲得については目標値を達成することができなかったが、その他の項目については概ね達成することができた。しかし、継続的に実施しなければいけない項目もあるため、来年度も実施することとした。

2 重点事項

方針管理書（計画・目標）の実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重点施策	担当	目標値に対する結果
B 品質	1	（新規事業） 延長事業の実施	全職員	みなとワークアクティ延長事業利用者3名 延べ利用回数81回
	2	危機管理体制の強化	全職員	緊急時対応訓練 5・7月実施 通所時行方不明者対応訓練 6・12月実施 ミサイル発射時対応訓練 8・3月実施
	3	利用者数維持、新規利用者獲得	施設長	新規利用者4名獲得
	4	利用者のニーズ（特性）に合う生産活動の提供	全職員	受注事業新規取引先4社獲得
	5	個別支援の強化	全職員	視覚的構造化の実施
C 人材 育成	1	職員の専門性向上及び 情報収集	全職員	工房アミとの延長事業共同実施 工房アミ宿泊訓練への参加 重度利用者に対する支援強化実施
	2	虐待防止に対する取組み	全職員	マナー講習受講 虐待防止セルフチェックの実施

《実施状況の評価》

B 品質

B1 （新規事業）延長事業の実施

港区障害者計画（平成30年度～平成32年度）に基づき、日中活動を終えた方を対象に、利用者とその家族を支援するために安全で安心して過ごすことができる居場所として、工房アミ（生活介護施設）と連携し延長事業を実施した。サービスを利用したみなとワークアクティの利用者は3名と少なかったが、述べ回数は81回で、1人の最高利用は55回であった。

B2 危機管理体制の強化

昨年度作成したマニュアルを基に、緊急時対応訓練、通所時行方不明者対応訓練、ミサイル発射時対応訓練をそれぞれ2回実施した。職員の緊急時における新たな気付きやスキルアップにつなげることができた。

B3 利用者数維持、新規利用者獲得

職員数に対して利用者数が少なかったことから新規利用者獲得5名を目標に掲げたが、結果として4名の新規利用者獲得にとどまった。利用者が港区在住者に限定されていることや、就労継続支援B型事業を希望している人が少ない中での獲得は困難であったが、引き続き新規利用者獲得を継続していく。なお、4名の新規利用者獲得により職員数に対する比率の問題は解消することができた。

B4 利用者のニーズ（特性）に合う生産活動の提供

利用者にあった作業を提供できるよう、新たに4社と取り引きを開始することができた。情緒が安定しない方、集団での活動が苦手な方等、それぞれ利用者の状況の違いに対応した支援と作業提供が可能となった。

B 5 個別支援の強化

自閉症の方の言語理解や、コミュニケーションが苦手な方にとって分かりやすい明確な支援をするため構造化に取り組んだ。写真による資材の持出し禁止の掲示や、自分がどの席で具体的に何の作業をするかをホワイトボードに表示する視覚的構造化を進めた。まだ十分な対応ができていないため、次年度も引き続き構造化を進めていく。

C 人材育成

C 1 職員の専門性向上及び情報収集

工房アミとの延長事業共同実施や宿泊訓練への参加で、直接支援をする段階には至っていないが、重度利用者に対する支援方法を学ぶ機会となった。

C 2 虐待防止に対する取り組み

6月25日にマナー講習会を受講した。また、虐待防止のため、虐待事例などを施設内に掲示することで啓発を実施した。今年度実施した虐待防止セルフチェック結果をまとめ、次年度対策を実施する。

3 運営管理

平成30年度の職員配置及び研修状況は、次のとおりである。

(1) 職員配置状況 (平成31年3月31日現在、単位：人)

職種区分 \ 配置区分	常勤職員	計	備 考
施 設 長	1	1	
サービス管理責任者	1	1	
職業指導員	1	1	
生活支援員	4	4	
栄養士	0.25	0.25	センター兼任
計	7.25	7.25	

(2) 職員研修の状況

今年度は職員の欠員状態が続いたため、十分に外部研修に参加することができなかった。

	研 修 名	参加者	主 催	人員	実施月
内 部 研 修	接遇研修	全職員	センター教育委員会	7	6
	新人職員研修	新人職員	法人教育委員会	1	6
	ノロウイルス対策講習会	全職員	衛生委員会	5	11
	個人情報及び情報セキュリティ研修	全職員	施設長会	5	12
	管理職研修	施設長	法人教育委員会	1	1
	役職者研修	主任	法人教育委員会	1	2

外部研修	食品衛生責任者養成講習会	生活支援員	社)東京都食品衛生協会	1	4
	「新しい事例検討のあり方を学ぶ」～P CAG I P (ピカジップ) を体験する～	サービス管理責任者	福) 東京都社会福祉協議会	1	6
外部研修	第 55 回 重症心身障害児(者)を守る会 全国大会 第 2 分科会「これからの入所 支援の在り方」	施設長	福) 全国重症心身障害児(者) を 守る会	1	6
	平成 30 年度 東社協知的発達障害部会 三年目職員研修	生活支援員	東社協	1	9
	GAP入門とHACCP導入のための食 品衛生管理セミナー	生活支援員	全国社会福祉協議会	1	12
	平成 30 年度 第 2 回 東京都相談支 援従事者初任者研修	サービス管理責任者	東京都心身障害者福祉センタ ー	1	1

4 利用者サービス

(1) 行事の実施状況

本年度における主要行事の実施状況は、次のとおりである。

実施月	実施日	行 事 名	実 施 場 所	参 加 者 (人)					
				利用 者	職 員	区	ボ ラ	保 護 者	計
4 月	2	開始式	竹芝小ホール	27	9	3		13	52
	2	保護者連絡会	会議室		4			12	16
	19	調理実習ABグループ	調理室	10	2				12
	27	自治活動 (電車やバスの乗車マナ ー講座)	ワークルーム	23	7				30
5 月	25	バス外出	カップヌードルミ ュージウム	26	9		3		38
6 月	4	保護者連絡会	会議室		4	3		12	19
	21	調理実習CDグループ	調理室	13	3				16
	29	自治活動 (ビデオ鑑賞)	ワークルーム	21	5				26
7 月	5-6	宿泊訓練	箱根 方面	26	9				35
	19	調理実習ABグループ	調理室	11	2				13
8 月	16	調理実習CDグループ	調理室	10	3				13
	31	自治活動 (ワックスサンシェ作り)	ワークルーム	22	6		3		31
9 月	3	保護者連絡会	会議室		4	2		11	17
10 月	7	みなと区民まつり (8 日は台風のため中止)	芝公園周辺	19	7		3		29
	28	ヒューマンぷらざまつり	センター	23	5		17		45
11 月	2	バス外出	江戸東京博物館	23	8		1		32
	5	給食試食会・保護者連絡会	給食室・会議室		4	2		11	17
	30	自治活動 (工房アミ交流、ポッチ ャ大会・クリスマスツリー作り)	1 階工房アミ ワークルーム	22	5				27
12 月	1	障害者週間記念事業式典	みなとパーク芝浦 リーブラホール	14	7				21
	28	忘年会	ワークルーム	25	5				30
1 月	4	新成人を祝う会	竹芝小ホール	22	7	3		6	38

1 月	4	新年会	ワークルーム	23	5				28
	15	保護者連絡会	会議室		3	3		7	13
1 月	25	自治活動（アンジェリカ保育園交流、歌と演劇発表会の鑑賞・卒園式飾りつけ作り）	アンジェリカ保育園芝浦園ワークルーム	20	5				25
2 月	8	バス外出	日本科学未来館	23	8		2		33
	21	調理実習ABグループ	調理室	11	3				14
3 月	4	保護者連絡会	会議室		3	3		12	18
	7	調理実習CDグループ	調理室	12	3				15
	29	自治活動（さくら餅作りと桜の木の下で記念撮影）	ワークルームセンター前広場	22	7				29

（２）レクリエーション活動

生産活動中心の事業のため、体を動かす機会としてエアロビクスを月２回実施した。本年度におけるエアロビクスの実施状況は次のとおりである。

（単位：人）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1 回目	18	16	16	17	15	15	14	15	18	17	19	12	192
2 回目	17	17	17	17	17	16	15	14	19	15	16	14	194
合 計	35	33	33	34	32	31	29	29	37	32	35	26	386

（３）ボランティアの受入

今年度のボランティアの受入状況は、次のとおりである。

内 容	延数(回)	実施月日	延人数(人)
みなと区民まつり	1	10/7	3
ヒューマンふらざまつり	1	10/29	17
作業補助	随時	—	148

（４）就労支援事業の状況

① 生産活動

（単位 円）

事業名	目 標	30 年度実績	29 年度実績	目標達成率	対前年比
製菓事業	5,500,000	6,192,800	5,897,214	113%	105%
受注事業	1,406,079	2,090,933	1,910,382	149%	109%
公園清掃	2,093,921	2,107,601	2,093,914	101%	101%
販売活動	500,000	645,941	666,520	129%	97%
合 計	9,500,000	11,037,275	10,568,030	116%	104%

② 工賃

（単位 円）

工賃支給額	30 年度	29 年度	前年度比 (%)
平均工賃	21,714	22,461	97%
平均工賃最高額(個人別)	43,524	41,179	106%
平均工賃最低額(個人別)	1,355	2,106	64%

③ 生産活動種目（平成 31 年 3 月 31 日現在）

生産活動種目	生産活動の内容
製菓事業	マドレーヌ・オートミールクッキー・チョコチップクッキー・スノーボール・抹茶ボール・いちごボール・きなこボール・ココアボール・紅茶ボール・キャラメルボール・れもんボール・スコーン・アーモンドケーキ・マドレーヌラスク・シフォンラスク・シフォンケーキ・ギフト
受注事業	電線剥離・封入・シール貼り・点字加工・冊子印刷丁合製本・箸セット・飲料水等販売
販売活動事業	被災地施設商品・全国障害者施設商品
公園清掃	港区立本芝公園

5 健康管理

事業計画に基づき、次のとおり健康管理を実施した。

(1) 健康診断（年 1 回）

7 月に芝検診センターによる定期健康診断を障害保健福祉センター内で実施した。

(2) 歯科検診（年 2 回）

定期的に歯科通院をしている利用者が多いことから、6 月と 12 月に希望者を対象に歯科検診を実施した。

(3) 体重・血圧測定（毎月）

肥満や高齢化に伴う高血圧症状の利用者が多いため、看護師による体重・血圧測定を毎月実施し、利用者の健康管理に努めた。

(4) 内科・眼科・耳鼻科専門医相談検診

センター内の専門医相談のサービスを利用して希望者を対象に実施した。

(5) 検便（毎月）

製菓作業に携わる利用者とボランティアを対象に毎月腸内細菌検査を実施した。陽性反応の結果は出なかった。

（単位：人）

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	延数
健康診断				26									26
歯科検診			16						12				28
体重・血圧測定	26	25	25	23	19	22	19	20	24	23	25	29	280
内科健診							6	3	5	6			20
眼科検診		7		8	5	3							23
耳鼻科検診		6	7	7	3		3	6	7	5			44

6 平成30年度事業計画の実施状況

区分 事項	概 要	計 画 日・回数	実施結果（日・回 数・参加人員）	備 考
(1) 運営管理				
① 会議	・施設業務調整会議 ・職員会議 ・ミーティング ・施設長会議	毎月第2水曜日 毎月第4水曜日 毎日 毎月	月1回実施 月1回実施 月1回実施 月2回実施	施設長・主任・サポ 全員 始業時・利用者降所後 トップマネジメント
② 地域連携	・三者連絡協議会 ・就労支援ネットワーク会議 ・東社協知的部会 ・セルフ協 ・共同受注会議	年1～2回 年3回 随時 随時 年3回	年1回実施 年3回実施 随時開催 随時受講 年3回実施	法人・各団体代表・区 自立支援協議会就労部会 就労関係事業所 職員研修状況参照
③ 職員研修	・外部研修 ・センター各委員会等 ・法人内部研修 ・健康診断	随時 随時 年2回 年1回	随時開催 随時受講 年2回実施 8～9月実施	委員会 センター教育委員会主催 全員実施
④ 健康管理	・検便 ・予防接種	毎月 年1回	毎月実施 12月実施	全員実施 インフルエンザ
(2) 利用者支援				
① 支援方針	・個別支援計画の策定/ 評価/修正 ・個人面談	通年 通年	通年実施 定期・随時実施	モニタリング 定期9・1月・他随時 3月実施
② 保護者との 連携	・保護者連絡会 ・給食試食会 ・利用者懇談会	年6回 年1回 年1回	年6回実施 年1回実施 年1回実施	4・6・9・11・1・3月実施 11月実施 1月実施
③ ニーズ把握	・利用者調査	年1回	年1回実施	10～11月、センター全体
④ 生産活動支 援	・生産活動	毎日	通年実施	受注・製菓・公園清掃・販売 活動
⑤ 就労支援	・工賃評定 ・インターンシップ	年2回 募集時	全員 希望者	10・4月実施 該当者なし
⑥ 生活支援	・調理実習 ・レクリエーション活動	年6回 月2回	該当者 月2回実施	2グループずつ エアロビクス
⑦ 健康管理	・健康診断 ・歯科検診 ・体重・血圧測定 ・内科検診 ・眼科検診 ・検便	年1回 年2回 毎月 年4回 年4回 毎月	年1回実施 年2回実施 毎月実施 年4回実施 年4回実施 毎月実施	7月実施 6・12月実施 第2・3・4金曜日実施 10・11・12・1月実施 5・7・8・9月実施 製菓作業従事者
⑧ 行事	・宿泊訓練	年1回	年1回実施	7月実施(箱根)

区分 事項	概 要	計 画 日・回数	実施結果（日・回 数・参加人員）	備 考
⑧ 行事	・バス外出 ・開始式 ・新年会 ・忘年会 ・ヒューマンぷらざまつり ・区民まつり	年3回 年1回 年1回 年1回 年1回 年1回	年3回実施 年1回実施 年1回実施 年1回実施 年1回実施 年1回実施	5・11・2月実施 4月実施 1月実施 12月実施 10月実施 10月実施
⑨ 利用相談	・実習受入 ・利用希望者	随時 随時	1名 8名	9月実施 4・7・9・10・1・2月実施
(3)その他				
① 環境衛生	・日常清掃 ・大掃除 ・床清掃 ・害虫点検 ・カーペット清掃 ・布団クリーニング	毎日 年1回 年1回 月1回 年1回 年1回	通年実施 年1回 3月実施 毎月実施 3月実施 〃	始業時 12月 大規模清掃実施 (消毒は随時) 大規模清掃実施 〃
② ボランティア等	・ボランティア受入 ・学生実習受入	随時 随時	随時受入 〃	介護等体験実習8名
③ 防災	・避難訓練	年12回	年12回実施	センター安全委員会主催
④ 広報誌	・「ヒューマンぷらざ」発行 ・「みなとニュース」発行	年4回 隔月	年4回発行 年6回発行	センター広報委員会発行 奇数月発行

(別表)

みなとワークアクティ資料

1 利用者状況

昨年度末の利用者は27名であったが、今年度初日に3名の利用者を受け入れ、30名でスタートした。しかし、8月に1名が他施設に異動することになり29名となったが、11月に他施設より1名を受け入れたことにより、今年度は30名で終わることができた。

今年度より、ワークルームの一部が生活介護事業所のスペースとなり、作業スペースが狭くなったため、定員の40名を受け入れるのは困難であるが、今後も新規利用者獲得を進めて行く。

(平成31年3月31日現在)

(単位：人)

種 別 年 齢 層	性 別		障 害 別				障 害 等 級											車 椅子 使用者
	男	女	知的 障害	身体 障害	精神 障害	(重複 障害)	愛の手帳			身体障害者手帳				精神障害者 保健福祉手帳				
							1・ 2 度	3・ 4 度	手 帳 なし	1・ 2 級	3・ 4 級	5・ 6 級	手 帳 なし	1 級	2 級	3 級	手 帳 なし	
18～20 歳	0	3	2	0	1	0	0	2	1	0	0	0	3	0	1	0	2	0
21～30 歳	4	3	7	1	0	1	1	6	0	0	0	1	6	0	0	0	7	0
31～40 歳	3	4	6	1	0	0	3	3	1	1	0	0	6	0	0	0	7	1
41～50 歳	4	2	6	0	1	1	1	5	0	0	0	0	6	0	0	1	5	0
51～60 歳	2	2	4	0	1	1	0	4	0	0	0	0	4	0	1	0	3	0
61 歳以上	3	0	3	1	0	1	1	2	0	0	0	1	2	0	0	0	3	0
計	16	14	28	3	3	4	6	22	2	1	0	2	27	0	2	1	27	1
	30						30			30								

(参考)

(単位：歳)

区分	平均年齢	最低年齢	最高年齢	全体平均年齢
男	43.6	21	68	39.6
女	35.0	19	58	

2 月別（毎月末）利用状況

(単位：人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用定員	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	480
利用者数	30	30	30	30	30	29	29	30	30	30	30	30	358
充足率%	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	72.5	72.5	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	74.6

3 入退所の理由状況

(1) 利用前状況

(単位：人)

区分	学校	転居	他施設	居宅	その他	計
通所者	男	0	0	0	1	1
	女	2	0	1	0	3
	計	2	0	1	1	4

(2) 退所理由

(単位：人)

区 分		就職	他施設	結婚	その他	計
通所者	男	0	1	0	0	1
	女	0	0	0	0	0

10－（６）障害者レスパイト事業等

1 重点事項

方針管理書（計画・目標）の実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重 点 施 策	担 当	目標値に対する結果
A 経 営 財 務	1	利用実績の向上 ① 職員体制の整備 ② 業務の効率化 ③ 適正な受入れ判断の検討	全職員	目標 1600 件以上に対し、利用実績（年間）1581 件のため、目標未達成。
B 品 質	1	危機管理体制の見直し	主任	危機管理体制のレビュー、事故を防ぐ（0 件）虐待研修の参加、内部勉強会実施した。 → 危機管理体制が有効に機能しており、事故 0 件。外部研修 6 件、勉強会 3 回、内部研修 1 階実施した。目標達成。
	2	安全・安心な支援提供 ① 内部コミュニケーションの充実 ② 積極的な情報発信 ③ 明るい雰囲気づくり	主任 全職員	① 12 回会議実施 → 予定通り実施した。目標達成。 ② 広報誌発刊・年 1 回懇談会実施 → 実施した。目標達成。 ③ 毎月の振り返り、年 4 回飾り付け → 実施した。目標達成。
	3	顧客ニーズの把握と反映 ① 利用者意向調査 ② 第 3 者評価 ③ 家族懇談会	主任	①②③の結果、顧客ニーズを反映した継続的改善を実施 ①の結果、満足度 70%以上 → 平均 78.9% 目標達成。
	4	品質マネジメントシステム継続的改善 ① 内部監査の実施 ② 外部審査の受審	主任	内部監査による継続的改善 ISO9001 : 2015 認証継続 → 認証継続。目標達成。
C 人 材 育 成	1	職員の資質向上	主任 教育 委員	職員全員研修に参加。他施設の見学等実施。 → 外部研修 11 種類。他施設見学 2 施設。 目標達成。

《実施状況の評価》

A 経営財務

A1 利用実績の向上

＜実施状況＞

- ① 職員体制の整備 職員配置を整え、遅番を配置した。
- ② 業務効率化 老朽化した備品の入替え、業務手順の見直しと標準化、書類の統廃合等を実施した。
- ③ 受入れ判断検討 受入れ基準を検討する担当係を設置し、実績を毎月モニタリングした。

<評 価>

目標 1600 件に対して 1581 件だったため、残念ながら目標未達成だった。しかしながら、昨年と比較すると 83 件増加しており、目標に迫る実績を確保することができた。また、取り組みにより、事業所の体系化が進みチームワークと機能が向上した。引き続き目標を持って積極的なご案内を目指していく。また、数（稼働率）だけにとらわれず、地域の社会資源として、重度の方・課題の多い方・緊急性の高い方の受入れを行うことが社会的役割であるため、適正な目標値を継続的に検討する。

B 品質

B 1 危機管理の見直し

<評 価>

緊急時の連絡訓練を毎月継続して実施した。現在は、有事にすぐ応援手配できる状況が整っており、危機管理体制は強化されている。また、幸いにも救急隊要請が必要な事故等も起きていない。

虐待防止・権利擁護については、外部研修に参加を行い、内部でも勉強会を 3 回実施し、知識・意識ともに向上した。

B 2 安全・安心な支援提供

<実施状況>

① 内部コミュニケーションの充実

会議を 12 回実施した。その他にもミーティングを実施し、職員間での情報共有を強化した。

② 積極的な情報発信

掲示板を活用し、イベントや普段の支援を発信した。さらに家族懇談会も実施した。

③ 明るい雰囲気づくり

職員：サービスマナー・権利擁護に関する現場での気づきを毎月検討した。(114 件)

外観：エントランス・壁・談話室の飾り付けを毎月実施した。

<評 価>

計画の実施により、以前よりも安全・安心な支援提供ができている。今後も継続的改善を行い、安全・安心な支援を確実なものにする。

B 3 顧客ニーズの把握と反映

<意向調査>

① 安全を最優先とし、利用中の様子をご家族にきちんとお伝えできるようにしていきます。

② 安心してご利用いただけるように、情報公開や明るい雰囲気づくりを継続し、風通しの良い施設を目指していきます。

③ 2 床の増設をいたしましたので、これまでよりも多くの方が利用できるように、積極的にご案内していきます。利用可能日数については、事業所の一存できめかねることなので、区とも相談し、皆様がご利用しやすいように努めていきます。

<評 価>

平成 29 年度の意向調査の結果を踏まえて、事業計画を立案し実施した。利用可能日数については、法内化への事業移行があるため、令和 2 年度から仕組み自体が変わる見込み。平成 30 年度の意向調査では、「満足」「どちらかといえば満足」の割合が平均で 78.9%と

目標を上回る高い評価を得た。次年度も意向調査の結果を踏まえて事業計画を実行する。

B 4 品質マネジメントシステム継続的改善

<実施状況>

- ① 外部審査 不適合なし。
- ② 法人内での内部監査 不適合なし。観察事項あり。

<評 価>

法人内内部監査の中で、職員の教育・訓練について観察事項があがったため、次年度にシステムの改善を予定する。品質マネジメントシステムは継続的改善が行われている。

C 人材育成

C 1 職員の資質向上

<実施状況>

- ① ベンチマーキング 高齢者デイサービス・区内障害者施設 2 施設
- ② 法人内研修 階層別研修 8 名 事例研究発表研修 2 名 ISO 内分監査員研修に 2 名
- ③ 内部研修 虐待内部研修 1 件 勉強会 4 回
- ③ 外部研修 11 種類 (述べ 16 名参加)

<評 価>

内部研修・外部研修共に積極的な参加を行い、目標だった全員研修に参加することが達成できた。支援の知識・倫理の意識ともに大きく向上した。

2 事業計画実施状況

区分 事項	概 要	実施日 ・回数	参加人員		備 考
			利用者	職員	
(1) 運営管理 ① 会 議	・職員会議 ・業務調整会議	月 1 回 〃		全 員 〃	予定通り実施 〃
② 健康管理	・定期健康検診 ・生活習慣病検診 ・インフルエンザ [*] 予防接種 ・腸内細菌検査	年 2 回 年 1 回 年 1 回 毎 月		全 員 指定者 全 員 全 員	上期に 1 回実施 予定通り実施 〃 〃
③ 職員研修	・内部研修 各種勉強会 ・外部研修 区主催・施設見学等	随 時 随 時		全員	5 回実施 外部研修 11 回参加 見学 2 箇所実施
(2) 利用者支援 ・環境整備	・床清掃 ・害虫駆除 ・緊急呼出システム点検 ・配水管清掃 ・布団乾燥・消毒	年 1 回 随 時 月 1 回 年 1 回 年 1 回			予定通り実施 〃 〃 〃 〃
(3) 防災対策	・センター合同防災訓練 ・センター防災訓練 ・安全委員会 ・安全・4S 点検	年 1 回 毎 月 毎 月	全 員 全 員	全 員 全 員 委 員 全 員	予定通り実施 〃 〃 〃
(4) その他	・ISO9001 サーマー	年 1 回		全 員	予定通り実施

○ ショートステイ（レスパイト）

今年度の延べ利用実績は 1581 件と前年度比 83 件増加した。年齢別の利用状況は、一番増加していたのは未就学児の利用で、31 件増となった。逆に一番減少していたのは 61 歳以上の方の利用で、昨年 24 件あったが 30 年度は 0 件となった。

○ 緊急一時保護

緊急一時保護事業の実績は 158 件で、昨年度に比べ 5 件減少した。年齢別の利用状況では、41 歳～50 歳までの方の利用が 78 件と半数近くに上った。

○ 自立生活訓練

今年度、自立生活訓練（知的障害者自立生活訓練体験入所）の利用は 5 名、延べ利用日数は 140 日だった。

(別表)

障害者レスパイト事業等資料

1 月別利用状況 (延べ利用日数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ショートステイ	98	87	83	106	150	112	107	119	123	76	89	133	1283
緊急一時	10	0	24	23	5	16	7	7	19	8	24	15	158
自立体験	1	20	27	11	20	6	24	0	0	25	6	0	140
計	109	107	134	140	175	134	138	126	142	109	119	148	1581

2 年齢別利用状況 (延べ利用日数)

(利用者人数)	未 就 学 児 (7人)	学 齢 児 (34人)	18歳 ～30歳 (39人)	31歳 ～40歳 (22人)	41歳 ～50歳 (11人)	51歳 ～60歳 (3人)	61歳 ～ (3人)	計 (136人)
ショートステイ	123	298	506	280	52	24	0	1283
緊急一時	3	13	19	42	78	3	0	158
自立体験	0	0	48	92	0	0	0	140
計	126	311	573	414	130	27	0	1581

※ 年齢は平成30年4月1日の時点のもの

3 障害別利用状況 (延べ利用日数)

(利用者人数)	知的障害 (63人)	身体障害 (10人)	精神障害 (0人)	重複障害 (43人)	不 明 (0名)	計 (136人)
ショートステイ	611	100		572	0	1283
緊急一時	62	31		65	0	158
自立体験	48	0	0	92	0	140
計	721	131	0	729	0	1581

第3 公 益 事 業 施 設

1 砧地域包括支援センター

(地域包括支援センター)

1 平成30年度「重点計画事項」の実施状況

平成30年度事業計画に掲げた「重点事項」は、計画どおり実施した。特に、地域包括支援センター運営委託事業者選定に応募し、平成31から令和5年度の受託事業者として選定された。また、各テーマ毎の実施状況及び今後の課題の要点を下表に示す。

2 重点事項

方針管理書（計画・目標）の実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重 点 施 策	担 当	目標値に対する結果
A 経営 財務	1	運営委託事業者選定への 応募	全職員	平成31～令和5年度の受託事業者として選定された。
B 品質	1	世田谷区における地域包 括ケアシステムの構築に 向けた取り組み	全職員	①地区版地域ケア会議の開催 会議Aを3回、会議Bを3回開催した。 ②機関間連携に関する会議体への参画 三者連携会議 砧地区活動団体情報連絡会 砧地区民生委員児童委員協議会 砧地区町会・自治会長会議 きぬた地区社会福祉協議会 地域ケア連絡会（地域版地域ケア会議） 砧地域包括ケア連携会議 砧エリア自立支援協議会 要保護児童支援砧地域協議会 山野児童館地域懇談会 その他町会自治会開催の会議などへ参加した。 ③在宅医療・介護連携推進の取り組み 在宅療養相談窓口を設置した。 地区連携医事業を月1回実施した。 砧地域合同で「医療と福祉の連携懇談会」開催した。 在宅医療ミニ講座を開催した。 ④「きぬた三者連携実施計画」の策定と実施 まちづくりセンター、社会福祉協議会と協働で実施した。
C 人材 育成	1	人材育成	全職員	所内事例検討会1回、勉強会2回開催した。
E その他	1	首都圏直下型地震などへの 対策	全職員	①地域の防災関連の訓練や会議、イベントに参加した。 ②机上訓練を実施し、業務継続計画（BCP）を見直した。

	2	大蔵住宅への支援	全職員	①団地内転居した住民の実態把握 ②「大蔵住宅の今後をみんなで考える会」「ひまわり喫茶」の運営に協力した。
--	---	----------	-----	---

《実施状況の評価》

A 経営財務

A 1 運営委託事業者選定への応募

平成31～36年度の地域包括支援センター運営事業者のプロポーザルに応募し、引き続き運営事業者として選定された。選定委員会から「モデル事業等をはじめ、地域包括支援センターの役割を理解し課題を明確に取り組まれており評価できます。その取り組みについて、他にも向けて発信していただきたい」との意見が付された。

B 品質

B 1 世田谷区における地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み

世田谷区の目指す地域包括ケアシステムは、「福祉の相談窓口」と「参加と協働による地域づくり」を2本柱とし、対象を高齢者だけではなく、障害者や子育て家庭などすべての住民としている。この地域包括ケアシステムの構築に向けて、以下に取り組んだ。

① 地区版地域ケア会議の開催

介護予防ケアマネジメントの質の向上を目的とした会議Aを3回、支援の困難な事例等の検討を行う会議Bを3回開催した。開催にあたっては、住民や関係機関の協力を得ることができた。

② 地域版地域ケア会議・定例連携会議など機関間連携に関する会議体への参画

機関間連携を推進するため、他機関が開催する会議に出席し、それぞれ地域課題に取り組んだ。

きぬた地区社会福祉協議会では、老い支度講座（2回）、高齢者交流促進事業（2回）、70歳からの交流会（3回）の運営協力を行った。砧エリア自立支援協議会では、相談支援専門員と介護支援専門員の連携体制構築に向けて、勉強会の開催やリーフレットの作成を行った。

③ 在宅医療・介護連携推進の取り組み

a. 在宅療養相談窓口の設置

4月から窓口を設置し、区民や事業者等からの医療・介護相談に応じた。

b. 地区連携医事業の企画と実施

毎月1回、多職種連携推進を目的とした会議や対応困難な事例の検討などを行った。

c. 多職種による医療と介護・福祉の連携推進を目的とした会議などの開催

9月に医療と福祉 連携懇談会を開催し、101名の参加があった。

d. 在宅医療ミニ講座

きぬた地区社会福祉協議会との共催で、介護の体験談や地区連携医による講話を行い、地域住民18名の参加があった。

④ 「きぬた三者連携実施計画」の策定と実施

まちづくりセンター・社会福祉協議会との三者で「きぬた三者連携実施計画」を策定し、朝のあいさつ運動などを協働して実施した。

C 人材育成

C 1 人材育成

所内で事例検討会を1回、勉強会を2回開催した。外部研修に延べ29人が参加した。内訳は3(2)

職員研修の状況のとおり。

E その他

E 1 首都圏直下型地震などへの対策

① 地域の防災訓練や会議への参加

日	内 容	場 所
9/16	砧地区合同震災訓練、防災塾	日本大学商学部
11/6	砧町自治会防災研修会「安心トイレ」	砧町自治会館
1/25	防災訓練	砧まちづくりセンター
2/14	成城消防署住宅防火防災対策推進協議会	成城消防署

② B C P模擬訓練の実施と計画見直し

1 2 月に法人内高齢在宅部門合同で図上訓練を実施し、その結果をもとに B C P を見直した。

E 2 大蔵住宅への支援

建替事業が開始された大蔵住宅の住民に対して、重点的に支援を行った。

① 団地内転居した住民の実態把握

団地内転居した住民の実態把握を行い、転居の影響や困りごとを聞き取った。

② 「大蔵住宅の今後をみんなで考える会」「ひまわり喫茶」の運営に協力

住民主体で運営されるようになったため、社会福祉協議会などと連携して側面的に支援した。

3 運営管理

相談件数総数は 8086 件（月平均 674 件）で、前年度の 2 割増となった。そのうち相談対象拡充分（障害や生活困窮など高齢者以外の相談）は 82 件（月平均 6.8 件）で、約 1% である。

ケアプラン作成件数は、予防給付 971 件、ケアマネジメント A（原則的なケアマネジメント）1501 件、ケアマネジメント B（簡略化したケアマネジメント）15 件、ケアマネジメント C（初回のみのケアマネジメント）1 件であった。

認知症高齢者家族の会は「ほっとサロン砧」という名称がつき、出席者の希望により毎月開催するようになった。出席者のうち 2 名の方には、在宅医療ミニ講座で介護体験談を語っていただいた。例年開催している見守り交流会であるが、今年度は初めて対象を子どもから高齢者までとした。開催にあたっては、事前に山野児童館おやだぬきの会に 2 回出席して関係づくりを行った。

平成 30 年度の職員配置状況・職員研修の状況は次のとおりである。

(1) 職員配置状況

(平成 31 年 3 月 31 日現在 単位：人)

区 分	センター長	主任介護 支援専門員	保健師等	社会福祉士	介護支援 専門員	計
正規職員数	(1 ※)	1	2	3	1	7

0 内は兼務 ※主任介護支援専門員を兼務

(2) 職員研修の状況

研 修 名		参加職種	主 催	人員	実施月
所内	在宅医療相談窓口の開始について	全職種	-	7	4
	所内事例検討会	全職種	-	6	8
	虐待対応研修	全職種	-	4	11
内部	新入職員オリエンテーション	保健師等	教育委員会	1	4
	セルフケアセミナー	保健師等 社会福祉士	衛生委員会	4	11
外部	ケアマネジャー研修【新任1】	保健師等	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	4
	世田谷区保健福祉領域基本研修	保健師等	世田谷区	1	4
	平成30年度あんしんすこやかセンター新人研修	保健師等	世田谷区	1	5
	認知機能検査に係る説明会	社会福祉士	世田谷区医師会	1	6
	介護予防ケアマネジメント研修（新任）	保健師等	世田谷区	1	7
	若年性認知症の基礎知識とケア「もっと教えて！若年性認知症のこと」	社会福祉士	世田谷区認知症在宅生活サポート室	1	7
	ヤングケアラー支援者向けシンポジウム	介護支援専門員	世田谷区	1	7
	地域包括支援センター職員研修【主任ケアマネ】実践力UPのための事例検討会～事例検討会を通して、ファシリテーションの手法を学ぶ～	センター長 介護支援専門員	世田谷区福祉人材育成・研修センター	2	8
	世田谷区ケアマネジャー研修【リーダー1】「スーパービジョン」	センター長 介護支援専門員	世田谷区福祉人材育成・研修センター	2	9
	個人情報保護及びシステム操作研修	相談員	世田谷区	1	9
	東京メディエーションセンター事業説明会	社会福祉士	東京メディエーションセンター	1	9
	キャラバン・メイト養成研修	社会福祉士	世田谷区	1	11
	個人情報保護及びシステム操作研修	社会福祉士	世田谷区	1	11
	介護保険住宅改修講演会	保健師等	世田谷区	1	11
	高齢者の結核対策 ～対応と支援～	介護支援専門員	東京都	1	11
	砧総合支所健康づくり課 困難事例検討会 大人の発達障害「きほんの“き”」～依存症との関連を含めて～	保健師等	世田谷区	1	11
	地域包括支援センターの保健師・看護師研修 超高齢社会における介護予防の要点 ～地域の課題整理に向けて～	保健師等	世田谷区	2	11
	精神保健福祉研修「自殺に傾くところを読み取る」	社会福祉士	都立中部総合精神保健福祉センター	1	12
	精神保健福祉研修「精神保健福祉の動向を読み、今後の支援につなぐ」	社会福祉士	都立中部総合精神保健福祉センター	1	12
	自立支援・重度化防止に向けた介護支援専門員研修	センター長	東京都	1	12～2
	地域包括支援センター職員研修【社会福祉士】生活者としての『人』のとらえ方を深める～相談力UPを目指して エンパワメント・ストレングス・リカバリーの視点から～	社会福祉士	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	1
	世田谷区医師会「医療連携・福祉事業部講演会」	保健師等	世田谷区医師会	1	2
	精神障害の理解と支援～当事者と家族を支える支援者を目指して～	社会福祉士	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	2

	地域包括支援センター職員研修【管理者】 サービスの質を高める職場づくりを考える	センター長	世田谷区福祉人材 育成・研修センター	1	2
	多職種で学ぶ対人援助技術研修「障害の理解と コミュニケーション～大人の発達障害～」	社会福祉士	世田谷区福祉人材 育成・研修センター	1	3
	多様性を認め合いより良い支援を目指して ～性的マイノリティの理解のために～	保健師等	世田谷区福祉人材 育成・研修センター	1	3

4 利用者サービス

(1) いきいき講座開催状況

日	テ ー マ	講 師	場 所	備 考	人数
5/29	食べて元気になろう！ 【女性限定】	法人管理栄養士	本館1階第1多目的室		9
11/15	二子玉川公園まで一緒に散歩しませんか？	職員	二子玉川、多摩川河川敷、 二子玉川公園(帰真園)	喜多見あんしんすこやかセンターと合同開催	12
11/27	バランスの良い食事で 健康な生活を 【男性限定】	法人管理栄養士	本館1階第1多目的室		3

(2) 認知症サポーター養成講座開催状況

日	対 象	場 所	備 考	受講者数
11/19	タガヤセカフェ	タガヤセ大蔵		10
1/29	みずほ銀行祖師谷支店	みずほ銀行 祖師谷支店	祖師谷あんしんすこやかセンターと 合同開催	13

5 平成30年度事業計画の実施状況

区分 事項	概 要	実施予定 日・回数	実施結果	特記事項
(1) 運営管理 ① 会 議 ② 職員研修 ③ 健康管理	ア 職員会議 イ 業務調整会議 ウ ミーティング ア 外部研修 イ 内部研修(所内・法人内) ア 健康診断	毎月1回 毎月1回 毎 日 随 時 随 時 年1回	12回 12回 毎日 26回 5回 年1回	
(2) 支援業務 ① 包括的支援 事業	ア 介護予防ケアマネジメント業務 ・ケアマネジメントA ・ケアマネジメントB ・ケアマネジメントC イ 総合相談支援業務 ・実態把握 ・食のアセスメント ウ 権利擁護業務 エ 包括的継続的ケアマネジメント業務 オ 一般介護予防事業 ・いきいき講座 ・はつらつ介護予防講座 カ 認知症ケアの推進 ・認知症サポーター養成講座 ・認知症高齢者の家族の会	通 年 月120件 年22件 年2件 通 年 年1100件 年15件 通 年 通 年 通 年 年3回 年21回 通 年 年3回 年6回	通 年 月125件※ 年15件 年1件 通 年 年1127件 年15件 通 年 通 年 通 年 年3回 年21回 通 年 年2回 年12回	※平均値

	・認知症初期集中支援チーム事業 ・啓発型もの忘れチェック相談会	年 3 名	年 4 名	
	キ あんしん見守り事業	年 1 回	年 1 回	
	ク 住宅改修相談業務	通 年	通 年	
	ケ 福祉用具購入・貸与相談業務	通 年	通 年	
	コ 介護保険制度に関する相談・申請受付及び区保健福祉サービスの申請受付業務	通 年	通 年	
	サ 障害者、子育て家庭、生活困窮者等に係る相談支援業務	通 年	通 年	
	シ 災害対応	通 年	通 年	
	ス 会議開催業務			
	・地区版地域ケア会議（会議A）	3 事例	3 事例	
	・地区版地域ケア会議（会議B）	3 事例	3 事例	
	・地区版地域ケア会議（その他）	随 時	なし	
	セ 区等が開催する会議等の出席	通 年	通 年	
② 指定介護予防支援事業	ア 介護予防支援	月 63 件	月 81 件※	※平均値

(別表)

砦地域包括支援センター資料

1 相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	617	619	647	652	799	664	901	741	578	613	656	599	8086
内 相談拡充対象	0	4	8	4	7	4	5	8	7	9	19	7	82

2 ケアプラン作成件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
予防給付	71	77	78	78	84	78	81	79	86	87	84	88	971
内 再委託（再掲）	15	20	19	18	19	20	21	25	27	26	26	29	265
ケアマネジメントA	123	125	120	122	121	123	128	128	134	131	126	127	1508
内 再委託（再掲）	17	16	17	17	19	21	22	22	24	24	23	23	245
ケアマネジメントB	3	0	2	1	0	3	0	0	3	0	1	2	15
ケアマネジメントC	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

3 要支援・要介護認定申請受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	16	25	29	16	41	28	29	24	25	16	40	20	309
更新	19	22	29	6	17	32	24	21	25	23	9	13	240
区分変更	2	5	3	1	2	4	2	1	2	4	7	3	36

4 保健福祉サービス申請代行件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	7	5	5	5	17	4	14	10	5	11	12	6	101

5 食のアセスメント実施件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	2	0	0	2	1	0	2	1	4	0	3	0	15

6 会議開催件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
地区版地域ケア会議	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	6
地区包括ケア会議	2	2	1	3	1	2	1	2	1	2	1	2	20

7 ボランティア活動状況（実働数 単位：人）

見守りボランティア	7
介護予防ボランティア	1

2 第一作業所(友愛書房)

(身体障害者福祉法第22条の売店)

1. 平成30年度総括

本年度は、販売及び売掛等各月の売上額から、実際の各月の売上に該当する分の仕入れ額のみを割り出し、粗利を把握できるシステムを確立した。

2. 重点事項

- (1) 在庫の返品作業は、早めに作業し、今年度は例年よりも効率よく返品できた。
棚卸作業により気が付くことが多々あり、売れ筋の書籍等がどのくらい在庫としてあるか等、効率よく注文と返品をする様に心がけた。
- (2) 仕入価格の単価を細目にチェックし売価を見直した。従来、大量注文書籍等の割引率を10%にしていたが、利潤が少しでも得られるように仕入価格によって割引率を勘案し販売価格を変更した。
- (3) 店舗売上の向上に取り組んだが十分な結果は得られなかった。新規顧客の獲得はメール等の注文分では上向きであるので、今後は、メール等の注文で店頭に取りに来る顧客へのアピールなどの方法等を引き続き検討し、店舗売上の向上を図っていく。

三年間の売上推移

(単位：円)

年度／科目	来客数 人	店舗売上	定期購読	注文売上	合 計
平成 28 年度 (対前年度比)	5,876 ▲464	9,395,061 (▲497,467)	18,598,242 (▲257,991)	39,409,828 (1,437,340)	67,403,131 (681,882)
平成 29 年度 (対前年度比)	5,784 ▲ 92	8,923,104 (▲471,957)	18,971,716 (373,474)	38,404,152(▲1,005,676)	66,298,972 (▲1,104,159)
平成 30 年度 (対前年度比)	5,007 ▲777	8,443,573 (▲479,531)	18,837,323 (▲134,393)	46,695,155 (8,291,003)	73,976,051 (7,677,079)

3 砧介護保険サービス

(居宅介護支援事業)

1 平成30年度「重点計画事項」の実施状況

特定事業所加算取得に向け、「定例会議の開催」及び「研修への参加」を継続した。職員の増員については、7月に欠員が生じ翌月には補充が叶ったものの更なる人材確保は困難であり、達成できなかった。一方、職員の入れ替わりがありながらも情報共有や互いの業務進捗を積極的に確認することで組織内の連携強化に努めた。特に、砧地区の事例検討会、外部研修、医師や他職種との連携、介護支援専門員外部研修や自主勉強会等へ積極的に参加し、利用者及び利用者家族との具体的な対応スキル等について研鑽し合うことで業務の質を向上させることができた。

2 重点事項

方針管理書（計画・目標）の実施状況及び今後の課題

区分	施策 No	重点 施策	担 当	目標値に対する結果
A 経営 財務	1	特定事業所 加算取得に 向けての対 応	全 員	・ 人員体制の確立 ⇒採用活動を継続したが未達成 ・ 週1回の定期会議の開催 ⇒毎週火曜日に会議を開催。利用者様宅訪問などで開催できない場合以外、利用者情報や介護保険情報等の情報を共有した ・ 24時間体制の確保 ⇒特定事業所加算取得時点で実施予定とした ・ 地域包括支援センターとの連携 ⇒困難ケースや新規相談の積極的受入れを行う。また、困難事例について相談等を継続した ・ 運営基準減算、特定事業所集中減算の管理 ⇒毎月業務内容及び進捗状況を相互に確認した ・ 介護支援専門員実務研修の実習等の協力体制の確保 ⇒特定事業所加算取得時点で実施予定とし、実習生を受入れた場合の対応方法等の手順書作成は未実施となった
B 品質	1	介護保険制 度内容に即 した対応	全 員	・ サービス事業所との連携 ⇒居宅サービス計画書交付、サービス提供事業所からの個別サービス計画書交付依頼、随時情報共有を継続した
C 人材 育成	1	職員教育・ 研修	全 員 該当者	・ 新入介護支援専門員の業務習得 ⇒8月より1名入職、OJTにより業務習得を確認した ・ 研修計画の策定並びに参加 ⇒年間研修計画、個人の研修計画を策定し、毎月1回以上研修へ参加した 研修報告を定期会議にて実施した

《実施状況の評価》

A 経営財務

A1 特定事業所加算取得に必要とされる定例会議を毎月開催し、組織内の連携強化と個人のスキル向上へつなげることができた。人員体制については年度内の職員採用が困難であったため、その達成を次年度に持ち越すこととした。一方、減算や過誤請求は一切無く年度を終了することができた。

B 品質

B 1 サービス事業所との連携を強化するため、積極的に多職種との連絡会に参加して情報共有を行い、スムーズなサービス利用の提供につなげることができた。今年度も「砧地域ご近所フォーラム」の実行委員として参加し、地域の様々な社会資源として活動している団体とより積極的な交流を図り、相互の役割等について理解を深めることができた。

C 人材育成

C 1 7月に1名が退職し、8月より1名採用となり2名体制を維持することができた。年度内に増員を実現できなかったが、増員後は引き続き適切にOJTを実施し一連の業務が滞りなくできるように教育指導を強化することとした。研修については年間計画のとおり参加ができた。年間計画にない研修にも積極的に参加し、特に制度の動向や他事業所の情報を意識的に収集した。

3 運営管理

(1) 職員配置状況 平成31年3月31日現在 (単位：人)

		センター長	介護専門職員	事務員	計
現 員	専従職員	—	2	—	2
	併任職員	1	—	1	2
	計	1	2	1	4

(2) ケアプラン作成状況 (目標値は配置人員に伴う適性件数) (単位：上中段・件、下段・%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
実 績	79	75	78	73	65	67	67	73	79	78	70	75	879	73.3
目標値	78	78	78	78	65	67	69	71	73	75	77	78	887	73.9
達成率	101	96	100	93	100	100	97	102	108	104	90	96		98.9

(3) 要介護認定調査 (月次予定件数 6件) (単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
砧地区	6	6	5	1	2	3	5	6	2	6	6	6	54	4.5
区内他	0	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0	0	5	0.4
区外	1	2	0	0	1	1	1	1	0	0	2	4	13	1.1
合計	7	8	5	1	5	5	8	7	2	6	8	10	72	6.0

(4) 外部研修の状況

名 称	主 催	人 員	参加回数
砧地区包括ケア会議「事例検討会」	砧地域包括支援センター	2	年5回
砧地区他職種との懇談会	砧地域包括支援センター	2	年5回
世田谷区ケアマネ連絡会研修	世田谷区ケアマネ連絡会	2	年4回
世田谷区福祉人材センター研修	世田谷区福祉人材センター	1	年6回
制度の切れ目を埋めよう	砧自立支援協議会	1	年1回
介護支援専門員専門II	東京都	1	年5回

4 事業計画の実施状況

区分 事項	概 要	実施予定 日・回数	参加人員		備 考
			利用者	職 員	
(1)運営管理 ①会 議 ② 職員研修 ③ 健康管理	ア 職員会議 イ 業務調整会議 ウ 定期会議 外部研修 健康診断	毎月1回 毎月1回 毎週1回 随 時 年1回		全 員 全 員 全 員 全 員 全 員	法人内の情報共有 施設内業務検討・調整
(2)利用者サービス ①居宅介護支援 業務 ②認定調査	ア 居宅サービス計画の作成 イ 面接 ウ モニタリング エ サービス担当者会議 オ 事業者照会 要介護認定調査	通年 毎月1回 毎月1回 随時 通年	全 員 全 員 全 員 全 員	全 員 全 員 全 員 全 員 全 員	

(別表) 砦介護保険サービス資料 (平成31年3月31日現在)

1. 要介護度別利用者数 (年間延べ人数)

介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
人数 (件)	221	240	225	138	62	886
比率 (%)	24.9	27.1	25.4	15.6	7	100
	52		48			

2. 年齢別利用者数 (3月度分)

年齢	～64歳	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳～	計
人数 (件)	2	1	12	40	18	2	75
比率 (%)	2.7%	1.3%	16.0%	53.3%	24.0%	2.7%	100.0%

3. 住所地別利用者数 (3月度分)

住所	砦	大蔵	成城	岡本	船橋	喜多見	玉川	粕谷	桜丘	上祖師谷	計
人数 (件)	45	15	4	2	4	1	1	1	1	1	75
比率 (%)	60.0%	20.0%	5.3%	2.7%	5.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	100.0%

4. 新規利用者契約数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数 (件)	3	4	2	2	2	2	4	6	1	2	2	6	36

5. 新規相談依頼先 (件)

本人	1
家族	2
総合病院等 ※1	3

※1 東京医療センター、関東中央病院、日産厚生会玉川病院

診療所・クリニック	5
他居宅介護支援事業所	2
あんしんすこやかセンター※2	13
介護サービス事業所	0
友愛ホーム	10
計	36

※2 砧、祖師谷、成城、喜多見、用賀あんしんすこやかセンター

6. 契約終了利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数(件)	5	1	6	10	1	5	0	1	1	5	1	2	38

契約終了理由

本人希望	0
家族希望	0
入院	3
特別養護老人ホーム入所	7
介護老人保健施設入所	3
認知症対応型共同生活介護入所	0
特定施設入所者生活介護入所	2
他区・他市転居	3
あんしんすこやかセンターへ移行※3	2
他居宅介護支援事業所へ移行※4	14
死亡	4
計	38

※3 介護保険更新認定の結果、要支援判定となったことから移行

※4 ケアマネジャー退職に伴い受け入れ人数調整のため、他居宅介護支援事業所へ移行